

# 平成27年度民間社会福祉施設職員等海外研修・調査 実施要綱

## 1 目的

民間社会福祉施設等において利用者の処遇等に直接従事している介護職員、生活支援員、保育士等の中堅的職員及び施設長を諸外国へ派遣し、その国における施設サービス及び在宅サービスの内容、方法、技術等について実地に研修・調査（以下「研修」という。）を行い、もってわが国の民間社会福祉施設等における処遇及び施設運営等の向上に資することを目的とする。

## 2 実施団体

公益財団法人社会福祉振興・試験センター（以下「センター」という。）

## 3 研修実施国(都市)及び研修の内容

### (1) 民間社会福祉施設職員

#### ① ヨーロッパ班

##### ア 研修国(都市)

デンマーク(コペンハーゲン)

スウェーデン(ストックホルム)

##### イ 研修の内容

行政機関等において福祉行政の説明聴取、障害児・者福祉関係施設の利用者の処遇状況及び障害児・者のための処遇技術等

#### ② 北米班

##### ア 研修国(都市)

アメリカ(ニューヨーク、ロサンゼルス)

##### イ 研修の内容

行政機関等において福祉行政の説明聴取、高齢者福祉関係施設の利用者の処遇状況及び在宅高齢者のための処遇技術等

#### ③ オセアニア班

##### ア 研修国(都市)

オーストラリア(シドニー)

ニュージーランド(オークランド)

##### イ 研修の内容

行政機関等において福祉行政の説明聴取、高齢者福祉関係施設の利用者の処遇状況及び在宅高齢者のための処遇技術等

#### ④ 児童班

##### ア 研修国(都市)

デンマーク(ロスキルデ)

ドイツ(エアフルト)

##### イ 研修の内容

行政機関等において福祉行政の説明聴取、児童福祉関係施設の利用者の処遇状況及び処遇技術等

(2) 民間社会福祉施設長

ア 研修国（都市）

デンマーク（コペンハーゲン）

スウェーデン（ストックホルム）

イ 研修の内容

行政機関等において福祉行政の説明聴取、高齢者福祉関係施設の運営・利用者の処遇状況及び在宅高齢者のための処遇技術・施設運営等

4 研修・調査実施期間

(1) 民間社会福祉施設職員

① ヨーロッパ班

平成27年 9月 5日（土）～平成27年 9月19日（土）[15日間]

② 北米班

平成27年 9月26日（土）～平成27年10月10日（土）[15日間]

③ オセアニア班

平成27年 9月26日（土）～平成27年10月 8日（木）[13日間]

④ 児童班

平成27年 8月30日（日）～平成27年 9月11日（金）[13日間]

(2) 民間社会福祉施設長

平成27年 9月 1日（火）～平成27年 9月13日（日）[13日間]

5 派遣対象者

(1) 民間社会福祉施設職員

次の①から④に掲げる民間社会福祉施設等に勤務する介護職員、生活支援員、保育士、看護師等直接処遇職員（管理的業務を専任で行っている者を除く）で、平成27年9月1日現在当該施設において勤務年数5年以上（ただし、同一法人内での当該施設の異動は合算可）、年齢30歳以上55歳未満の者であって、過去においてセンターの海外研修に参加したことがない者で、かつ心身ともに健康で、協調性があり、研修期間中団体行動ができる者。

さらに、①～③は各所属施設長を経て各都道府県（一部社会福祉協議会による）、指定都市民生主管部（局）長から推薦された者で、④は各所属施設長を経て社会福祉法人日本保育協会（以下「日保協」という。）の長から推薦された者。

① ヨーロッパ班（各都道府県・指定都市からの推薦）

ア 障害者自立支援法、身体障害者福祉法及び知的障害者福祉法による障害者関係施設（障害者支援施設、障害福祉サービス事業を行う施設等）

イ 生活保護法による救護施設

ウ 児童福祉法による障害児関係施設（障害児入所施設等）

※ 精神障害者関係は対象外

② 北米班（各都道府県・指定都市からの推薦）

介護保険法及び老人福祉法による高齢者関係施設

- (指定介護老人福祉施設、介護老人保健施設、指定通所介護を行う施設等)
- ③ オセアニア班（各都道府県・指定都市からの推薦）  
介護保険法及び老人福祉法による高齢者関係施設  
(指定介護老人福祉施設、介護老人保健施設、指定通所介護を行う施設等)
- ④ 児童班（日保協からの推薦）  
民間の「保育所」等

(2) 民間社会福祉施設長（各都道府県・指定都市からの推薦）

平成27年9月1日現在、下記の民間社会福祉施設等で施設長として勤務し、年齢65歳未満の者であって、過去においてセンターの海外研修に参加したことのない者で、かつ心身ともに健康で、協調性があり、研修期間中団体行動ができ、各法人理事長等を経て各都道府県（一部社会福祉協議会による）、指定都市民生主管部（局）長から推薦された者

介護保険法及び老人福祉法による高齢者関係施設

(指定介護老人福祉施設、介護老人保健施設、指定通所介護を行う施設等)

※ 提出書類

- ア 平成27年度民間社会福祉施設職員等海外研修・調査 推薦回答書
- イ 平成27年度民間社会福祉施設職員等海外研修・調査 参加適格者推薦書（顔写真貼付。指定様式）
- ウ 所属長からの推薦書（指定様式）
- エ 健康診断書（1年以内の定期健康診断書等、コピー可）

6 研修の方法等

研修は、原則として1都市4～5日間とし、研修初日には現地における行政説明聴取、2日目以降は1日につき1～2か所で研修を行う。

なお、航空機はエコノミークラスを利用し、宿泊は2人1部屋とする。

7 募集方法

- (1) 民間社会福祉施設職員3班（ヨーロッパ班・北米班・オセアニア班）及び民間社会福祉施設長

センターから各都道府県、政令指定都市等へ推薦依頼し、各法人理事長等を経て各都道府県等からセンターへ推薦する。

- (2) 民間社会福祉施設職員児童班

センターから日保協へ推薦依頼し、各法人理事長等を経て日保協からセンターへ推薦する。

8 派遣団員の決定及び人員

派遣団員は、前記5により都道府県（一部社会福祉協議会による）、指定都市民生主管部（局）の長及び日保協の長より推薦された参加希望者の中から、センターにおいて別紙「民間社会福祉施設職員等海外研修・調査派遣者選考基準」により選考のうえ決定し、その結果を当該民生主管部（局）長、日保協及び各法人理事長等あて通知するものとする。

なお、派遣団員は民間社会福祉施設職員3班（ヨーロッパ班・北米班・オセアニア班）は各班13名、民間社会福祉施設長及び民間社会福祉施設職員児童班は11名とする。

## 9 参加費用

派遣団員は、この研修に要する費用のうち、次に掲げる費用を負担するものとする。支払い方法については派遣決定通知で案内する。

- (1) 1人 100,000円（民間社会福祉施設職員ヨーロッパ班、民間社会福祉施設職員北米班）  
1人 50,000円（民間社会福祉施設職員オセアニア班、民間社会福祉施設長、民間社会福祉施設職員児童班）

(2) パスポート発給に伴う費用

(3) 当研修に係る日本国内往復費用及び宿泊費用

(4) 海外旅行傷害保険料

センターにおいては、派遣団員の海外旅行傷害保険の付保は行わないので、各自の責任において海外旅行傷害保険に加入する。

(5) 個人的費用（飲料代、自由行動費、郵便電話料等）

(6) 結団式及びオリエンテーションに出席するための交通費等の費用

## 10 結団式及びオリエンテーションの開催

派遣団員に対しては、平成27年7月24日（金）に結団式及びオリエンテーションを開催し、海外研修に必要な事項の連絡及び渡航手続き等について説明等を行うものとする。派遣決定者はこれに出席することを条件とする。

## 11 報告書の提出

派遣団員は、研修した事項を報告書としてまとめ、指定する期日までにセンターに提出するものとする。

## 12 研修の成果について

派遣団員は、研修の成果について、所属施設並びに地域等において幅広く伝えるように努め、福祉サービス及び地域福祉活動の向上に寄与するものとする。

※ 提出された書類は一切返却しないものとする。

(別紙)

平成 27 年度 民間社会福祉施設職員等海外研修・調査  
派遣者選考基準

都道府県・政令指定都市等及び社会福祉法人日本保育協会からの推薦者に対し、海外研修の普及効果等を考慮の上、下記の基準項目により派遣者を選考することとする。

(選考の基準項目)

- ・ 実施要綱上の派遣対象者の条件を満たしている者
- ・ 各都道府県・政令指定都市を平準化させる
- ・ 過去派遣の少ない都道府県・政令指定都市を優先する
- ・ 過去 5 か年に派遣した同一法人からの申込者は劣後する
- ・ 推薦理由、資格及び経験年数等を考慮する

**平成27年度  
民間社会福祉施設職員等海外研修・調査  
(児童班)**

**日 程 表**

◇この日程は予定です◇

訪問する都市及び訪問先の施設等は予定であり、変更になることがあります。詳細な日程表（訪問先施設等を含む）は、派遣決定者へオリエンテーションの際にお知らせします。

平成27年度 民間社会福祉施設職員等海外研修・調査 日程表  
《児童班／児童福祉関係》

日次	月日	都市名	現地時間	交通機関	日程/概要	食事
1	8月30日 (日)	東京(成田)発 コペンハーゲン着	11:40 16:05	SK984	成田空港に集合、空路コペンハーゲンへ 所要時間:11時間40分 着後ホテルへ  (コペンハーゲン泊)	昼:機 夕:◎
2	8月31日 (月)	ロスキルデ	午前 午後	専用車	●ロスキルデ コミュニ(行政) ●ダオプライエン (保育ママのシステム利用の保育園)  (コペンハーゲン泊)	朝:◎ 昼:◎ 夕:◎
3	9月1日 (火)	ロスキルデ	午前 午後	専用車	●ポーネフセット(森の保育園) ●ポーネフセット ヘーネン (レジヨエミリア方式の保育園)  (コペンハーゲン泊)	朝:◎ 昼:◎ 夕:◎
4	9月2日 (水)	ロスキルデ	午前	専用車	●ポーネフセット スコウモーセン (ロスキルデ市営乳児園で保育研修) ※野外保育の体験 ※施設職員と意見交換会  (コペンハーゲン泊)	朝:◎ 昼:◎ 夕:◎
5	9月3日 (木)	コペンハーゲン		専用車	午前:コペンハーゲン市内文化施設視察 午後:資料整理  (コペンハーゲン泊)	朝:◎ 昼:◎ 夕:◎
6	9月4日 (金)	コペンハーゲン発 フランクフルト着	10:05 11:35	SK1637  専用車 (174km)	午前:空路フランクフルトへ 所要時間:1時間30分 着後ワイマールへ  (ワイマール泊)	朝:◎ 昼:◎ 夕:◎
7	9月5日 (土)	ワイマール クヴェトリンブルク ライプツィイ ワイマール		専用車	終日:ゲーテ街道文化施設視察 文化施設視察  (ワイマール泊)	朝:◎ 昼:◎ 夕:◎
8	9月6日 (日)	ワイマール ドレスデン マイセン ワイマール		専用車	終日:ゲーテ街道文化施設視察  (ワイマール泊)	朝:◎ 昼:◎ 夕:◎
9	9月7日 (月)	エアフルト	午前 午後	専用車	●エアフルト市青少年局子供および青少年支援部(行政) ●オーガスタヴィクトリアアベン(高齢者共存保育所) ※施設職員と意見交換会  (ワイマール泊)	朝:◎ 昼:◎ 夕:◎
10	9月8日 (火)	エアフルト	午前 午後	専用車	●フリードリッヒ・フレーベル保育所 (フレーベル教育の保育所) ●シュメッターリング(障害児統合保育所)  (ワイマール泊)	朝:◎ 昼:◎ 夕:◎
11	9月9日 (水)	ワイマール フランクフルト	午前	専用車 (174km)	午前:専用車にてフランクフルトへ 午後:資料整理  (フランクフルト泊)	朝:◎ 昼:◎ 夕:◎
12	9月10日 (木)	フランクフルト コペンハーゲン コペンハーゲン発	12:20:発 13:40着 15:45発	SK1638  SK983	出発まで自由視察 空路帰国の途へ 所要時間:1時間20分 所要時間:10時間50分  (機内泊)	朝:◎ 昼:機 夕:機
13	9月11日 (金)	成田着	9:35着		着後:入国手続き後 解散	朝:機

※利用予定航空会社: SK/スカンジナビア航空

平成27年度民間社会福祉施設職員等海外研修・調査 所属長からの推薦書

		作成日	平成27年	月	日
施設名 及び所在地 (法人名も記入すること)	〒				
代表者 (役職・氏名)	<div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; width: fit-content; margin: 0 auto;">職印</div>				
電話番号					

標記海外研修・調査の参加について、以下の者を推薦します。

フリガナ					
氏名					
所属施設名					
現施設の 採用年月	昭和	年	月	※ 現施設の勤務年数が5年未満の場合は、 同一法人における採用年月を記入	
職種	(例: 介護職員、生活支援員等)				
役職	(例: 主任、ユニットリーダー等)				
推薦理由  (欄に収まらない場合は、 別紙添付可)					

《作成上の注意》

- ① 申込者1名につき、1枚作成する。
- ② 証明者は、原則として「所属施設長」が行う。  
ただし、「施設長班」申込者本人が「施設長」の場合は、自己証明ではなく、同等以上の役職の方が証明する。

⑤ 児童班

月日(曜日)	発着地・滞在地	時間	交通機関	研修・調査施設等	摘要
8月30日(日)	東京(成田)発 コペンハーゲン着	11:40 16:05	SK-984 専用車	成田空港に集合。空路コペンハーゲンへ 【所要時間:11時間25分】 着後、ホテルへ	コペンハーゲン泊
8月31日(月)	ロスキルデ・ コペンハーゲン滞在	午前  午後	専用車	●ロスキルデ・コミュニケーション (行政機関) ●ボネフセット・ヘーネン (レジョ・エミリア方式総合乳幼児園) ◎施設職員との意見交換会 ●ボネフセット・トルホイ (スポーツ総合乳幼児園)	コペンハーゲン泊
9月1日(火)	ロスキルデ・ コペンハーゲン滞在	終日	専用車	●ライストウエン・ミニボ (デイサービス・保育ママの共同保育施設) ◎施設職員との意見交換会	コペンハーゲン泊
9月2日(水)	ロスキルデ・ コペンハーゲン滞在	終日	専用車	●ボネフス・メリタ (森の保育園) ◎野外保育の体験	コペンハーゲン泊
9月3日(木)	コペンハーゲン滞在	午前 午後	専用車	コペンハーゲン市内文化施設視察 資料整理	コペンハーゲン泊
9月4日(金)	コペンハーゲン発 フランクフルト着 ワイマール着	10:05 11:35	SK-1637 専用車 (174km)	空路、フランクフルトへ【所要時間:1時間30分】 着後、ワイマールへ【所要時間:約2時間】	ワイマール泊
9月5日(土)	ワイマール発 クヴェトリンブルク発 ライプツィイ発 ワイマール着	終日	専用車	ゲーテ街道文化施設視察	ワイマール泊
9月6日(日)	ワイマール発 ドレスデン発 ワイマール着	終日	専用車	ゲーテ街道文化施設視察	ワイマール泊
9月7日(月)	ワイマール・ エアフルト滞在	午前 午後	専用車	●ロイバーランド保育園 (エアフルト市青少年局担当者より行政説明) ●キンダーシュタット・フリードリッヒ・フレーベル保育所 (フレーベル教育の保育所)	ワイマール泊
9月8日(火)	ワイマール・ エアフルト滞在	午前 午後	専用車	●シュメッターリング (障害児統合保育所) ◎施設職員との意見交換会 ●アウグスタ・ヴィクトリアアペン (高齢者共存保育所)	ワイマール泊
9月9日(水)	ワイマール発 フランクフルト着	午前 午後	専用車 (174km)	フランクフルトへ【所要時間:約2時間】 資料整理	フランクフルト泊
9月10日(木)	フランクフルト発 コペンハーゲン着 コペンハーゲン発	12:20 13:40 15:45	SK-1638  SK-983	出発まで自由視察 空路、コペンハーゲンへ【所要時間:1時間20分】 コペンハーゲン乗り継ぎ帰国の途へ 【所要時間:10時間50分】	機 中 泊
9月11日(金)	東京(成田)着	9:35		帰国手続き後、解散	



## 4 海外研修・調査報告に寄せて

(5) 児童班

団 長 高 橋 紘  
副団長 関 屋 義 和

平成27年度民間社会福祉施設職員等海外研修・調査派遣団児童班の13名は平成27年8月30日（日）から9月11日（金）までの13日間にわたり、ドイツのエアフルトおよびデンマークのロスキルデにおける市役所・保育施設の視察を行い、保育サービスや保育内容について学び、知識や見聞を広めた。

特に最近の日本においては、平成24年8月に子ども子育て支援関連法が成立し平成27年4月から施行され幼保連携型認定こども園への移行が進められていることから、諸国においてどのような保育制度が進められているか、保育内容や保育の現状を把握することなど、それぞれの思いを持って研修をスタートさせた。

### 1 問題意識

わが国の保育所は、数度にわたる制度改革により女性の就労と育児の両立を支援する保育施設としての役割と、就学前教育の場としての役割を併せ持つ性格を持っている。教育基本法の改訂による位置づけや、「就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律」（平成18年6月15日法律第77号）により、設定された「認定こども園」が就学前教育施設として位置づけられ、保育所からの移行も勧められており、既設の認可保育所の動向が注目されている。

少子高齢化が進み、労働力人口の減少への対策として、女性の社会進出を促進しようという施策が進められており、就業率が徐々に高くなりつつある。女性就労率の高い東部ドイツ、デンマークにおいてはワーク・ライフ・バランスの点でも保育園が行政施策の中にどのように位置づけられているか、関心のあるところである。

このように、就学前教育と少子化対策の両面で保育園の存在がますます重要視されている中で、子どもの最善の利益を考える保育関係者にとって、保育の目標、環境、保育内容がどのように展開されているか把握したい。

研修・調査先の詳細な報告は、参加した団員がそれぞれ分担し、報告をする。主催者から準備していただいた資料で各自事前学習をし、両国の保育制度の概略について共通の予備知識を持つことができた。（後に示す）

### 2 研修国および都市

- (1) デンマーク（シェラン・レギオン（州）にあるロスキルデ・コミュニオン（市）。なお、ロスキルデ（Roskilde）は旅行ガイドブック等でロスキレ（[ʁaskilə]）と表記されている場合が多いが、今回はロスキルデとする。）

## (2) ドイツ（テューリンゲン自由州エアフルト市）

両研修先に共通する点としては、女性の就業率が高く、幼保一体型の保育園が多く、レッジョ・エミリア等特徴のある保育方法を認めているという点で、今後のわが国の保育事業を展開する上で参考になると思われる。

## 3 派遣団員の構成

団員の構成は国内の保育所で勤務している保育所の保育士で、平成27年9月1日現在保育所において勤務年数5年以上で、年齢30歳以上55歳未満であって、過去においてセンターの海外研修に参加したことのない者であること。かつ心身ともに健康で、協調性があり団体行動ができる者で、各所属施設長を経て社会福祉法人日本保育協会の長から推進された者11名が参加した。

## 4 調査・研修方法

### (1) 事前準備：資料で現地の予備知識を学ぶ。

主催者の準備文献等は以下のとおりである。

#### 《デンマーク資料》

- OECD 保育白書 人生の始まりこそ力強く：乳幼児期の教育とケア（ECEC）の国際比較（2013年3月 榊明石書店）
- デンマークの豊かさ～教育の意義とは～（京都産業大学 文化学部 国際文化学科 水谷有希）
- 環境教育センター第1回講演会（Mカフェ1）報告 世界一幸せな国デンマークの教育に学ぶ（南九州大学 磯部英良 加藤幸夫）

#### 《ドイツ資料》

- 世界の社会福祉年鑑（2014 榊旬報社）
- OECD保育白書 人生の始まりこそ力強く：乳幼児期の教育とケア（ECEC）の国際比較（2013年3月 榊明石書店）
- 世界の幼児教育・保育改革と学力  
PISA ショックに見る保育の学校化「境界線」を越える試み 小玉亮子・御茶ノ水女子大学  
（2009年6月発行 榊明石書店）
- ドイツの保育制度―拡充の歩みと展望― 齋藤純子 国立国会図書館調査及び立法考査局

#### 《日本の保育資料》

- 世界の幼児教育・保育改革と学力 汐見稔幸・白梅学園大学（2009年6月発行 榊明石書店）
- 平成26年度民間社会福祉施設職員等海外研修・調査事業報告書（2015年3月 公益財団法人社会福祉振興・試験センター）

### (2) オリエンテーション

団長と副団長を除いた団員11名を4班に分け、各班に班長を決め、調査方法について協議した。

（A班3名、B班3名、C班3名、D班2名、班員名は各報告書（後記）に記載。）

訪問視察先は当初予定では9か所（行政機関2か所、保育施設7か所）であり、視察先ごとに報告書作成担当班を割り当て、報告作成担当者を定めた。なお、実際にはエアフルト市青少年局の行政説明は、市役所ではなく、当局が用意したロイバーランド保育園で当施設の見学も兼ねて実施した。

保育施設等を訪問した際は、報告者作成担当者が主に質疑等を行い、他の班員が補う方法で研修・調査を行うことにした。

## 5 研修状況

視察先はデンマークでは6か所（行政機関、保育所4か所、デイサービス・家庭保育各1か所）、ドイツでは4か所の保育施設を訪問した。

### (1) デンマーク 「ロスキルデ・コミュニン」

- ① ロスキルデ・コミュニン児童福祉課
- ② ボーネフセット・ヘーネン（レッジョ・エミリア方式総合乳幼児園）  
昼食をとりながら当施設職員と意見交換会
- ③ ボーネフセット・トロルホイ（スポーツ総合乳幼児園）
- ④ ライストゥエン・ミニボ（デイサービス・保育ママの共同保育施設）  
昼食を取りながら当施設職員と意見交換会
- ⑤ ダオプライエン（保育ママシステム）
- ⑥ ボーネフス・メリタ（森の保育園）

### (2) ドイツ 「エアフルト市」

- ① ロイバーランド保育園（レッジョ・エミリア方式保育）  
エアフルト市青少年局子どもおよび青少年支援部（行政）担当者が帯同し、保育行政に関する講義および質疑応答も行う。
- ② キンダーシュタッテ・フリードリヒ・フレーベル（フレーベル教育の保育所）
- ③ シュメッターリング（障害児統合保育所）  
当施設職員と意見交換会
- ④ アウグスタ・ヴィクトリアアペン（高齢者共存保育所）

## 6 訪問国の概要

### (1) デンマーク（OECD 白書より）

- ① 総面積 約45万 km<sup>2</sup>
- ② 人口 約540万人 出生率：1.76%
- ③ 首都 コペンハーゲン（人口約58万人）
- ④ GDP 1人当たり2万9,200ドル
- ⑤ 女性の労働力参加率 76.1%、パートタイム雇用は24.3%（2004年）
- ⑥ 子どもを持つ女性の労働力参加率  
3歳未満の子どもがいる母親の参加率は約70%、3～7歳の子どもがいる女性では80%。6歳未満

の子どもがいる母親の平均就労率は74%で、そのうちパートタイム就労率は5%。

⑦ 主要なサービスの種類と機関

6か月から6歳までのデイケア施設は、家庭的保育と施設型デイケア（保育所、幼稚園、異年齢統合施設）に分けられる。

⑧ 認可サービスの利用率

0～1歳は12%、1～2歳は83%、3～5歳は94%。（2004年）

⑨ 主要職員の専門職資格

保育サービスの施設には、すべて有資格教育者の管理運営者および運営者代理がいる。有資格職員はペタゴと呼ばれ、高等専門職養成カレッジで3年半のコースを修了している。チャイルドケア補助員は中等職業教育を受けている。

⑩ ECEC サービス施設職員の60%は有資格職員である。

⑪ 所轄官庁

デンマークの保育制度は、1998年の社会サービス法に沿って作られている。

この法律によると、0～6歳の子どもへのサービスは総合的な社会福祉システムの一部とみなされている。就学前機関には保育園、幼稚園が有り、それを拡大した0～6歳の統合サービスも有る。0～3歳の選択肢には公立の家庭的保育が有る。

就学前機関は教育的目的、社会的目的、および養護的目的を有している。教育的目的には養護と保護、子どもへの遊びと学習の機会の保障、子どもの想像力・創造性・言語発達の促進であり、要するに子どもに安全で良好な子ども時代を保障することである、とされている。

チャイルドケア施設の国レベルの監督官庁は、家庭消費者省 (Ministry of Family and Consumer Affairs) である。この領域の施策の責任を担い、認可基準や財政支出等の原則的事項を監督している。

しかし、直接的な管理責任は地方自治体（コミューン）で、資金供与を行って、親の要求に応えたサービスを作りあげること、地域のサービスの質と教育内容を監督すること、職員の適切な配置と十分なサポートを行うことなどについての責任を持っている。

⑫ 社会背景

このデンマークの保育・教育サービスの目的は、親が安心して子育てと就労または就学を両立できるようにすることと、児童の発達と学習を支援・促進し、本人にとって最適の環境で児童が成長できるようにすることである。そして、日本の保育所保育と同じように1日を通して保育・教育がなされている。

基礎学校では、児童に生きる意欲と知識・技能を与えるとともに、好奇心と自尊心と創造力を育むことを目的としている。

⑬ 児童保育・教育施設の種類

児童保育・教育施設の種類には5種類ある。

i ダオブライエン（保育ママシステム＝家庭的デイケア）

自治体が雇用する保育者が自分の家を家庭的保育場所として乳幼児に保育サービスを提供する。

ライストゥエン ミニボのように、いくつかの保育ママが週に何回か共同で公設のデイケア施設を利用できる。

ii 保育園

対象児は6か月から5歳児の幼児。(全ての親が有給の育児休暇を取るため、6か月未満児の保育は実施していない。)

平日の日中のみ開所(午前6時から午後5時の開所が多い)。

iii 幼稚園

日中、保護者が家にいる就学前児童を対象とする教育施設。

iv 異年齢統合施設

保育園・幼稚園を統合した施設。

v 余暇時間施設・自由時間施設

学校の放課後、6～10歳の子どもが利用。

(2) ドイツ 正式名称 ドイツ連邦共和国 (Bundesrepublik Deutschland)

16州による連邦共和制。(旧西独10州、旧東独5州およびベルリン州。)

- |            |                           |
|------------|---------------------------|
| ① 総面積      | 357,021km <sup>2</sup>    |
| ② 人口       | 約8,110万人(2014年) 出生率:1.38% |
| ③ 人口密度     | 225人/Km <sup>2</sup>      |
| ④ 首都       | ベルリン                      |
| ⑤ GDP      | 1人当たり39,058ドル (2012 IMF)  |
| ⑥ 保育園・幼稚園数 | 53,415園(ニュースダイジェスト・今井民子)  |
| ⑦ 新生児出生数   | 71万5千人(2014年・ニュースダイジェスト)  |

ドイツ連邦共和国の保育制度は、児童青少年援助法のもとに、主として青少年・家族・女性・福祉関係省が所管している。女性の就業率が高く、就学前の保育制度が整っていた旧東ドイツ地域と、女性の就業率が低く、3歳未満の保育制度がわずかしかなかった旧西ドイツ地域と、保育環境はたいへん異なっていた。1990年に統一後、保育制度も他の制度同様に旧西ドイツに合わせる方向へと進められたが、EU内でも出生率が最も低いグループに属してきたドイツでは、現在は幼児教育・保育制度も少子化対策として位置づけられ、さらに、女性の就労を支援する意味でも、保育制度の拡充政策が強力に進められている。

保育制度としては、主として、3歳までの保育園(Kinderkrippe)に、3歳からの幼稚園(Kindergarten)就学段階の学童保育(Hort)があったが、近年、KITA(Kindertagesstätte)と呼ばれる、保育園、幼稚園、学童保育の一体化された保育施設が、大都会中心に広まっている。

旧西ドイツの保育施設には伝統的に公立よりも私立の方が多く、私立約70%、公立約30%であったが、旧東ドイツではほとんどが公立であった。

今回視察したのは、旧東ドイツの行政区エアフルト(Erfurt)市にある保育園で、エアフルト市はチューリンゲン自由州の州都であり最大都市(人口204,994人=2010年12月31日現在)、ドイツ

の首都ベルリンから南西へ237kmの場所に位置している。旧西ドイツに比べ、旧東ドイツでは保育政策を進めてきたことから、保育政策が進んでいるのではないかと期待して視察に入った。

## 7 視察研修状況

研修中の13日間は天候にも恵まれ、各国の行政関係、保育施設、文化施設の視察・研修も順調になされた。

特に、デンマークのロスキルデにおいては、日本人が視察に来たということで市をあげて歓迎され、市の広報部が視察先の保育園に写真を撮りに来た。庁舎内での保育行政の説明を聞き、職員食堂で一緒に食事をさせていただき、各人に市名の入ったトートバック、事務用品等をお土産に頂いた。

当市の保育関連の制度はシェラン・レギオン（州）で規定されている制度に従い進めているが、保育関連の職員の給与・待遇は民間保育施設も公立保育施設と同等である。保育施設・設備においても公費は多く支出されていた。

どの保育園も園庭は広く、各保育園の保護者も参加する運営組織で定める保育・教育目標に従い、コーナーが作られ、遊具や設備が配置されているなど、環境構成が良くなされている保育施設が多く見られた。

遊びの中から自立心が育つという考えから、屋外の遊びを大切にしている。だから園庭が広いのか、降水量が少なく雨天でも子どもは長靴・レインコートを着用して屋外で遊ぶ。冬季も綿入れの防寒服を着て、外遊びをする。子どものロッカールームには長靴・レインコート・防寒着がセットされていた。

9月5日（金）から9月7日（日）の文化施設視察はワイマール・ドレスデン、クヴェトリンブルク、ライプツィヒ、デンマークのコペンハーゲンであった。

9月8日（月）からはドイツ・エアフルトの行政説明を受け、保育施設について視察・研修を行った。

視察の視点は無意識のうちにわが国の制度との比較において見ようとしがちである。わが国において保育園は幼稚園と比較されながら制度的にも現場でも度重なる保育所保育指針の改訂等により就学前教育の内容を充実させてきており、保育所保育指針の改訂を機に小学校との連携も進められ、教育面が重視されてきているが、ドイツでもデンマークでも同様な施策が進められていた。

2000年にOECD 31か国でPISA（学習到達度調査）を実施したが、その結果はドイツおよびデンマークに共通した「ショック」を与えた。PISAは①読解リテラシー、②数学的リテラシー、③科学的リテラシーを調査したものだが、ドイツは①21位、②20位、③13位、デンマークは①16位、②12位、③22位と平均を下回る結果であった。ドイツでは学習能力が就学前教育との関連において論ぜられ、2001年12月に教育改革に向けて、7つの行動プログラムが示されたが、いずれも就学前教育と関連

がある内容であった。

エアフルトは就学前教育に力を入れている感じであった。

毎月2回発行されている現地の日本人向け情報誌「ドイツニュースダイジェスト」1009号を見る機会を得たが、「新生児出生が前年に比べ3万3千人（4.8%）増の71万5千人と10年ぶりに70万人を超え、保育園を拡充。」（今井民子氏）1008号ではミュンヘン経済研究所の情報として「保育園の増設は家族政策にとどまらず、国民経済に多大な影響を及ぼしていることを指摘。子どもを保育園に預ける割合が高い地域では、出生率が上昇することが明らかになっている。」と報じている。

わが国の特殊合計出生率は1.26(2005年)～1.41(2012年)まで上昇したが、先進国の中でも低い水準である。このまま上昇傾向が続くかどうか不明である。出生数の減少は続いている。(25年少子化対策会議)

わが国においても、少子化対策の中心に待機児童解消加速化プラン等保育園の拡充が挙げられている。

両市の視察で一番感じたのは、子ども主体で制度が動いているという点である。職員が子どもと過ごす時間を大切に、書類が少なく記録整理に費やす時間は少ない。まして書類の持ち帰りなど皆無であるという。視察したすべての保育園で異口同音に聞かれたことである。

開園時間は基本的には早朝6時から夕方5時まで、遅くても6時と言う。

「父親の3人に1人が「子どもと過ごす時間をもっと」と望んでおり、仕事をしている父親の2人に1人が「子どものために仕事の時間を減らしたい」と願っていることが、連邦家庭省の調査で明らかになった。(2012～13年に5,000世帯以上を対象に調査)。という記事も有る。

双方とも子どもの幼児教育・保育に力を入れ、保育施設の内外（施設、園庭）の環境構成が大変すばらしく、日本の保育所においても学ぶべき点が多く見られた。このことは団員も同じ思いを持ったと思われる。

## おわりに

最後に、この研修で得られた知識、体験等を日々の保育に役立て、職場だけでなく、各市町村の保育関係者に広げていただくとともに子どもの幸せを追い求める団員に心から敬意を表したい。また、団長・副団長としてこの機会に携われたことに深く感謝を申し上げたい。

本文作成にあたり、前述の事前資料を活用させていただいた。



8月31日（月）

Roskilde Kommune  
(ロスキルデ・コミュン児童福祉課／行政機関)

所在地：Rådhusben 1, 4000 Roskilde

説明者：Ms. Helle Mitzi Christiansen／ヘレ・ミツイ・クリスチャンセン(デイケア保育開発コンサルタント)

報 告 者：野田 泉子、柁島 たまこ

作成担当グループ：岩本 久美子、野田 泉子、柁島 たまこ

### I デンマーク概要（訪問先 ロスキルデ市）

国の人口約530万人、面積約4.3万 km<sup>2</sup>で、日本の九州とほぼ同じ面積である。北歐4か国の中で一番小さな国ではあるが、国民の自国の経済、福祉の満足度は高い。

ロスキルデ市の人口83,554人、6歳未満人口5,529人である。

### II デイケア法

国の児童青少年統合省で、保育の法律となるデイケア法が定められている。これは保育のみにとどまらず、学校の法律と関係して学童や学童以上のクラブと呼ばれる学校活動と関係している。

#### 【デイケア法4つの目標】

- 1 児童の幸福発展をデイケア活動で実現する。
- 2 その実現は公共施設および自宅でも行われること。
- 3 負の社会的遺産を防ぐこと。（発達障害の阻害となるものを除き、補われること。）
- 4 デイケアサービスは施設から施設・学校への移行がスムーズに行われること。

その実践は、父兄と協力して児童の幸福と発展を推進され、児童自らの活動とベダゴの教育的活動でなされている。

### III デイケア概要

ロスキルデ市では現在、6歳未満人口5,529人の84パーセントがデイケアを利用している。行政は市民が社会で働ける環境を構築するために福祉施設を充実させている。

- ・乳幼児保育所 ・保育ママ制度 （対象年齢6か月から3歳）
- ・幼稚園 （対象年齢3～6歳）
- ・統合保育所 （対象年齢0～6歳）

いずれの施設も、子どもの知的能力と社会性を高めることを目指している。

保育費用は自治体によって多少異なるが、保育園と幼稚園にかかる費用はそれぞれ約3,370、2,370クローネ（2015年9月現在 1DKK=17円）である。兄弟が保育施設を利用すると割引を受けることができる。また低所得者を対象とした割引制度も設けられている。

市内の全施設数50～60のうち、私立施設は5軒ある。

保育はペダゴギーと呼ばれる専門教育者が主となって計画し、補助者とともに保育にあたる。保育者の配置基準は0～3歳6人に対し保育者1人、3～6歳15人に対し2人となっているが、活動によってその人数は変化する。時間帯によって保育者が手薄な時があるので改善してほしいという意見があるが、財政圧迫になるという問題が出てきているとのことだった。

#### IV デイケアの運営と目標と実践

保護者と協力し、児童の幸福・発展を実践している。事実、市では父兄とペダゴギーとの理事会において運営を決めている。

保育の目標は、学習ではなく遊びを通して好奇心を高めながら児童の社会的な発達へとつなげることである。

実践では子どもに自己決定させることを毎日の活動を通して知らせ、ペダゴギーは一人ひとりの意見を聞き入れながら活動に入る。なお、一般的な幼稚園では頻繁に森へ出かけて行き、自然の中で過ごすようにしている。そうすることで、脳の発達を促す。自由に遊ぶということは、子どもたちが自己決定の後、挑戦により失敗と成功の経験を重ね、目標に対する今の自分の限界を知る上でとても良いとされている。そこにはペダゴギーの指示はなく、ペダゴギーは子どもの発達を見極めて、その子が目標を達成するために必要なものを準備したり、提案をしたり、支援をする役割を持つ。こうした実践は子どもたちにとって、自分の意見を受け入れられること、自分の意思を表現できることとなり、他人を認めることにもつながっていく。

#### V 国の教育プラン

全ての幼稚園のレベルを上げ、質の均一化を図ることをねらいとして策定された。その中には日本にはない教育内容がある。それは、移民の子どもたちと一緒に教育することで子どもたちにとって世界にはさまざまな人がいるのだということ、自己形成の段階から学ぶことができる教育を意識していることである。

【教育目的6つのテーマ（2004年設定）】

- 1 全般的な幼児一人ひとりの発達
- 2 社会性
- 3 言葉
- 4 身体と運動
- 5 自然と環境
- 6 文化的表現と価値

ただし、その実践内容は各自治体に決定権があり、ロスキルデ市では学校のような学習ではなく遊びを通じて学ぶことを大切にしたいと意識しているが、その実践方法については社会全体でどのようにするべきか社会的話題になっている。



ロスキルデ市役所



中央 ヘレ氏

## VI 保育カリキュラム

保育現場では、国の教育プランの6つのテーマについて計画レポートを市に提出する義務があり、0～2歳、3～6歳を一くくりとして作成する。ポイントは児童の年齢に合ったものかがはっきりと記載されていなくてはならない。また、そのカリキュラムについての達成がなされているかの振り返りも必要となる。達成は1回のみ確認がなされ、その結果をチェックポイントに記載し、2年に1度計画の評価を市とともにするが、日本のように毎年の書類の提出はない。（※職員が変わった場合や、計画と子どもの成長のずれが明らかであった場合は書き換えることもある。）中には障がいや家庭の事情による特別なニーズのある児童の計画もある。いずれにしても子どもの視点から、児童のために優れた環境を設定するかを市と保護者とペダゴギーの三者で話し合うことが当然となっている。

特にロスキルデ市では、独自でロスキルモデルという保育モデルを策定している。それは、社会的弱者（特別なニーズのある児童）にできることを児童心理学者・ソーシャルワーカー・ペダゴギーと共に対応していくものである。

また、全般的に市議会との連携の下、デイケア施設と市の担当者が共同して子どもに関わる各種専門家の手を借りて共に話し合い、計画書に目を通す。さらに訪問調査などを行い、教育目標の6つのテーマに沿っているか1年に1度チェックされる。

このように、一つ一つの施設ごとにそこに通う児童の様子から、児童と職員が向上するために何が必要かということに重点を置き福祉が進められている。

## VII 2年間の教育プロジェクト

ロスキルデ市全体のデイケア施設で市と共同して「発達と安心感」をテーマに、2年間の教育プロジェクトに取り組んでいる。

1年目・・・①発達と学習・身体（発達と安心感）を学ぶ1週間の教育コースを受講する。

※職員同士で出勤を補いながら、全職員が学べるようにする。

②他施設の職員間で何を学んだのか意見交換をする。

2年目・・・ペタゴリーダーも話し合いに参加し、これからどのように進め継続していくかという

（現在） 最終目標を決める3日間のコースを受講する。

このプロジェクト以外にも職後教育のコースは随時あるが、全員が受講できるわけではない。

## 所 感

ロスキルデ市では、行政とデイケア施設が一体となって子どもの保育に携わっていることがひしひしと感じられた。また、施設の運営には保護者も関わり、子どものよりよい成長のために意見し共同していると聞いた。福祉の満足度が高い理由はそこにあるのだろうと思われ、日本はもっと子どもを中心に考える福祉に転換されていかなければならないと強く意識させられた。

日本も福祉先進国の欧米から視察されるような、行政、施設、保護者と協力した誇れる保育を行えればと切に思う。



市の職員の方々と使節団員全員で撮影

8月31日（月）

## Børnehuset Hanen

（ボーネフセット・ヘーネン／レッジョ・エミリア方式総合乳幼児園）

所在地：Ravnsholt 236, 4000 Roskilde

説明者：Charlotte Sonderhave／シャルロッテ・ソナヘーヴェ（園長）

報 告 者：高木 麻里

作成担当グループ：内山 奈々、青柳 治美、高木 麻里

### I 施設概要

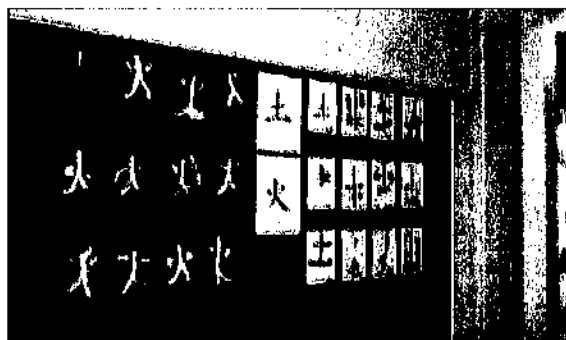
1 沿革 1987年開園

2 運営主体 デンマーク ロスキルデ市

#### 3 基本理念

「共に過ごす」ということを重要と考え、園児、ペダゴギー、ヘルパー、皆が、園生活を

「共有」すること。好奇心旺盛な子どもたちの育ちと、自分の創造力を表現する力を育む。



それぞれの年齢で歓迎の作品が飾られていた壁面

#### 4 保育年齢

0歳～3歳まで24名 3歳～6歳まで64名 計88名

#### 5 職員

園長 1名 Charlotte Sonderhave

ペダゴギー 7名 ペダゴギーヘルパー 6名

厨房 1名 厨房ヘルパー 1名

6 保育日と保育時間 月～金 6時30分～17時05分（金曜のみ：16時40分）

#### 7 特色

レッジョ・エミリア方式を5～6年前から導入している。デンマークの保育に溶け込む要素が多く、レッジョ・エミリア教育そのままというより、デンマークの保育スタイルとして、この地域に合わせてよりよい実践を作っている。

特徴としては、多様な子どもがいるという考えから、多様な遊び場（活動）を設けている。

## 8 教育・保育計画

「遊び」の活動から子どもたちに自分を表現する力が身に付くように教えることより、「プロセス（過程）」が重要である。ヘーネンでの遊びは、ペダゴギーにより計画された目的のある「遊び」と、子どもたちが自由に遊びを選んで遊ぶ「遊び」と2通りの遊びがある。遊びを通じて、好奇心旺盛であることと、ひとつのことを共有することを、職員が高い専門性を持って、子どもたちの育ちを支え高めている。

考える力、創造力を花開かせる活動とは、計画的に教える「教育」ではなく、子どもが自由に自分自身を活性化することであり、こういった活動の計画が幼児期に重要な経験である。

## 9 6領域に沿った活動内容

- (1) 個々の発達      (2) 国際性・社会性の発達      (3) 言語の発達  
(4) 身体の発達      (5) 自然・自然事象      (6) 文化的表現と価値

※ 2004年からの教育カリキュラムから発展し、デンマーク全体での統一テーマとして推進されている。

## 10 日 案

午前中は計画された活動

朝、グループ（クラス）ごとに自分たちの集合場所に集まり、お互いを認識してから活動内容に移る。集合場所には写真と名前があり、子どもたちも互いを意識できるように配慮されている。

## II 年齢別の活動内容とペダゴギーの主な役割

クラス分け	活動内容	ペダゴギーの役割	特 徴
0歳～2歳 (あひるクラス)	身体活動が中心。言語の発達のための遊び歌によることば遊び、感覚遊び、子どもたち同士が助け合う心の育ちと基本的な生活習慣の自律に向けた活動	子どもたちと共に楽しむために、床に座って一緒に活動を共有する	
2歳～3歳	屋外活動が中心である。朝の集合も屋外で行われたり、散歩に出かけたり、という内容になっている。ことばの活動も重要であり、絵本を使用することが多い	子どもたちがどのようにどうやって参加するということや、お友だちとどのように関わり、一緒に活動を共有するかを導く	午前中の計画活動においては、少人数による活動から、よりよい学びとなるように3グループに分けて活動している
3歳～4歳	プロジェクトでの活動を重要視している。自然やことば、劇、などさまざまであり、子どもたちは、これらの計画された活動により好奇心を高め、探求する心を育てる	《もっと遊びに賢くなる》こと、お友だちと一緒に遊ぶことができるようになることが育まれるための物理的環境を与える。遊びに関われない子どもは、参加できるように導く	2グループに分かれて活動している
5歳～6歳 (就学前クラス)	学校へのスムーズな移行を中心とした活動。他児と一緒に遊ぶことからより学びが高まり広がり、遊びということが集中力や協調性を高めるということを実感しながら活動している	今までの活動をより高い水準、より高められるように計画し、学校にスムーズな移行ができるように支援する	工房を活用し、リサイクル資材を使ったアート作りや算数、文字の習得を目的とした遊び

### Ⅲ 園の様子



一日の予定が絵で示され、着替えや遊びの時間、食事など子どもたち自身が見通しを持って安心して過ごすことができるようになっている



子どもたちの一日の様子のファイルがあり、保護者は送迎の際に見ることができる。(ヘーネンではドキュメンテーションはなく、乳児・幼児クラスでの全体記録のみであった)

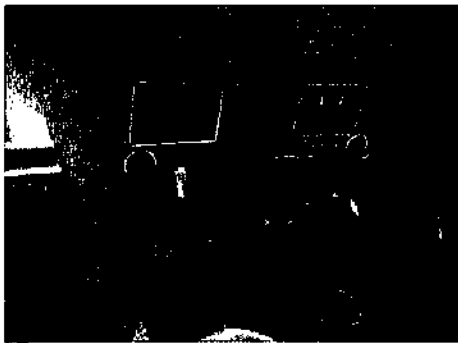


リビングの見えるところにオープンな厨房があり、中の様子をよく見ることができる



園庭の一角にあるたき火コーナー

#### 【2歳～3歳の保育室】



片づけも自分でできるような工夫として、片づけた後の写真が掲示されている

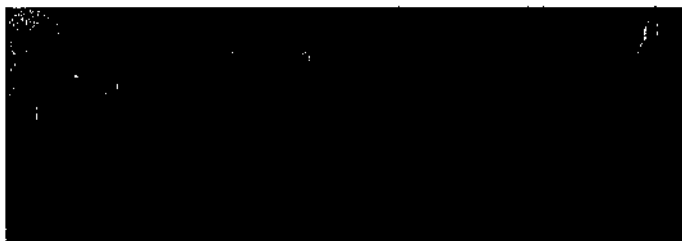


絵本から創造した  
絵画活動

#### 【3歳～4歳の保育室】



コーナー遊びが充実している

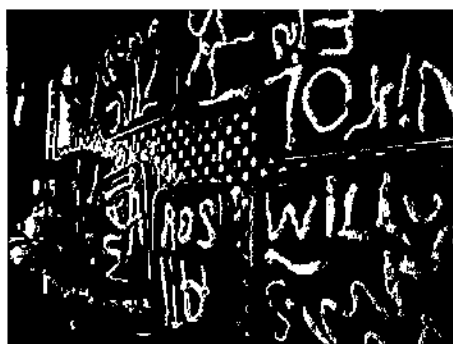


音楽遊びでの言葉の習得の壁面

#### 【就学前クラスのグループ活動】



算数遊び  
(百玉そろばんや iPad を使用)



小麦粉と塩を混ぜた粘土での文字遊び

#### 工房の一角



リサイクル素材が棚に整頓されて、ペダゴギーと一緒に自由に使用できるようになっている

#### IV レッジョ・エミリア教育について

レッジョ・エミリアの教育はローリス・マラグツィ（イタリア人教育者）氏により、デューイ、ピアジェ、ヴィゴツキー、などの理論を創造的に統合し、アートを中核として子どもの学び発達する権利を実現する画期的な教育の実践である。イタリア、レッジョ・エミリア市（イタリア北東部に位置するエミリア・ロマーニャ州に在し、人口約16万人）で誕生し、北欧を中心としたヨーロッパ諸国、アメリカ、アジア諸国の幼児教育に影響を与えた。アートの創造的経験によって子どもの潜在的可能性を最大限に引き出すという特徴を持っている。「学びのワンダーランド」として、子ども自身、子育てと教育に携わるものすべてが「参加」し「共有」することが活動の礎となっている。保育実践の特徴としてはアトリエスタ（芸術専門家）、ペタゴジスタ（教育専門家）の配置、創造性の教育、記録文書（ドキュメンテーション）、プロジェクト学習、保護者の役割、共同性の役割（コミュニケーション）、というさまざまな独自のアプローチがある。

#### V ペダゴギーについて

日本語名では、社会生活支援士、社会教育（生活）指導員、生活指導教諭（教員）と訳されている。子どもから青年および成人までのさまざまなニーズがある人に、円滑な社会生活を送ることができるような適切な支援を提供する専門職であり、保育者の感覚を養うための芸術的、活動的科目や遊びを通しての健康・身体と運動、想像力・創造性、集中力と焦点化の発達の促進、自然物などを使った表現や自己表現・自己開発の向上など特徴ある科目の履修と、3年間の養成課程の中、1,972時間という長期にわたる実習期間があることが特徴である。

#### 所 感

レッジョ・エミリア方式の教育観を取り入れた総合乳幼児園と伺って、芸術活動や専門職の配置、地域、保護者との関わり方など、興味深く見学させていただいた。園長先生のシャルロッテさんが

何度も繰り返していた「この地域に合うような取り入れ方」という言葉がとても印象的であった。元来、デンマークの子どもたちは自然と触れ合い遊ぶことから学ぶ、と言われ、時間の使い方を自分で選び、自分自身で試し、計画し、実行するという自主性を何よりも重んじる教育方法は、レッジョ・エミリア方式とマッチングする部分も多く、取り入れることも容易であったと考えられた。ヘーネンで生活している子どもたちは、自由に活動して伸び伸びとした表情であったが、規律を守ることや、手伝い、協力、役割分担など「社会化、社会性」の能力はしっかりと向上している、という面や、「学習させるのではなく、そのプロセスを重要と考えている」と教育の話題になるたびに声を強くして話してくださった園長先生の考えは、幼児期に「知的な要素」を十分に積み上げていくために、ペダゴギーが意識しながら計画していることがよく伝わってきた。どういったプロセスを環境として準備するかが重要であり、保育士の資質向上として今後、教育的課題となってくると強く感じた。

日本の国旗や書道、「こんにちは」と園児の皆さんがご挨拶してくれたおもてなしには、「心」で接することの意味を改めて感激の想いとともにも再認識し、子どもたちも私たちも笑顔になれる歓迎と準備に感謝の気持ちでいっぱいになった。

日本の歌のプレゼントでは、園児たちが手拍子をして聴いてくれたこともうれしかったが、園児たちからの3曲のかわいい歌のお返しは、見学という枠から「交流」という経験となった貴重な時間であった。

#### 参考文献

THE WONDER OF LEARNING 驚くべき学びの世界 レッジョ・エミリアの幼児教育 佐藤 学監  
修 ワタリウム美術館編 東京カレンダー株式会社  
関西学院大学 小谷正登教授 Webs サイト [www.g-kotani.com](http://www.g-kotani.com)

8月31日（月）

Børnehuset Troldhøje  
(ボーネフセット・トロルホイ／スポーツ総合乳幼児園)

所在地：Lyngbakken 3+7, 4000 Roskilde

説明者：Ronni Mathiassen／ロニ・マチアセン

報 告 者：長谷川 里織

作成担当グループ：川原田 知章、長谷川 里織

## I 施設概要

### 1 沿革

2005年 ロスキルデ市の認可を受け、スポーツ総合乳幼児園として設立。  
(認可以前よりスポーツ乳幼児園としての運営をしていたが、詳細は不明)

### 2 施設の種類

スポーツ総合乳幼児園

### 3 職員数

園長	1人	教育部リーダー	1人
乳児部保育士	2人	ヘルパー	4人
幼児部保育士	3人	ヘルパー	4人
補助員	4人	(うちスポーツ教育者	2人)
調理員	2人		

### 4 子どもの人数

0～2歳 32人、3～6歳 66人

### 5 開所時間

6:00～18:00

### 6 コンセプト

個人を尊重し、個性を大切に教育する。

### 7 特徴

身体運動、遊び、スポーツが人間の日常の自然な活動であるとし、毎日の活動学習計画に積極的に組み込まれている。

### 8 園での取り組み

室内でも自由な空間が作れるように、家具が折り畳み式であったり、園児が室内でも走れるようにさまざまな遊びと運動の器具が備わっている。野外の遊び場でも、くぐったり、登ったり、ぶら下がったり、バランスを取ったり等、さまざまな身体活動ができるように工夫されている。



## II 施設見学

### 1 乳児部クラス（0歳～2歳）

乳児クラスでは入口のボードが連絡帳代わりとなり、何時に誰が迎えに来るかや、午睡の時間等も記入され、一目でその日の様子が分かるようにしており、保護者と保育士の連絡が密に取れるようにしている。

教室に入ると、机やいすがコンパクトに収納でき子どもたちの運動スペースが広く使えるよう工夫してある。天井には、いろいろな物をつけるよう鉄骨のはりを入れ、ハンモック、はしご、ブランコ等をつるし、ソファや机等を並べ自由に登ったり降りたりできるようにしている。机に登ることや、ソファで跳ねることで身体活動を促している。

常に、子どもたちの運動と発達を意識し子どもに接することで、子どもの可能性を引き出している。

午睡は時間を決められておらず、子どもが寝たい時に寝、決して起こしたりはせず自然に目覚める。

子どもの主体性に任せた保育により、子どもの自発的な自立につなげている。



天井に備え付けてあるはり



保育室での活動風景

### 2 幼児部クラス（3歳～6歳）

起伏のある場所に園舎が建てられ、その周りにスポーツを意識した遊具を設置し、日常の子ども遊びの中であらゆる運動機能が発達するように考えている。幼児部は、年齢別にクラスが分



教室内のボルダリング



リズム遊びの様子

かれ、3歳児は赤、4歳児は緑、5歳児は青と色分けされており、部屋の壁や食器類も統一され子どもたちが分かりやすいようにしてある。午前8時にはほとんどの園児が登園し、昔ながらの運動やカードゲームやボルダリングなどの運動を取り入れながら活動し、遊びながら自分の運動能力とリズム感、柔軟性の発達を図るとともに、友だちと一緒に活動することで思いやりと力加減の調整を学ぶことができるようにしていた。また、①水、②土、③火、④空気の4つの要素を基に保育を計画している。年長児になると毎週自転車で園外に行き、半日かけて長い距離を走っている。

午後3時には子どもが帰り始め園児が少なくなるため、午後4時以降は乳児部に移り合同保育となる。

### Ⅲ 施設見学

#### 1 室内

机やイスは、室内の場所を確保するため折り畳み式や重ねて収納していた。乳児部はイスに子どもの顔写真を貼ってあり、誰のイスかすぐに分かるようになっている。ロッカールームは別室で入り口付近にあり、自分たちで着替えや、支度をする。室内には玩具が少なく、広く使えるようにしていた。

#### 2 屋外

広い園庭は、アスレチックなど運動ができる遊具や地形を利用して遊べる遊具が設置されている。また、穴を掘ったり、水遊びや泥遊びも自由にできるようになっており、さらに保育士と一緒にたき火を楽しむなどさまざまな活動を行っている。中庭にはタープ、イスやテーブルを設置し、雨天時などにも野外で遊べるようにしている。庭は専門の庭師が手入れをしている。



中庭にはタープやテーブルが



地形を利用した園庭

### 所 感

スポーツ乳幼児園ということで、本格的なスポーツを教えているのかと思いながら施設見学に行く。特にスポーツに特化しているのではなく、全ての活動を通して体を使った活動を表現していた。また活動は個人の考えに基づいた遊びが主体となるが、テーマに沿った学習も同時に行われている。

テーマは週や月ごとに変え、テーマに応じた運動を通して体のさまざまな部分が使えるように工夫されていた。遊びの中から喧嘩のしかたや友達との関わり方を学び、問題を体を使って解決できるようにしていた。子どもたちも日々の活動の中から5つの価値観（健康、発展・発達、認める、自信、責任）を身に付け学んでいる。

子どもたちは小さいころから体をどう使うか訓練しており、体の動きについて理解し、自分たちで危険を回避する能力を身に付けておりけがは少ないという。保育者がけがを怖がり、子どもの活動にブレーキをかけることが子どもたちの可能性を奪うこととなってしまうので、少しずつチャレンジさせていくことも大切だと感じた。また、保護者の理解があるからこそその活動ができるのだとも感じた。さらに、職員の目標として成長・協力・能力の向上を掲げており、子どもが成長するとともに職員が成長することに重点を置いていた。体で多くのことを会得することは、小さい頃からの積み重ねが大事だということを改めて感じる事ができた。

9月1日（火）

## Legestuen Minibo

（ライストゥエン・ミニボ／デイサービス・保育ママの共同保育施設）

所在地：Snoldelev Bygade 21B, 4621 Gadstrup

説明者：Ms. Camilla Wessman／カミーラ・ヴェスマン

報 告 者：永野 浩子

作成担当グループ：尾田 志保子、平泉 由美子、永野 浩子

### I 施設概要

#### 1 沿革（運営主体）

ロスキルデ市

#### 2 施設種類

保育ママ

#### 3 定員（入居者数等）

一人の保育ママが4人までの子どものデイケアを行う。

#### 4 利用対象者および負担方法

利用対象は乳幼児。保育費は父兄負担だが、収入額によっては補助がある。

#### 5 職員数・職員配置等

現在ロスキルデ市の保育ママは71名。病気などの時の非常勤9名。6名のデイケア。ペタゴ（専門教育者）1名と事務職のチームで成り立っている。

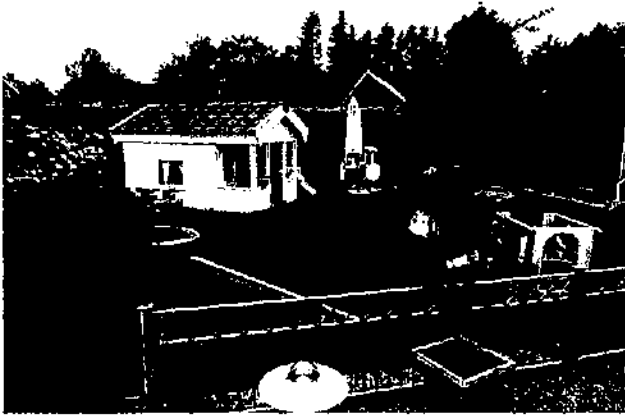
### II ダオプライエン（デイケアの意）

個人の保育ママが市と契約してデイケアを行うシステム。6～7名の保育ママがひとつのグループとして「遊び場」に集い、そのような遊び場施設が、ロスキルデ市に7か所ある。

### III 保育ママのシステム

#### 1 資格

- ・ 教育バラエティに富んでいて決まりはない。ペタゴ（専門教育者）が定期的に（週1回）巡回し、困ったこと等相談に乗ったり、「遊び場」で保護者と直接コミュニケーションを取ったりする。
- ・ 保育ママになった後は、リトミック、ヨガ、ヒーリング等、各分野の研修カリキュラムがあり、好きな分野を受講することができる。
- ・ 子どもたちの面倒を自宅で見ることができ、「自分の子どもは自分で育てたい」という人にも、在宅ワークとしてできる仕事である。



保育ママ、クリスティーナさん宅

## 2 認可・補償

- ・ 物理的環境（家庭環境）がチェックされる。  
※子どもの遊び場があるか、おもちゃがあるか。  
※プライベート空間には柵をして、そこから先は入れないようにして使い分けている家庭もある。
- ・ 地方自治体が雇用しているため、遊具等必要物品のための費用は毎年支給されるが、食事代は保育ママが負担し、決められた栄養学に従って食事を提供する。  
※デンマークでは「小さいお腹には小さい食べ物が必要」という考えのもと、おやつは何回にも分けて与える。
- ・ 仕事中に腰を痛めた場合等、医療費の補償がある。また、研修カリキュラムの中には、体のメンテナンス面を考えたものもあり、市の全面的なバックアップのもとで機能している。



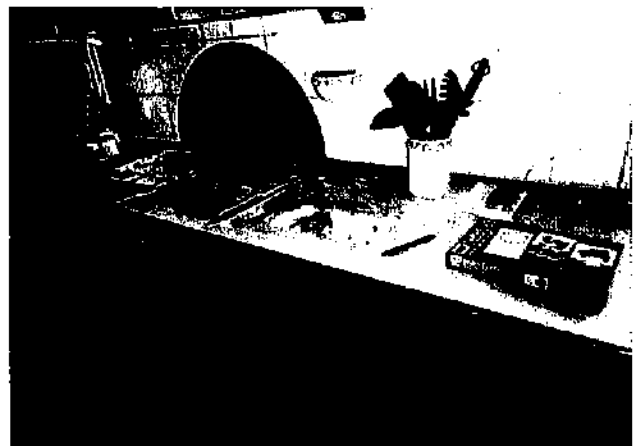
絵本棚

## 3 労働時間

- ・ 1週間48時間労働、1日10時間拘束。
- ・ 1週間5日（土、日は預からない）。

## 4 賃金

- ・ 給料：6年目の保育ママと1年目のペタゴ（専門教育者）が同じくらい。
- ・ 他の職業と比べると「中の下」。
- ・ 5人目の子どもを預かる場合、1日400クローネの支給がある。



子どもが描いた絵

## 5 非常勤ママ

- ・ 自治体が雇用。
- ・ 保育ママが病気等で、子どもたちの面倒を見ることができない場合、代わりにそこへ行ったり、子どもが来たりすることもある。

※何かあっても、代わりのママがいるため保護者も安心感がある。



「遊び場」

## 所 感

ロスキルデ市役所からバスで20分ほど行くと緑豊かな風景が広がり始めた。その一角に保育ママのグループが集う「遊び場」があり、近くで保育ママをされているクリスティーナさんのお宅を訪ねた。室内はもちろんのこと、庭にも遊具が置かれ、子どもたちを預かる環境が整っていた。

そこでは、毎日一つの具体的なテーマを決め、子どもたちはそれに関連した遊びや会話を行うそうだ。教育と学習の両面から子どもの発達を見据え、それらがうまく遊びの中に取り入れられていた。また、一日の活動が子どもたちにも理解できるように、それを一つずつ絵にまとめ見えるところに貼るといった工夫がなされていた。

クリスティーナさんは、18年間この仕事を続けていらっしゃるそうで、自身の子を育てながら預かった時期もあったそうだ。自宅に居ながら仕事と子育てを両立できるこのシステムは、子育てを経験した身として私もうらやましく感じた。子どもたちもまるで自分の家に居るかのようによつたりと落ち着いて過ごしており、その姿がとても印象深かった。

「遊び場」では保育ママたちが集まり、アットホームな雰囲気の中で情報交換をしながら楽しく子どもたちと触れ合っていた。壁には保護者が描いたかわいらしい絵があり、コーナー遊びのスペースがいくつも設けられ、子どもたちが好きな遊びを楽しんでいた。

ベテランの保育ママが多く、保護者からの信頼が厚いことがうかがえた。実際、特定の保育ママ目当てに遠方からはるばる預けに来ている保護者もいるそうだ。近年は、総合乳児園等の大きな施設に預ける傾向があり、また少子化の影響も受けて、この「遊び場」では、2007年には18人いた保育ママも現在は7人にまで減少している。それでも細やかな保育を望む利用者の強い要望を市が優先し、このシステムが成り立っている。少数であっても利用者の声に耳を傾け尊重する姿勢は、見習いたいと思う。

日本とデンマークでは保育制度や環境に違いはあるものの、良いところは積極的に取り入れ、子どもたち一人ひとりのためにこれからも尽力していきたい。



「遊び場」前にて

9月2日（水）

Børnehus Melita  
(ボーフネス・メリタ／森の保育園)

所在地：Mariendalsvej 4, 2000 Frederiksbergおよび Lejrvej 47, 3500 Værløse

説明者：Ms. Karina Kumi Ishikawa／カリーナ（副校長）

報 告 者：尾田 志保子

作成担当グループ：平泉 由美子、永野 浩子、尾田 志保子

## I 施設概要

- 1 沿革： 2012年設立  
財 源： 自治体だが、独立した理事会を持っている。  
運営主体： ロスキルデ市
- 2 施設種類： ロスキルデ市立の乳幼児園
- 3 施設の特色： この乳幼児園は、町なかに立地しているが、夏場は毎日森に出かける。ここの森の幼稚園の施設は、近くの3園が一緒に使用。毎日の中で園児が遊び、チャレンジし、自分で出来るということ、対話安心感、思いやりのある場所を作ることを重視。遊びを通じて園児の自立性と、友達と仲良くすることをサポートし、園児の人格と社会性を強化する。
- 4 定 員： 3歳までの園児 24名  
3歳～6歳児 50名
- 5 保育費の負担方法： 保育費は保護者負担だが、収入額によっては補助がある。
- 6 職員数 職員配置等： 園長 1名  
ペタゴ（デンマークにおける保育士） 8名  
保育ヘルパー 5名  
厨房 2名

## II 1日の流れ

朝7時から子どもたちが登園してくる。7時から8時の間には朝食を提供。ふだん5人程度の利用があり、朝食の内容は2年ごとに見直されている。パンズ、押し麦で作るおじやなどを厨房のスタッフが用意。朝食は保育料に含まれている。9時までには来てもらい、バスで郊外にある森の幼稚園に向かう。

9時半から15時までほぼ森で過ごす。雨天の日には、長靴や雨がっぱなど、それなりの格好で遊ぶ。お弁当とおやつは家から持参したもので、おやつは生のにんじんやりんご、バナナなどをもってきている子が多かった。17時には終了。

### Ⅲ 活動および文化交流

この日は子どもたちのグループ分けはせずに自由に遊んでいた。キャンプファイヤーを行い、棒にパンをつけて焼くアクティビティーを行う。テラスには今年のプロジェクダというミニトマトが育てられていた。

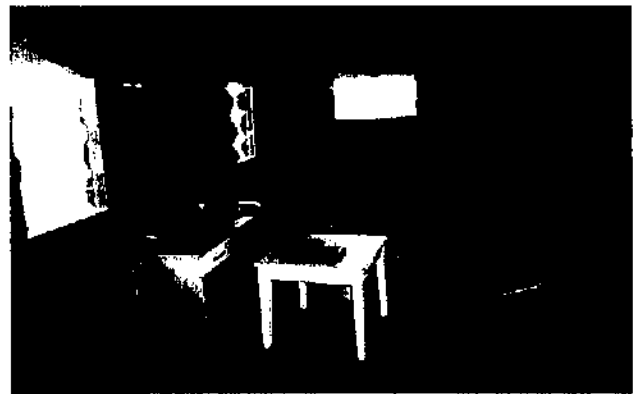
広い野原には砂場、丸太の平均台、トロールが住むという小屋もあり、トロールが住むという小屋では、子どもたちがおもちゃを持ち込んで遊んだり、時には片づけて保育士による絵本の読み聞かせも行われる。木が生い茂った場所はジャングルと呼ばれていた。無造作に成長した木々の枝が交錯していて、木登りの際に隣の木に乗り移ることができそうな感じにみえた。子どもたちが2~3人で隠れることのできる穴のような場所が何か所かあり、さらに家作りができる板材が数本置いてあって、子どもたちが組み立てて遊べるようになっていた。

アルバイトの青年が音楽を流すと、とたんにあちこちに散らばって遊んでいた子どもたちが集まって踊り始めた。ロボットダンスや、担当のカーリーナ先生が用意してくれた日本語の『上を向いて歩こう』などだった。ダンスのあとは職員がお茶を用意し休憩を取る時間もあった。

その後、鐘の合図を聞いた子どもたちは昼食の準備のため、布のシートを友達と協力して草原の上に敷き昼食をとったが、食後は室内で絵本を読んだりおもちゃで遊んだり、日本からきた視察団が持参した折り紙遊びを楽しんでいた。特に手裏剣が人気であった。ひと段落したあと日本の遊びを聞かれ、みんなでできる遊びとして花いちもんめを提案。日本語とデンマーク語で子どもたちや職員で楽しく遊ぶことができた。



トロールや魔女が住むという小屋



小屋の内部



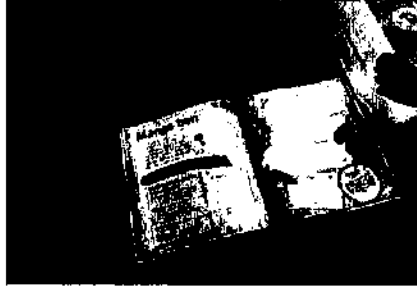
子どもたち、職員、団員の集合写真



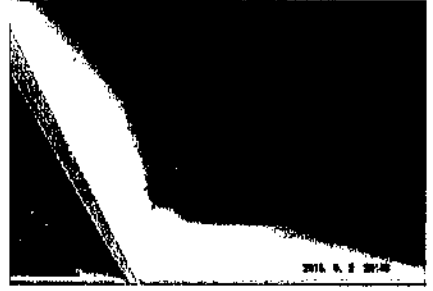
町なかの施設外観



友達と遊ぶ様子



見つけた虫を図鑑で確認



室内で使うおもちゃ

#### IV 質疑応答

(Q1) 遊びにルールはあるか？

(A1) ルールという言い方はしていない。どういうふうに人と一緒に過ごすのか、共同体としてやっていくのかということを伝えている。たたかないようにしようねとは言う。

(Q2) 枝を折ってしまう子などはいないのか？

(A2) やってはだめよとは言いが、ルールではない。常識的な話をしていく。人間としてどうあるべきか、お互いがお互いをいたわりあうという話をする。

(Q3) 病気やけがの時はどうするのか？

(A3) 両親に電話をして迎えにきてもらう。ひどいけがなどなら救急車を呼ぶ。

(Q4) 今までにどういった重いけががあったか？

(A4) 木から落ちて腕を骨折。枝が頭に刺さって頭から出血など。命に関わるようなことはなかった。

(Q5) けがをした際に、保護者からのクレームはないのか？

(A5) 森の中で自然に起こったことなので、ない。

(Q6) 森の中の遊具はどうやって片づけるのか？

(A6) 室内は片づけるが、森はあの状態から次の日も遊び始める。

(Q7) 市内で借りている園舎の家賃はどれくらいなのか？

(A7) フレデリクスベア市が借りているので、家賃は生じない。

(Q8) 保護者からバス代としていくらもらっているのか？

(A8) 保育料に含まれている。バス会社には、1日2,500クローネ（約5万円）を支払っていて、3年ごとに市がバスの入札を行っている。

(Q9) 保育料は？

(A9) 兄弟割引もあるが、最高で3,200クローネ（約6万4千円）、最低で2,000クローネ（約4万円）くらい。

なお、1年間の園の予算は正確ではないかもしれないが700万クローネ（約1億4,000万円）である。

また、森の幼稚園の中には、この園のように街の中の施設が借りれず、外で送迎バスを待っているというところもある。

## 所 感

広々とした森の中で自由に活動する子どもたちの様子や、ペタゴの子どもたちとの関わりの様子を見学させてもらった。ペタゴから離れて木登りに一人挑戦している子もいるなど、日本では保育士間で声をかけ合って側で声かけなどをして見守るケースが一般的であろうが、そうではなかった。しかし、子どもたちの自分らしさ、自分の限界を知ること、仲間意識、社会性を伸ばしていきたいという所からくる見守りの方法には納得がいった。これ以上やると危ないということは、人に言われるよりも経験してこそわかることで、自分も子どもの頃にそこから学んだことが多い。日本で同じような環境でけがをした場合、森の中で自然に起こったことだからしかたないという話になるかはかなり難しいと思うので、子どもたちの挑戦の場を増やしてみたり、遊具の素材や配置方法の工夫など、できる点を考えて提案していきたいと思う。

人間としてどうあるべきかを子どもの頃から大人が子どもに考えさせていくことは、自然に相手に対する思いやりの気持ちや関わり方を学ばせ、自分の本当にやりたいことや表現したいことを明確にし、生きていく中での楽しみ方も上達するのかもしれないと考えさせられた。今後も子どもたち一人ひとりの命を輝かせていくために、森の幼稚園が気付かせてくれたことを大切にしていきたい。



9月7日（月）

## Kinder-und Jugendförderung (ロイバーランド保育園／エアフルト市青少年局担当者より行政説明)

所在地：Steinplatz 1, 99085 Erfurt

説明者：Mr. Alexander Leonhardt／アレクサンダー・レオンハルト（青少年局保育施設担当者）

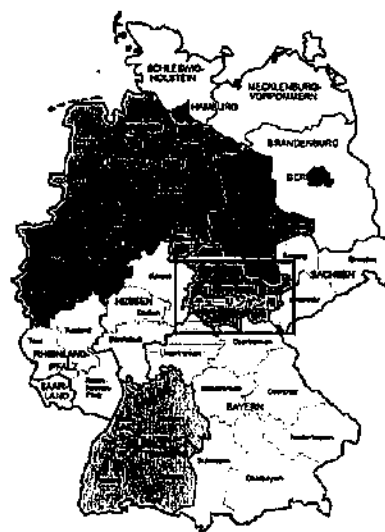
Ms. Astrid Kühlmann／アストリッド・キュールマン(エアフルト市立保育施設ロイバーラント所長)

報 告 者：青柳 治美、内山 奈々

作成担当グループ：高木 麻里、内山 奈々、青柳 治美

### I ドイツ連邦共和国

ドイツ連邦共和国は16の州から成り、社会福祉についての具体的な事項は各州の立法に委ねられているので、保育の在り方は州によって大きく異なる。少子高齢化社会が進んでいる。



テューリンゲン州の位置

### II テューリンゲン州

人口は215万人。子ども施設は全部で1,314施設。そのうち公的施設が510施設、民間施設が804施設。民間施設の主な内訳としてカトリック・プロテスタント、労働者福祉団体、ドイツ赤十字等の福祉系団体がある。幼稚園と保育園共に、文科省が管轄している。

### III エアフルト市

エアフルト市は、ドイツ中央部、テューリンゲン州の州都である。人口は約20万人。

エアフルトに至っては近隣から大学への就学や産業等で若者が流入していて、子どもも増加している。子どもの施設、特に幼稚園の受け皿が足りなくなっている。

#### 1 青少年局の仕事について

ドイツの法律、連邦法の社会保障法典に基づいている。具体的には子どもや青少年の若年層に対する支援が主となる。テューリンゲンの州法の「ターゲスアイヌヒトル」（幼稚園と保育園を合わせたような子どもの施設に関する法律）に基づいて活動している。

#### 2 子ども施設の状況

市内の子ども施設は全部で105施設ある。そのうち幼稚園（3歳以上）が96施設、保育所（0歳～2歳）が9施設。幼稚園の84施設が民間施設、11施設が公的施設、1施設が企業の付属幼稚園である。（幼稚園、保育所と2つの施設を統合した複合施設を含む。）

子どもの増加により、子どもの施設が不足している。対策として92名の保育の有資格者がターゲスマッタ（保育ママ）として323名の子どもたちを保育している。

(1) 子どもの入所状況（3か月～就学前）

3歳以上 92%が幼稚園に通っている。  
2～3歳児 90%が保育施設に通っている。  
1～2歳児 55%が保育施設に通っている。  
1歳未満 3%が保育施設に通っている。

(2) 保育士の配置基準（人）

0歳 4：1  
1～2歳 6：1  
2～3歳 8：1  
3歳以上 16：1（ドイツは平均8：1、推奨地では7.5：1）

保育士の高齢化が進み、若い保育士の育成が課題となっている。

(3) 保育士の勤務時間

1週間40時間が基本となっているが、園によって異なる。

(4) 保育料について

両親の所得により異なる。

幼稚園 上限280ユーロ/月 食費は含まない

保育所 上限400ユーロ/月 食費は含まない

(5) 入所申し込みについて

入所条件に就労の義務はない。

出生すると2枚カードが発行され、そのカードを保護者は入所したい園へ持参する。

入園は先着順となり、予約ができる。カードを希望園が受け付けると予約完了となる。

(6) 育児休暇について

両親のどちらかが14か月取得可能。そのうち2か月は両親そろっての取得が可能。

育児休暇中は給料の3分の2が支給される。ただし、1,800ユーロが上限となる。

取得するタイミングは産後すぐではなく、ずらして取得することも可能である。

(7) 保育理念について

教育計画を各州で作成する。それに基づいた内容で各園が理念を立て書類として作成する。

職員は各園の理念に従って保育を行っていく。

(8) 書類について

子どもの成長を書類として残してはいるが、市に提出する義務はない。

子どもやその保護者に成長の記録として見せている。

(9) 評価について

評価する審査機関はない。子どもたちや保護者が口コミで評価する。

衛生面・食事面等においては文科省や保健所の監査がある。

### 3 最近の保育の傾向

さまざまな教育方針がある中、良いところを取って保育をしている園が多い。子ども主体の保育が行われていることが多く、できるだけオープンな保育を心掛けている。ある程度の規定はあるが、その中で子どもたちが自分たちで自由に考え、時間の配分やどの友達と遊ぶ等を決めることができる。

### 4 就学前の準備について

学習面というよりは、学校という環境の中でどのように順応していくか、どのように自立していくかを体得してもらうことが就学準備だと考えている。言語面では書くことを指導している。

プレスクールをしている園もある。最近の傾向としては、学校に行く準備をするということは人生の準備をするということと捉え、1年や半年ではなくもっと幼いころから学習する姿勢を学ぶことが教育的見地となっている。

### 5 公立園と民間園との比較

民間施設も市からの許可が必要となる。内容の責任については、公立施設は市が責任を負うが、民間施設については各施設が責任を負う。市は各施設の施設長に対しアドバイスをを行っている。州から補助金が交付され、施設長や保育士に対し必要に応じて各専門家からアドバイスが受けられる環境になっている。

### 6 ターゲスマッタ（保育ママ）について

エアフルト市青少年局が管轄しており、「ターゲスマッタ」（保育ママ）は1～5人の子どもを保育することができる。保育室は自宅でも、部屋を借りてもよい。保育ママは旧西ドイツの制度であり、統合後東ドイツにも取り入れられた。

保育ママは保育士の資格がなくても、保育ママの試験に合格すればなることができる。保育士のように専門の大学に通学していなくても受験できるが、実際は保育士の資格を有している者が行っていることが多い。

保護者が保育ママを利用する理由として、希望施設に入れなかった、年齢が低い時は小規模集団を希望する等がある。

保育ママを利用する保護者は保育料を市に支払う。保育ママには市から保育に見合った給料が支給される。

## IV 質疑応答

(Q1) 公立の保育施設を民営化する制度について。

(A1) いくつかの自治体が集まっての活動があるが、民営化はない。

(Q2) マンションの1室を使用した保育園への認可について。

(A2) 基本的に保育施設は独立した施設が前提となる。文科省の認可基準を満たさない。

(Q3) 保育士の社会的地位について。

(A3) 保育士は仕事内容に見合った給料をもらっていると思う。パン屋さんより高く、ソーシャルワーカーより低い。保育施設長の給料は、地域や施設の大きさによって異なる。

## 所 感

役所への訪問予定だったが、思いがけず規模の大きな市立の保育施設を見学する運びとなった。子どもたちの遊びの様子を見たり、一緒にダンスを踊ったりと楽しく貴重な時間を過ごすことができた。

現在ドイツでも日本同様少子高齢化が進んでいるが、エアフルト市では若者や子どもの数が増加しており、特に幼稚園は定員がいっぱいになってきているという話があった。しかし、見学先の施設では他の公立の保育施設が一か所閉鎖されてしまったため、そこに通っていた子どもたち9名と保育士1名がその施設の一室を借り、一緒に生活しているという実態があった。「なぜ幼稚園の受け皿が少なくなっている中、閉鎖しなければならなかったのか」と問うと、「園舎の老朽化に対しそれを修繕していく財源が無かった」との返答があり、エアフルト市の資金面の実状がいかに見られた。

また、「男性保育士は日本ではどのくらいいるのか」と問われ、「日本では男性保育士は少なく、収入面がその一因ではないか」と話すと、エアフルト市でも男性保育士の数は全体の1割にも満たないとのことだった。男性も収入面を気にすることなく働くことができる環境が整うと、保育士の社会的地位はより高くなるのではと感じた。日本の保育制度の現状を念頭におきながらたくさんの質問をしたが、一つ一つ丁寧に答えて下さり双方の良いところ、そして課題も見えとても有意義な時間となった。最後に子どもたちが一人ひとりに手作りの小箱をプレゼントしてくれ、心のこもったかわいらしい贈り物は非常にうれしかった。



講義の様子



集合写真

9月7日（月）

Kindertagesstätte "Friedrich Fröbel"  
(キンダーシュタッテ・フリードリッヒ・フレーベル/フレーベル教育の保育所)

所在地：Karlsplatz 15a, 99095 Erfurt

説明者：Ms. Melitta Meyer/メリッタ・マイヤー（園長）

報 告 者：平泉 由美子

作成担当グループ：尾田 志保子、永野 浩子、平泉 由美子

## I 施設概要

テューリンゲン州コルピング育英事業（Kolping-Bildungswerk Thüringen e.V.）を運営主体とする施設で、フレーベル理論に基づいた教育を行う保育所である。現在の建物は2001年に建てられ、2歳児から就学前までの子どもを100名受け入れている。

開園時間は朝6時00分から夕方17時00分まで。職員数12名で保育に当たる。障害児の受け入れも行っているため、12名のうち2名は障害児専門の職員となっている。現在は障害児3名を受け入れている。

またこの園の職員の半数は、週に1度2年間フレーベル教育について学んだ有資格者であり、有資格者が半数を超える園が、フレーベル園と名乗ることができる。

## II クラス編成と施設内設備

### 1 クラス編成

年齢ごとに定員は設けていないが、2歳から6歳までの子どもたちが各年齢おおむね20名程度在籍し、その子どもたちを5つのグループ（クラス）に分けている。

グループの構成は、2～3歳児混合のグループが2つ、4～5歳のグループが2つ、そして6歳児のグループが1つとなっている。1グループに2名の保育士が配置され、障害児のいるクラスにスペシャルケアの担当者が加配される。障害児専門の職員は、保護者と連絡を密にしながら支援プログラムを作成し実行する。

### 2 施設設備・・・教室とおもちゃ

各保育室は小ぶりの2部屋に分かれており、一日の流れが臨機応変にスムーズに行えるようになっている。

どの教室にもたくさんのおもちゃが置かれたコーナーがある。また、教室内やホールにはフレーベルを象徴するおもちゃが置かれている。おもちゃを選択する際に考慮することは、

①できる限り自然の素材を選ぶ

②子どもたちの創造性、想像性を発達させるもの（使い方が制限されないもの）。

年齢別に考慮することとしては、2歳児から6歳児に向けて、シンプルなものから複雑なものへ、さらに、より複雑なものへと変化させていく、とのこと。

遊びを通じて「世界を見極める力をつける、発見する力をつける」ということが目標だという。

### 3 施設内整備・・・その他の遊びをする部屋

施設内には、美術的な活動を自由にできる部屋と、調理を経験するための広めのキッチン、運動ができる部屋と、それぞれの活動別の部屋がある。

### 4 施設設備・・・園庭

園舎を囲むように緑豊かな環境が広がる。その中に設置された大きな小屋は、園外用のおもちゃ用具置き場となっており、その量に驚く。また、フレーベル教育を象徴する畑がある。育てているのは、じゃがいも、かぶ、トマト、ぶどう、にんじん、花などで、花は園内に飾り、野菜はキッチンで調理を経験する。

地下にためた雨水は砂場にあるポンプから出てくる仕組みになっていて、遊びに使用するほか、畑や植物の水やりにも使用するという。子どもたちと一緒に世話をを行うとのことだった。フレー



運動のための部屋



各教室前にある自分の存在を示す手形



各部屋のおもちゃコーナー



園庭内の畑

ベル教育においては自然と子どもが一体となることを目指しているのである。

### Ⅲ 一日の流れと、入園・卒園、行事

#### 1 一日の流れ

8:00、希望者に軽い朝ごはんを提供し、その後自由あそび。全員そろったところで保育士は担当グループの子どもに今日やることを提案する。興味を持てる子だけ参加し、ほかのグループに参加することもできる。ほかの場所に行きたい子は、自分の教室の入り口に貼ってある自分の写真がついた手形を剥がし、移動先のグループの場所に貼り直す。手形が貼ってある場所が、自分の居る場所を示す印になっている。基本的にはどこへ行ってもよいが、①食事の時間には戻る、②手形を移動する、③先生の見えるところに居る、④クライミングは先生が居るときにだけ行える、⑤物でぶってはいけない、というルールが決められており、それを破ると自由に行動できなくなる。

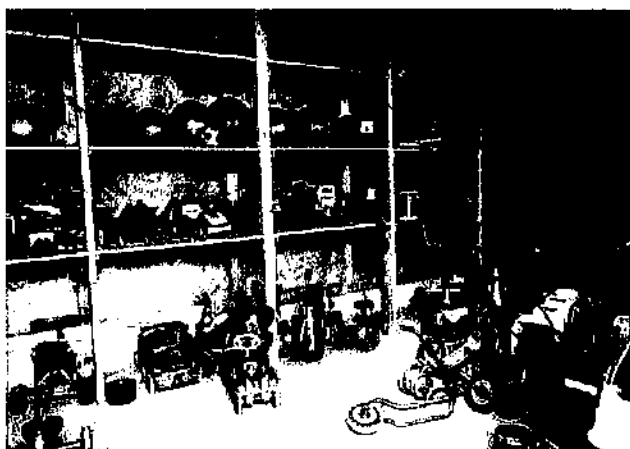
それが終わると外で遊び、ランチタイムとなる。小さいグループ→大きいグループの順に食事をする。小さいグループはお昼寝をし、大きいグループは休憩する程度。午後のおやつを食べたら、外で元気に遊んでお迎えを待つ。

#### 2 入園・卒園

入園は2歳児の9月に行われ、1か月は朝の登園から1時間ほど保護者が園内で一緒に過ごし、慣らし保育とする。卒園は8月31日で、入園から付けてきた子どもの記録と自分の存在場所を示す手形、先生からの手紙、日常写真を渡して卒園となる。卒園する人数を2歳児の新入園児として受け入れを行う。

#### 3 行事

クリスマスは教会に行つて劇を行つたり、クリスマスマーケットを開催して子どもたちが作ったものを販売する。日本でいうところの折り紙制作にあたるフレーベルの星や、リンゴのお菓子、プレッツェル、クリスマスカード、ろうそく立て、ホットワインなどを販売。宗派としてはプロ

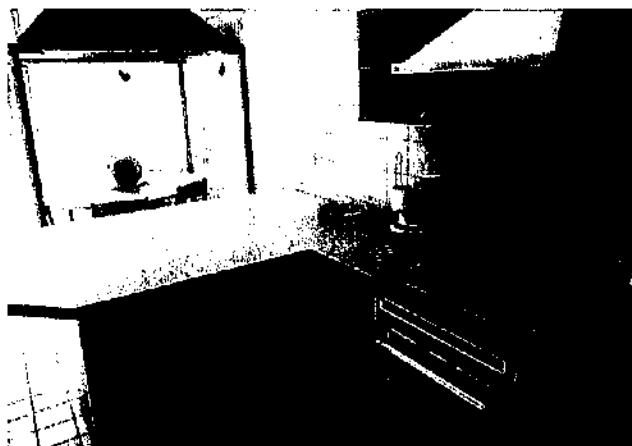


園庭内の遊具置き場小屋内



フレーベル遊具の展示

テスト系に属しているという。また、イースターでは卵を隠して探すゲームをしたり、卵に絵を描いたりする。毎年4月21日に行われるフレーベルの誕生を祝うフレーベル祭は、在園児、卒園児、その家族や地域の人など誰でもが参加できる行事となっている。300人～400人ほど参加して賑やかになるという。子どもたちはさまざまなプログラムを用意し、歌や劇でもてなしたり、親子制作ができるコーナーやケーキや焼ソーセージも自由に食べられるようになっている。この行事の中で、保育士は保護者とゆっくりと親しみを持ってコミュニケーションを計ることができ、大切な機会となっているという。



広くて明るい子どものためのキッチン



園長メリッタ・マイヤー先生

## 所 感

園児100名に対して園庭が大変広く、植栽と遊具の多さなど環境の豊かさが印象的だった。また、キッチンもぜいたくな作りで、この広い調理場で自分たちの育てた野菜を調理する体験ができれば楽しいだろうと感じた。この園の園長先生は、写真からも伝わると思うが非常に温かみのある方で、案内も質問にも親切丁寧に対応して下さった。案内中に困った顔をした子どもが園長先生に走って相談に来る姿もあり、慕われている様子をかいま見ることができた。きっとフレーベル祭などの大きな行事もにぎやかで温かなものなのだろうと想像する。入園者も募集をかければ、すぐに埋まってしまうとのことだった。

また驚くのは、職員の方の中にタトゥーが入っている人が珍しくないことで、服装が自由だけでなく、自分の本当に好きなスタイルで子どもたちと触れ合うことができるようになっている。ドイツでは第二次世界大戦の反省から制服を完全に廃止している、とのことだが、その徹底ぶりを知ることができた。

OECDの発表により、現在では就学前教育が課題であると思うが、この園では市のガイドラインにのっとっていると言いつつも、まだまだ緩やかな取り組み方であると感じた。

9月8日 (火)

## Integrative Kindertagesstätte "Schmetterling" (シュメッターリング／障害児統合保育所)

所在地：Ottostraße 10, 99092 Erfurt

説明者：Ms. Yvonne Thienel-Möller／イボン・ティナー・メラ

報告者：川原田 知章

作成担当グループ：長谷川 里織、川原田 知章

### I 施設概要

#### 1 設立

シュメッターリングは、25年前に障がい児と健常児と一緒に保育する施設として、運営団体 Lebenshilfe により設立。街の中にも関わらず自然環境に恵まれた約15,500㎡の広大な敷地の中には、障がい者の自立住宅棟やデイケア施設、子どもの早期教育施設も運営している。

Lebenshilfe では、シュメッターリングを含む3つの保育園、障がい者用住宅、教育施設、スポーツ施設、早期教育施設、障がい者用旅行ツアーなどの事業を行っている。

#### 2 定員

200人 (1歳～5歳児のうち44人が何らかの障害がある子どもである)

- ・1歳児 19人
- ・2歳児 54人
- ・3歳以上児 127人

#### 3 クラス数 (グループ数)

13グループ

- ・1歳児クラス 1グループ
- ・2～4歳混合クラス 9グループ
- ・5歳児クラス (プレスクール) 3グループ

#### 4 開所時間

6:00～17:30

このほか、必要に応じてスペシャルアワー (延長保育) として、希望により17:30から20:00まで開所し、子どもを預かっている。この時間の預かりは、30分ごとに4ユーロである。

#### 5 給食

朝食、昼食、軽食 (おやつ) を、保育所内の給食室で作っている。

#### 6 コンセプト

25年前に、障がい児とその家庭を支援したいと設立。障害の有無や、障害の程度にかかわらず統合的保育を実施している。必要に応じカウンセリング、セラピーも実施できる体制にある。

また、職員にも多くの障がい者が従事し、まさに統合的な保育所と言える。

- ・みんなと一緒にいながら、自分らしい人格の成長を支援
- ・子どもたちの個々のニーズに焦点を当てた支援
- ・子どもたちの個々の成長に合わせたお世話や訓練を支援
- ・子どもたちが社会生活の中に積極的参加できるよう成長させる

統合保育を通し、健常児が幼い頃から障がい児と接することにより自然に障害に対する理解を深め、思いやりの気持ちを育むとともに、障がい児が健常児と一緒に生活や活動することにより刺激を受け成長し、積極的に社会参加できるような基礎を育てる。

また、このインテグレーションの理念を、子どもから家庭、家庭から地域、地域から社会へと広げることを目的とし取り組んでいる。

## 7 職員体制

この施設全体で、280人の職員が勤務しており、その中の約40人が何らかの障害がある。

保育士、治療療法士(指導介護士)、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士 調理員、農業専門員、清掃員、事務員等の職種で構成されている。清掃や給食については、関連組織に委託している。

統合保育は、45人が従事し、保育士、治療療法士(指導介護士)、社会教育学者がチームを組んで保育にあたっている。

プレスクールには、1グループに2、3人の職員、その他のグループは、3、4人の職員を配置し、各グループには、必ず男性職員を1人配置している。男性職員を配置する理由は、近年シングルマザーの家庭が増えていることもあり、日常的に男性と接することで、女性とは違う男性の反応や対応を自然に理解させるとともに、男性はどう教育してくれるのか、どう接してくれるのかを自然に体験できるよう配慮している。

## 8 運営資金

保育料(行政負担+保護者負担)、障がい児の給付金、企業団体等からの寄付金

## II 施設内の様子

### 1 クラス(2~4歳児)



登園して子どもたちが最初に向かう場所



トイレと洗面所



クラスルームの様子

## 2 プレスクールクラス (5歳児)

就学前クラスは、比較的自由度が高く3クラスを自由に行き来することができ、より自立心を養う。



## 3 ワイルドベリークラス (自然とエコロジーをテーマにしたプロジェクトグループ)

25周年記念のネイチャーカーを拠点に、各グループが1週間交代でプロジェクトを実施し、プロジェクトを通して自然から受けた恵みに感謝し、またその恵みを自然に返すことを体験し、小さな頃から自然と生き物を大切にする心と感謝の気持ちを育てる。



2台のネイチャーカー



ハーブティー作り

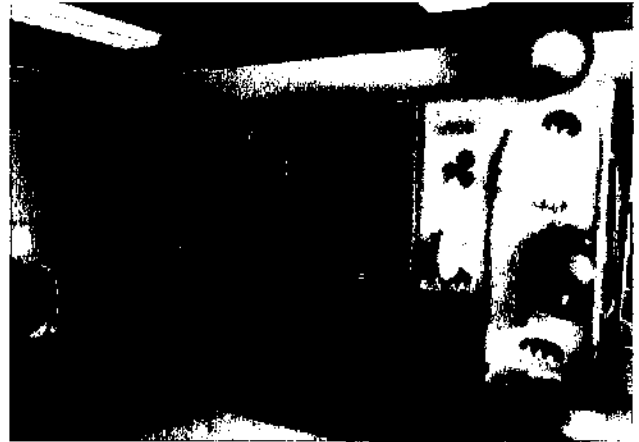


植物を使った絵の具作り

#### 4 いろいろな教室



多目的室（感覚刺激空間としても利用）



セラピー室

#### 5 公園のような屋外



### Ⅲ その他

#### 1 保護者との連携

保護者の方々に、統合保育（教育）を意識してもらうことは非常に重要と考えている。私たちの統合教育の目的や計画を理解し保護者が能動的に参加するよう呼びかけ、金銭面も含めできる限りの支援を努力していただく。

#### 2 早期教育

早期教育が必要な子どもに対し、統合保育とは別に早期教育を行っている。現在0歳から6歳の約170人の障がい児が、週に1、2回程度、教育的支援やセラピー的支援（言語・理学・作業）を行う。

早期教育は、家庭との共同的支援が大切なため、時には各家庭での教育的支援を実施している。

### 所 感

シュメッターリング統合保育所を訪問し、まず羨ましく思ったのは市街地にもかかわらず自然豊かな広大な敷地で子どもたちが伸び伸びと遊ぶ姿である。まるで公園の中に保育所があるようであっ

た。この自然豊かな環境の中、統合保育を実施することにより通常の保育所より少ない人数のグループでの保育を可能にし、予算面でも保育料（行政負担＋保護者負担）と障がい児の給付金を合わせて確保することで、保育士以外の専門職種を確保している。また、多種多様な職種の中に障がい者を雇用している点でも見習うべき点が非常に多く考えさせられた。このような環境の統合教育で育つ子どもたちには、しっかりとした統合教育の理念と目的の基礎がしっかりと育まれると思う。また、各グループの中に男性保育士を必ず1人配置することで、ひとり親家庭の子どもたちへの配慮と取り組みに感心した。保育士等の個々の技術よりも、私や組織そして社会としての意識の部分の違いと遅れを感じるとともに、学ばなければならない部分を多く感じた。

日本との制度の違いはあるものの、理念や目的では進む道は等しく、今後ますますいろいろなことに積極的に取り組み勉強していきたい。

9月8日 (火)

Augusta-Viktoria-Stift  
(アウグスタ・ヴィクトリアアペン／高齢者共存保育所)

所在地：15a-und-Krämpferufer-10, 99084 Erfurt

説明者：Ms. Anette Schuchardt／アネッテ・シューハルト (副施設長)

報 告 者：岩本 久美子

作成担当グループ：野田 泉子、椛島 たまこ、岩本 久美子



～歴史ある建物の中  
本物の家族のような  
保育園児と高齢者の日常～  
(パンフレット写真より)

## I 施設概要

### 1 沿革

1864年 非営利財団を設立 今年で設立150年

1891年 財団はドイツ皇后の名 アウグスタ・ヴィクトリアより命名

### 2 運営主体

福音派教会

ディアコニー福祉団体 (プロテスタント系)・・・ドイツ6大福祉団体のひとつ

<ドイツ6大公益福祉団体>

①パリテート福祉団体、②労働者福祉団体、③ユダヤ中央福祉会、④ドイツ赤十字、

⑤ディアコニー福祉団体 (プロテスタント系)、⑥カリタス・フェアバンド (カトリック系)



～大木とつたが  
歴史の深さを感じ  
させる趣のある  
建物～



～車いす対応  
配慮のある  
玄関～

### 3 建物の構造

#### 幼老複合施設

高齢者施設と保育園は、庭と通路を配して分棟型ではあるが、高齢者施設の一部に保育室が数部屋含まれる混在型でもある。

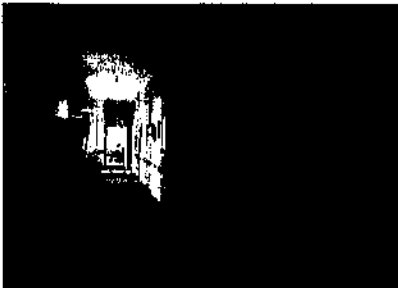


<左：老人施設 右：保育園>

### 4 方針

「生命の継承」に焦点を当て、子どもや高齢者が「1つの屋根」の下で、一緒に過ごすことにより人を感知し、保護し、介護の必要な高齢者や虚弱な人に対する思いやりの気持ちを育てる。

世代間の対話を大切にし、老若男女の関わり合いの中、子どもたちは日常の生活の中から社会的スキルを多く学び、高齢者は子どもたちとの関わり合いの中から喜びを感じ、共に活気に満ちた生活を送る。



～清潔感があり、広々とした施設。廊下の壁には、保育園児の絵がおしゃれに飾ってある～



※テューリンゲン州の教育計画7項目について

①言葉、②健康、③自然、科学、④数学、⑤音楽、⑥芸術、⑦社会教育 道徳 宗教

## II 保育園について

### 1 保育方針 目標

- ・ 1歳～6歳までの異年齢児混合保育でグループ（クラス）を構成する中で、お互いに社会性を身に付け、勉強しあう。
- ・ お互いの関係性の中から上下関係やいたわりの気持ち、優しさを育む。
- ・ 子どもたち同士の関係性のみならず、その家族、高齢者とのコミュニケーションやイベント等を通じて、広く社会全体との世代を超えた関係作りを大切にしている。
- ・ テューリンゲン州の教育計画7項目に沿って、一人ひとりの子どもが持っている才能や力を見極め、関心を見つけ、遊びや教育に展開できる保育士の配慮を大切にしている。
- ・ 子どもたち一人ひとりの自由や意見を尊重できる環境の整備、子どもたち同士で話し合い、問題を解決していける力を養う。

## 2 特徴的な活動

キリスト教の精神に基づいてのお祈りや収穫祭、クリスマスの行事等は盛大に祝う。施設の高齢者と一緒に歌やお楽しみ会、工作や料理などを通して、皆で楽しむ。参加のしかたについては、個人の気持ちを優先し、無理強いはしない。

近所や街の人たち全体の交流を通し、大勢の人との関わりの中で社会性を身に付け学習していく。



## 3 保育時間

6:30～17:30 3食付（個々の家庭状態に合わせて）

## 4 園児数（定員）とクラス構成

◎受け入れ・・・1歳～6歳

1・2歳・・・約22名

3・4・5歳・・・各30名～40名

合計…約180名

◎1歳児と6歳児はそれぞれクラス活動

◎2歳から5歳は異年齢混合クラス活動

（誕生日を迎え6歳になった時点で、混合クラスから抜けてプレスクールクラスとなり、就学準備を始める。）



～クラスの集合写真が、それぞれの部屋のドアに貼ってある～

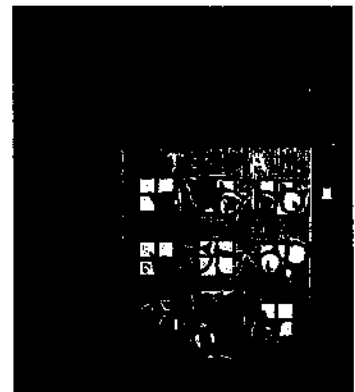
## Ⅲ 高齢者共存保育園の効果

～高齢者にとって～

- ・ 子どもたちと触れ合うことで、高齢者の行動力増加につながる。
- ・ 子どもたちが高齢者の話を興味深く聴いてくれることが喜びとなり、生きがいにつながる。
- ・ 一緒に活動することで、身体も適度に動き、健康面にも良い影響を及ぼす。
- ・ 積極的に無邪気な子どもたちと接することで、引きこもりがちだった高齢者に自然と笑顔が戻り、前向きな気持ちになる。

～子どもたちにとって～

- ・ 核家族が増える現代社会において、高齢者とのふれあいはとても貴重な経験である。
- ・ 高齢者からゆっくりと話をきいたり、優しくしてもらい、いたわりの心や年上の人を敬う気持ちなどが育まれる。
- ・ 交流の中から、マナーやさまざまな知識などが自然に身に付いてくる。
- ・ 一般の社会生活の中でも、高齢者や年下、ハンディキャップがある人たちに対するいたわりや思いやりの行動ができる。





～高齢者と子どもたちが自由に遊べる庭～



～ゆったりとした保育室～

## 所 感

少子高齢化で、地域社会の人間関係が希薄になっている現代、共存型福祉施設の在り方は、将来的に地域コミュニティの中心的役割を担える場として、これからの日本も今以上に脚光を浴びてくると期待する。年金問題、物価上昇、子どもたちの養育費増大、家族経済の悪化、既婚女性の就労の一般化、保育所不足・・・など、若い世代の諸問題を考えれば合理的解決の一方向性として、三世代家族の見直しがされてくると考えられる。実際、我が保育園地域でも、兄弟の数が3人～4人という家庭もみられ、同居の良さや祖父母の手助けなどが、子育てに良好な結果をもたらしている事例が多く見られるようになってきていると実感する。

高齢者や障害者と共にごく自然に生活することの大切さ。思いやり、いたわり、愛情、などが育まれ自己肯定感の確立、情緒の安定、過去の出来事から現在の出来事まで、歴史的視野で物事を考えられる力が育つ。また、たくさんの人との関わり合いの中から、複雑な人間関係を理解できる。

樋口恵子著「育児は育自・教育は共育」では、「子どもと老人は絶対に切り離してはならない、というのが前提である。人生を十分に生き、やがてその生命を次の世代にバトンタッチしていく老人と、人生の入り口に立った幼な子とが触れ合い、人間の年輪というものを子どもたちに教えていくこと、それは人間の教育で落としてはならないことだと私は思う。人間の出生から老いと死に至る一生のライフサイクルに子どもが直に触れながら育つということは、人生と人間を理解する上での必須課目である。」と書かれている。

まさに、育児は自分育て。教育は共に育つこと。

## あとがき

どこからともなく鐘の音が響く歴史深いドイツ。

多くの世界遺産や偉人たちの歩いた街道。高鳴る鼓動が止まらない。神々しさと厳肅性にあふれたラファエロの聖母像がまぶたに焼き付いている。足元にいる無邪気な天使たちと合わさると、まるで保育士のように。私たち保育士の使命は大変な重責を担っている。それだけに、なんてすばらしい仕事なんだろう！

自信と誇りを持って頑張っていこうと思った。

～たくさんの感謝の気持ちを込めて～



— 総合所感 —

- ◎ 海外に行くことが初めてだったので、出発の日が近づくにつれその緊張は今までにないものとなっていった。帰国して1週間以上がたち、ようやく落ち着きを取り戻してきた気がする。出発前には2週間も留守にするのでほかの職員に申し訳ないという気持ちを強く持っていたのだが、こんな機会はないから思い切り楽しんで来てねと同僚から声をかけられ、気持ちを奮い立たせて2か国についての下調べをしていった。言い訳になるが忙しくて思ったような準備はできなかったが、そんな中でデンマークの赤ちゃんがベビーカーで昼寝をしている映像を目にして驚いた。実際に視察中にその様子を見ることができたが、子どもたちのかわいい寝顔を見るたびにその国々のやりかたがあるんだなと改めて感じた。日本のこともまだまだ知っていると言えるほど探求しておらず、自分の視野の狭さに改めて気付かされた。今回の研修の中で、いろいろなことをもっと知りたいという前向きな気持ちを持てたことも収穫だった。デンマーク、ドイツは日本とは違う点が多々あったが、どちらの良い所も取り入れつつ、子どもに最善を尽くすという点では他の国と同様に追及していかなければならないと強く感じた。

今回の研修では、高橋団長、関屋副団長をはじめ、各地から集まった団員の方々や添乗員の新堀さんにたくさん助けられたことに深く感謝をしている。いろいろなお話を聞いたことは一生の財産である。本当にありがとうございました。そして、この機会を与えてくださった園長先生と職場の仲間たちに感謝します。

(北海道：尾田 志保子)

- ◎ 移民の問題が毎日のようにニュースで取り上げられるドイツだが、私の担当した保育園がある旧東ドイツでは、移民はおろか、ドイツ人以外をあまり目にするには無かった。アジア人は珍しいらしく、出会い頭にてっぺんからつま先まで何往復も珍しそうに見られることも度々あった。また差別的態度を露骨にする人もいた。そういった強い反応を示す人の中には驚いたことに若い人も多く、そんな若い人たちを含めて、英語を話す人が、ゼロに等しいくらいにいなかった。これは都市部の大きなデパートでも同様だったので、同じヨーロッパの中での違いに驚くばかりだった。この後、旧西ドイツに移動するが、そこでは移民であふれて、行き交う住人もさまざまな人種で構成され、誰もが皆、英語を話した。まさにインターナショナルだ。我々を物珍しそうに観る人は完全にいなくなり、そこに居るのが当たり前として扱われた。にぎやかな繁華街では、さまざまな場所からドイツにやってきた移民が、繰り返し自分たちの権利を叫びながらデモを行い、その周囲で街の人々は、反感をあらわにするでもなく静観している様子であった。通訳の方にお話を伺うと、旧東ドイツでも英語教育が始まってしばらくたっており、今の子どもたちが大きくなった時には状況が変わるだろう、とのことだった。善しあしの判断は全くつかないが、旧西ドイツと旧東ドイツに大きな違いがあることは事実で、旧西ドイツが移民の問題を抱えているのも事実であることが分かった。ドイツの歴史の一部と、抱える問題の深さを感じることができた。

この海外研修で予測していた不安やストレスがまるで無く、ホームシックさえ無かった。団長さんと副団長さん、参加された先生方のお力だと感じている。特に団長さんと副団長さんは優しく穏

やかなお人柄で、決して人を責めずに見守りながら必要なサポートをし、チームを徐々にまとめ導いていく方法を学ぶことができた。一生の宝になるであろう学びと出会いの機会を与えてくださったことに心から感謝申し上げたい。

(群馬県：平泉 由美子)

◎ この度は、デンマーク・ドイツの保育海外視察に参加させていただいた。

視察初日から日本との制度の違いに圧倒され、同じレベルで見たり聞いたりすることが間違っている、その国ならではの保育のしかたがあるのだと自分の気持ちを切り替え視察に臨んだ。緊張していたものの、子どもと触れ合う中でコミュニケーションは取れなくても遊びを通して分かり合えた気がする。子どもたちのために、どのような保育を行うのか、どのような取り組みが必要なのか、一人ひとりの持つ環境に対してどのように援助していくかということを大切に、行政が入り保育園と一体になっているということが基本にあり、しっかりと組み立てられている。今回の視察の中で、特に関心をもって訪問したのが健常児と障がい児が共に生活する施設だった。ふと、足の悪い子どもに手を差し伸べると、女兒が数人寄ってきてその子どもの両脇で手をつなぎ、ゆっくりと歩行の手助けをした。障害がある子どもに対して優しく接することはもちろんだが、その子どもにあったカリキュラムを保護者・保育関係者・行政が話し合い、本当に子どもの育ちに合った保育が進んでいる感じだった。ふとした瞬間の子どもの姿から、ふだん保育の中で先生たちが大切にしている子どもへの配慮や、子ども同士の関わりが見られた気がした。

日本に戻り自施設でも報告をし、保育の違いを少しでも感じてもらえたらと思う。日本人が訪問するということで日本の国旗や習字をまねて大きく装飾し歓迎してくれたり、詳しく丁寧に保育の取り組みについて説明をしてくれた各関係の皆様へ感謝いたします。児童班12名の皆様、この研修でお世話になった添乗員の新堀さん、通訳の方々と共に歌った歌は今後も忘れることはないと思う。このような貴重な体験をさせていただき、本当にありがとうございました。

(東京都：野田 泉子)

◎ 今回は海外研修という貴重な経験をさせていただき機会を与えていただきありがとうございました。2週間もの研修期間は不安な部分もあったが、理事長先生、園長先生をはじめ、諸先生方の温かい励ましと支えにより行かせていただくことになった。

今回の視察先、デンマーク・ドイツは福祉先進国であり、子どもを取り巻く環境や保育の在り方を少しでも学べるいい機会だと思った。各施設の環境設定からは学ぶことも多く、コーナーの使い方、部屋の装飾、配置のしかたなど、彩りもきれいで、見ていて楽しい気分になり、自分の保育園でも取り入れたいと思った。また、どの施設も園庭がとても広いことに驚いた。安全面で少し疑問に思うこともあったが、子どもたちは好きな遊びを見つけて伸び伸びと遊んでいた。遊びを通してルールや友達との関わり方、協調性、社会性など多くのことを学ぶ機会にもなっていた。また、どちらの国も共通していることは「子ども主体の保育」であることだった。子どもが自分の意見をしっかり持ち、発言できる保育を行っていた。プロジェクト保育もやり方しだいで子どもの能力を育てられると思うので、これから取り入れていきたいと思う。

デンマークでは午睡が戸外であることに驚いた。日本では考えられないが子どもの成長を考えてのことに、国によっていろいろな考えや対処法があることに驚きを感じた。

今回の視察を通し、新しい発見や驚きの連続だったが、とてもいい経験ができたと思う。この経験を私一人の物にせず職場の皆にしっかり伝え、より良い保育ができるよう皆で目指していきたいと感じた。

最後に、高橋団長をはじめ関屋副団長、添乗員の新堀さん、通訳の皆様、そして団員の皆様、本当にありがとうございました。  
(神奈川県：長谷川 里織)

- ◎ 今年度民間社会福祉施設職員等海外研修・調査（児童班）として派遣していただき、心より感謝申し上げます。ありがとうございます。

国内における他園の視察では、さまざまな環境や保育内容などの違いを感じていた。制度も環境も文化も違う欧州への視察は、情報収集と他国を学ぶことで気持ちがいっぱいになった。

デンマークで視察したレッジョ・エミリア方式の乳幼児園が最も印象に残った。事前学習で子どもたちも保育者も習得のプロセスを参加・共有する、というレッジョ・エミリア方式の特徴でもある教育方法は、人的環境(保育者の資質)が重要となってくると理解していた。デンマークの園では、ペダゴギーが「遊びを共有する」という方法で、子ども任せではない、「知識を育む」ことが実践できているように感じた。科学的要素を含め、子どもたちの発見の豊かさには驚かされ、その発見の仕掛けを自然の中で準備することのできるデンマークの自然環境はすばらしいと感じる。今回の視察において、最も関心の高かった「教育」へのアプローチにおいては、子どもが安心する環境づくりや基本的な生活習慣の自律の要素と、コーナー遊びなどによる子ども主体のあそびの姿が見られた。デンマーク、ドイツ、いずれの国も、就学前では文字や数といった学習的要素にも力を入れている様子であった。一方、フレールベル教育の園での取り組みは2歳から図形や折り紙など集中力を養う活動が中心に感じられ、視察した園の良いところばかりを取り入れた教育の実践にわくわくとした気持ちになった。

今回、視察するにあたり、レッジョ・エミリアの展覧会についての本を読んだ。展覧会とはその園で実践された知識の形成における子どもたちの参加の成果を確実に伝えるものであり、子どもたちにとっては、成果を認め、目に見えるものにするすることで、参加の存在意義を得る。そしてそれは、保育者、保護者の意義にもなり得る。と記されていた。わが園でも行っている作品展の意義を改めて確信し喜びを感じた。

より良い子どもの育ちを支えるための人的環境である保育士やペダゴギーの社会的地位が教育者より低い現状は日本、デンマーク、ドイツ、皆同じであった。このためロスキルデ市においては地位向上、処遇改善に向けて研究所が開設されたそうである。日本でも、東京大学 Cedep（発達保育実践政策学センター）が設立されたことは、今後日本が「知識の発達」という面で世界の先を歩いていけることを願い、調査報告を今後の保育研究に役立てていくことの使命も感じた。

貴重な13日間をありがとうございました。  
(神奈川県：高木 麻里)

- ◎ 正午を告げる鐘の音とともに、ゲーテはマイン河畔のフランクフルトで生誕した。世界遺産の宝庫ドイツ！バロック様式の町並みからは、どこからともなく鐘の音が歴史の深さを知らせてくれる。ゲーテ、バッハ、ヴァーグナーをはじめとする偉人の軌跡をたどるゲーテ街道。美しく歴史ある街、華麗な城・宮殿、ユネスコ世界遺産、芸術、文化、深い歴史に出会える国ドイツ。ラファエロの聖母画が鮮明にまぶたに浮かび、保育士の象徴のような微笑だった。

デンマークは大小400以上の島々、そしてドイツと陸続きのユトランド半島からなる小さな国でも、見どころは多彩。コペンハーゲンはもちろん、近郊の森林地帯に点在する歴代王室の古城、アムステルダム生誕の地オーデンセのかわいらしい町並みなど、おとぎの国そのもの。

そんな歴史とロマンあふれるデンマークとドイツで、夢のような研修に胸を躍らせた。

福祉大国であり、消費税は高額だが、国連の幸福度調査では常に上位であるデンマーク。メルケル首相を代表として女性の社会進出が高く、合理的に仕事をこなし余暇を楽しむ。海外旅行が大好きな国民で、10人中9人は1年に1回は出国しているというドイツ。移民の増加や経済のグローバル化と格差の拡大など、社会的な構造の転換が幼児教育に対して影響を及ぼし始めていることも見過ごすことはできない。OECD 保育白書が指摘するように、世界の幼児教育は大きく2つの類型に分けられることを切実に感じた。①就学準備や教育面を重視するような幼児教育と、②幼児期を想定するペダゴジーの伝統に則り、生涯学習の基盤として幼児期を位置づけ、ケア、養育、教育に対する包括的な幼児教育である。ドイツとデンマークは後者の②を推進してきたと言われている。しかしながら、日本でも同様であるが、ドイツ、デンマークでも保護者の養育力の低下が見られ、親支援の質の向上と同時に、子どもの生きる力を育みながら、学力支援の必要性も重視されてきていると感じた。日本においても、これまで積み上げてきた勤勉性を土台にさらなる幼児教育の質の向上のため、政策的、制度的、実践的な取り組みが進んでいくだろうし、私たち保育士自身も強い使命感をもって子どもたちの未来に向けてより頑張っていきたいと感じた。今回、自分自身の人生においてこんなにも刺激的な研修に参加することができ、本当に幸せに思う。研修参加に際して、快く応援し仕事のサポートをしてくださった理事長先生、園長先生はじめ職場の皆様。主催者である試験センター様、一緒に参加してくださった高橋団長、関屋副団長はじめ10名の皆様、参加者の心のよりどころであった添乗員の新堀さん、本当にお世話になりました。貴重な体験や感動をしっかりと心に刻み、得たものを皆さんへの感謝の気持ちとともに、精一杯仕事に生かしていく所存である。ありがとうございました。 (新潟県：岩本 久美子)

- ◎ 今まで日々の仕事に追われ、目の前のことに精いっぱいだった私が、今回思いがけずこの話を頂き、行政のことやいろいろな保育思想があること等詳しく知らないのに、大丈夫なのだろうかと不安を抱くとともに、新しい環境で自分の知らないことをもっと学んでみたい、と期待に胸を膨らませたことを思い出す。

緊張で出発の日を迎えたが、皆、保育に携わる仕事をしていることもあって、すぐ和やかな雰囲気になり楽しく過ごさせてもらうことができた。

デンマーク・ドイツの事前学習を行う中で自分の園の保育と通じる部分が多く、異年齢保育やコー

ナーの環境設定、人的環境はとても興味があった。視察してみると、どの園も広大な敷地の中に、子どもたちの楽しそう、やってみたいと思えるような教材や遊具があり、そこで伸び伸びと遊んでいる子どもたちの姿、子どもの意思を尊重しながらできるまで待ち、保育士間で連携を取り合っている子どもたちを見守る保育士の姿があり、私は危機管理が優先してしまい、子どもに静止の声を掛け過ぎているなど反省した。そして子どもの話をよく聴き、何に興味を持っているのかに気付き環境作りをする大切さを改めて感じ、自分の保育にも生かしていきたいと思った。文化や価値観の違いもあったが、子どもの育ちを願って保育をしていく姿勢はどこも共通であり、一番大切な時期にさまざまなねらいをもって保育をしていく保育士の処遇も、日本同様もっと向上してほしいという思いは同じだった。また、行政から保育制度や監査の説明を受け、日本よりもっとシンプルで、保育士が机に向かう時間より子どもと関わる時間を大切にしていることや、子どもを中心に保護者と施設と行政が連携を取っていることがわかり、日本の保育制度ももっと子どもが主体となるような制度であればと羨ましくもあった。

2週間の研修で視察はもとより、他の先生方と行動を共にする中で情報交換をし、自分の考えや視野を広めることができ、異国の文化を肌で感じる事ができ、私の大きな財産となった。ありがとうございました。(長野県：内山 奈々)

- ◎ ロスキルデ市ではコミュニケーションで保育制度の講義を受け、施設を見学した。子どもたち一人ひとりを大切に、遊びの中で人・自然と関わり社会性を身に付け、人としてどうあるべきかを学べる保育が行われていた。子どもたちが主体となり、自分で何をどこまでするかを決める、自分の意見はしっかりと主張する、その手助けとして保育士が子どもと同じ立場で関わっていたのが印象的だった。ゆったりとした時間が流れ、子どもたちが伸び伸びと遊ぶ姿に癒やされると同時に、羨ましくもあり、慌ただしく保育している自分を反省した。また保育士や保育ママの意識の高さに感銘を受けた。特に保育ママは保育の専門性が高く、自信を持って保育に取り組んでいる姿が印象的であった。テューリンゲン州ではさまざまなタイプの施設を見学した。どれも大きな施設で室内環境が整っていた。ロフトのある保育室や明るい色調の玩具、教材が子どもたちの使用しやすいよう配置してあった。自然物を使用した子どもの作品も飾ってあり、掲示方法の参考となった。ペットボトルやせっけんなど身近にあるものを利用する科学遊びが興味深く、取り組んでみたい内容であった。

保育現場を見学し、行政の話も聞き羨ましいと思うが、実際日本では環境、安全面や衛生面等、導入が難しい点の方が多かった。しかし、子どもたち一人ひとりを大切にすることの重要性、気持ちに余裕ある保育をすることの大切さを改めて考え、そのためにはどのような工夫が必要かを考える機会となった。また、日本の給食の栄養がとれバラエティ豊かなメニューのありがたさを痛感した。研修出発前は不安で憂鬱だったが、13日間でたくさんの方と出会い、文化に触れる貴重な経験ができて爽快な気分での帰国した。

多忙の中、歓迎してくださった現地の方々、軽快なハーモニカで団員を率いてくださった高橋団長をはじめ、関屋副団長、相談に乗ってくださった団員の皆さま、トラブルにも即座に対応してくださった新堀さん。そして快く送り出してくださった園長先生はじめ園の職員に心から感謝申し上げます。

げたい。この研修で学んだことを今後の保育の向上に役立てていきたい。

(福岡県：青柳 治美)

● 大変すばらしい研修だった。

事前に視察先の文化や保育概要などをできるだけ理解しておこうと文献をいくつか読んで研修に臨んだが、実際に保育施設を見て、感じて、職員の方々に話を伺うことで、より深い実情を知ることができた。そのため、福祉が先進的だという理由と保育観の違いが多少なりとも理解できた。

福祉が先進的と感じた理由は、デンマーク、ドイツどちらも行政と施設と保護者が一体となり「子どものより良い成長」を中心にして互いに協力を惜しまない。そのためだろう、施設一つ一つには十分な人員配置と余裕のある園庭が備わっているなど、人的、物的環境が豊かで職員の教育制度も整えられていた。それでもなお、施設と保護者は子どもの成長のためには人員を増やして今よりも良い環境を与えるべきだという。

保育観においては、欧米では「個人」を重視し尊重することで自己決定したことに責任を持たせている。自分が選択した行動の結果から自分を理解することができ、自分とは違う「他人」も認めることができるということだった。それが自立に結び付くという流れになっていた。日本も自立に向けて「個人」を尊重するが、周囲のことも気遣って自分の考えや行動を寄り添わせる「和」も尊ぶ点があり、集団の力を発揮させる保育内容が多々ある。こうした保育観の違いも大変興味深く、そうした育て方が国民性につながっていくのだと深く感じた。

これら環境整備、保育観の違いはあれども、子どもに関わる保育者の意識を今必要だと感じる方向に転換させていけば、各施設内で取り組むことのできることはどんどん見えてくる。まずはそのために、この研修で学んだ保育観で取り入れるべき点を職員間で共有していこうと思う。そして保護者、地域と広げていきたい。

最後にこの研修期間がとても有意義であったことについて、訪問先の行政と施設の方々、共に受講した皆さんに感謝いたします。ありがとうございました。(福岡県：柁島 たまこ)

● 海外研修参加に際し、初めは長期にわたって職場や家庭を留守にすることへの心配と不安があったが、国を超え、広い視野で物事を観る機会を頂き、心から参加できて良かったと思う。

デンマークとドイツの保育施設を視察して強く感じたことは、「文化や習慣、言語が違って子どもたちは全然変わらない」ということだ。キラキラした目の輝き、我先にと興味深そうにのぞいてくる愛くるしいまなざしは、日本の子どもたちと何一つ変わりなく、言葉は通じなくても心を通わせることができるのだと安心した。まるで公園のように広大で自然豊かな園庭で、力いっぱい駆け回る子どもたちの姿は、今でも忘れることができない。

通訳をしてくださった三浦さんが、「デンマークでは、子どもたちに小さい時から、自分で考える力、自分の意見を述べる力を身に付けさせることを重視している」、「子どもは子どもらしくという考えが基礎にあり、公共の乗り物や施設において『～してはダメ』『～さんに迷惑がかかる』等は言わない」とおっしゃっていた。今回の訪問で、基本は全てここにあるのだと実感した。集団保

育ではなく個を尊重し、好きな場所で好きな遊びを見つけて伸び伸びと遊ぶ。そのための環境作りは大人がしっかりと行い、子どもの発達へとつなげていく。しかし自由の中にも決まりはあり、子どもたちそれぞれが自分の行動に責任を持つ。参考にすべき点が多々あった。

また、デンマーク、ドイツ両国に共通する「子どもたちの目にはできるだけ自然の光で」という考えから電気を最小限に抑え自然の光で生活するスタイルは、ぜひ取り入れていこうと思う。町なかで大中小さまざまなローソクが所狭しと売られており、公共の場所でもローソクの光が使われ、国全体で環境に優しい取り組みが行われていたことには、日本人として考えさせられた。

最後に、一生の思い出に残るすばらしい研修の機会を与えてくださった皆様に心から感謝します。また、団長の高橋先生をはじめ、副団長の関屋さん、児童班の皆様方、関係者の方々、本当にお世話になりました。ありがとうございました。(福岡県：永野 浩子)

- まず初めに、約2週間の長期にわたり憧れの北欧デンマーク、そしてドイツに行き行政訪問での制度・施策の説明。保育所等の現場での視察研修ができたことは私にとって最大の喜びと、今後の保育・福祉に携わる上での大きな経験になったことを、社会福祉振興・試験センターに深く感謝したい。

デンマーク、ドイツの保育所は、私たちの知る日本の保育所とはかなり違い、園庭に起伏を作り緑に囲まれた環境の中、子どもたちが伸び伸びと思い思いに遊び過ごしている。設定保育等はあるものの、基本は遊びを通し子どもたちの成長を育んでいる。特にデンマークでは、乳児の頃から、外気に触れることで子どもの気管支機能を鍛えたとされ、真冬でも外気の中でお昼寝をする習慣がある。幼児になっても子どもたちは、雪はもちろん、小雨程度まではカッパを着て園庭で元気いっぱい遊んでいる。また、園庭には、ファイヤープレイスもあり、日頃から子どもたちが簡単な調理をしたり、冬には火を囲んで遊んだりできるようになっている。常に自然と一体となった保育環境の中、子どもたちがたくましく元気に成長する姿、そこに寄り添う保育士の姿を羨ましく感じる。

日本では、このような保育をしていると、まず最初に子どものケガのことを考えるが、トルロホイの園長の「私たちのケガへの恐れが、子どもたちの成長・発達にブレーキをかけることが問題だと思っている。」の言葉に驚きと共感を覚えた。

確かに私たちも、子どもたちの成長にも失敗は付きもので、特に子どもたちの遊びの中にはケガや失敗が付きものである。大きな事故につながらない程度、子どもの成長に最初の段階でブレーキをかけないよう気を付け、気に掛けながら保育士が連携し保育に取り組みたいと思う。またイベント重視の保育スタイルなどにも気を付け、本末転倒にならないようにしたいとも思う。特に改善したい取り組みの一つは、今回の視察研修で感じた、保育士の記録等のペーパーワークの量の違いである。日本の保育所の日常の中に多く存在する煩雑な記録書類・提出書類等の簡素化を図り、保育士がゆとりをもって子どもと関わることでより成長に寄り添える保育環境を作りたい。

(佐賀県：川原田 知章)

⑤ 児童班

月日(曜日)	発着地・滞在地	時間	交通機関	研修・調査施設等	摘要
8月30日(日)	東京(成田)発 コペンハーゲン着	11:40 16:05	SK-984 専用車	成田空港に集合。空路コペンハーゲンへ 【所要時間:11時間25分】 着後、ホテルへ	コペンハーゲン泊
8月31日(月)	ロスキルデ・ コペンハーゲン滞在	午前  午後	専用車	●ロスキルデ・コミュニケーション (行政機関) ●ポーネフセット・ヘーネン (レッジョ・エミリア方式総合乳幼児園) ◎施設職員との意見交換会 ●ポーネフセット・トロルホイ (スポーツ総合乳幼児園)	コペンハーゲン泊
9月1日(火)	ロスキルデ・ コペンハーゲン滞在	終日	専用車	●ライストウエン・ミニボ (デイサービス・保育ママの共同保育施設) ◎施設職員との意見交換会	コペンハーゲン泊
9月2日(水)	ロスキルデ・ コペンハーゲン滞在	終日	専用車	●ポーネフス・メリタ (森の保育園) ◎野外保育の体験	コペンハーゲン泊
9月3日(木)	コペンハーゲン滞在	午前 午後	専用車	コペンハーゲン市内文化施設視察 資料整理	コペンハーゲン泊
9月4日(金)	コペンハーゲン発 フランクフルト着 ワイマール着	10:05 11:35	SK-1637 専用車 (174km)	空路、フランクフルトへ【所要時間:1時間30分】 着後、ワイマールへ【所要時間:約2時間】	ワイマール泊
9月5日(土)	ワイマール発 クヴェトリンブルク発 ライプツィイ発 ワイマール着	終日	専用車	ゲーテ街道文化施設視察	ワイマール泊
9月6日(日)	ワイマール発 ドレスデン発 ワイマール着	終日	専用車	ゲーテ街道文化施設視察	ワイマール泊
9月7日(月)	ワイマール・ エアフルト滞在	午前 午後	専用車	●ロイパーランド保育園 (エアフルト市青少年局担当者より行政説明) ●キンダーシュタット・フリードリッヒ・フレーベル保育所 (フレーベル教育の保育所)	ワイマール泊
9月8日(火)	ワイマール・ エアフルト滞在	午前  午後	専用車	●シュメッターリング (障害児統合保育所) ◎施設職員との意見交換会 ●アウグスタ・ヴィクトリアアペン (高齢者共存保育所)	ワイマール泊
9月9日(水)	ワイマール発 フランクフルト着	午前 午後	専用車 (174km)	フランクフルトへ【所要時間:約2時間】 資料整理	フランクフルト泊
9月10日(木)	フランクフルト発 コペンハーゲン着 コペンハーゲン発	12:20 13:40 15:45	SK-1638  SK-983	出発まで自由視察 空路、コペンハーゲンへ【所要時間:1時間20分】 コペンハーゲン乗り継ぎ帰国の途へ 【所要時間:10時間50分】	機中泊
9月11日(金)	東京(成田)着	9:35		帰国手続き後、解散	



## 4 海外研修・調査報告に寄せて

(5) 児童班

団 長 高 橋 絃  
副団長 関 屋 義 和

平成27年度民間社会福祉施設職員等海外研修・調査派遣団児童班の13名は平成27年8月30日（日）から9月11日（金）までの13日間にわたり、ドイツのエアフルトおよびデンマークのロスキルデにおける市役所・保育施設の視察を行い、保育サービスや保育内容について学び、知識や見聞を広めた。

特に最近の日本においては、平成24年8月に子ども子育て支援関連法が成立し平成27年4月から施行され幼保連携型認定こども園への移行が進められていることから、諸国においてどのような保育制度が進められているか、保育内容や保育の現状を把握することなど、それぞれの思いを持って研修をスタートさせた。

### 1 問題意識

わが国の保育所は、数度にわたる制度改革により女性の就労と育児の両立を支援する保育施設としての役割と、就学前教育の場としての役割を併せ持つ性格を持っている。教育基本法の改訂による位置づけや、「就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律」（平成18年6月15日法律第77号）により、設定された「認定こども園」が就学前教育施設として位置づけられ、保育所からの移行も勧められており、既設の認可保育所の動向が注目されている。

少子高齢化が進み、労働力人口の減少への対策として、女性の社会進出を促進しようという施策が進められており、就業率が徐々に高くなりつつある。女性就労率の高い東部ドイツ、デンマークにおいてはワーク・ライフ・バランスの点でも保育園が行政施策の中にどのように位置づけられているか、関心のあるところである。

このように、就学前教育と少子化対策の両面で保育園の存在がますます重要視されている中で、子どもの最善の利益を考える保育関係者にとって、保育の目標、環境、保育内容がどのように展開されているか把握したい。

研修・調査先の詳細な報告は、参加した団員がそれぞれ分担し、報告をする。主催者から準備していただいた資料で各自事前学習をし、両国の保育制度の概略について共通の予備知識を持つことができた。（後に示す）

### 2 研修国および都市

- (1) デンマーク（シェラン・レギオン（州）にあるロスキルデ・コミューン（市）。なお、ロスキルデ（Roskilde）は旅行ガイドブック等でロスキレ（[*askilø*]）と表記されている場合が多いが、今回はロスキルデとする。）

## (2) ドイツ（テューリンゲン自由州エアフルト市）

両研修先に共通する点としては、女性の就業率が高く、幼保一体型の保育園が多く、レッジョ・エミリア等特徴のある保育方法を認めているという点で、今後のわが国の保育事業を展開する上で参考になると思われる。

## 3 派遣団員の構成

団員の構成は国内の保育所で勤務している保育所の保育士で、平成27年9月1日現在保育所において勤務年数5年以上で、年齢30歳以上55歳未満であって、過去においてセンターの海外研修に参加したことのない者であること。かつ心身ともに健康で、協調性があり団体行動ができる者で、各所属施設長を経て社会福祉法人日本保育協会の長から推進された者11名が参加した。

## 4 調査・研修方法

### (1) 事前準備：資料で現地の予備知識を学ぶ。

主催者の準備文献等は以下のとおりである。

#### 《デンマーク資料》

- OECD 保育白書 人生の始まりこそ力強く：乳幼児期の教育とケア（ECEC）の国際比較（2013年3月 榊明石書店）
- デンマークの豊かさ～教育の意義とは～（京都産業大学 文化学部 国際文化学科 水谷有希）
- 環境教育センター第1回講演会（Mカフェ1）報告 世界一幸せな国デンマークの教育に学ぶ（南九州大学 磯部英良 加藤幸夫）

#### 《ドイツ資料》

- 世界の社会福祉年鑑（2014 榊旬報社）
- OECD保育白書 人生の始まりこそ力強く：乳幼児期の教育とケア（ECEC）の国際比較（2013年3月 榊明石書店）
- 世界の幼児教育・保育改革と学力 PISA ショックに見る保育の学校化「境界線」を越える試み 小玉亮子・御茶ノ水女子大学（2009年6月発行 榊明石書店）
- ドイツの保育制度—拡充の歩みと展望— 齋藤純子 国立国会図書館調査及び立法考査局

#### 《日本の保育資料》

- 世界の幼児教育・保育改革と学力 汐見稔幸・白梅学園大学（2009年6月発行 榊明石書店）
- 平成26年度民間社会福祉施設職員等海外研修・調査事業報告書（2015年3月 公益財団法人社会福祉振興・試験センター）

### (2) オリエンテーション

団長と副団長を除いた団員11名を4班に分け、各班に班長を決め、調査方法について協議した。

（A班3名、B班3名、C班3名、D班2名、班員名は各報告書（後記）に記載。）

訪問視察先は当初予定では9か所（行政機関2か所、保育施設7か所）であり、視察先ごとに報告書作成担当班を割り当て、報告作成担当者を定めた。なお、実際にはエアフルト市青少年局の行政説明は、市役所ではなく、当局が用意したロイバーランド保育園で当施設の見学も兼ねて実施した。

保育施設等を訪問した際は、報告者作成担当者が主に質疑等を行い、他の班員が補う方法で研修・調査を行うことにした。

## 5 研修状況

視察先はデンマークでは6か所（行政機関、保育所4か所、デイサービス・家庭保育各1か所）、ドイツでは4か所の保育施設を訪問した。

### (1) デンマーク 「ロスキルデ・コミュニオン」

- ① ロスキルデ・コミュニオン児童福祉課
- ② ボーネフセット・ヘーネン（レッジョ・エミリア方式総合乳幼児園）  
昼食をとりながら当施設職員と意見交換会
- ③ ボーネフセット・トロルホイ（スポーツ総合乳幼児園）
- ④ ライストゥエン・ミニボ（デイサービス・保育ママの共同保育施設）  
昼食を取りながら当施設職員と意見交換会
- ⑤ ダオプライエン（保育ママシステム）
- ⑥ ボーネフス・メリタ（森の保育園）

### (2) ドイツ 「エアフルト市」

- ① ロイバーランド保育園（レッジョ・エミリア方式保育）  
エアフルト市青少年局子どもおよび青少年支援部（行政）担当者が帯同し、保育行政に関する講義および質疑応答も行う。
- ② キンダーシュタッテ・フリードリッヒ・フレーベル（フレーベル教育の保育所）
- ③ シュメッターリング（障害児統合保育所）  
当施設職員と意見交換会
- ④ アウグスタ・ヴィクトリアアペン（高齢者共存保育所）

## 6 訪問国の概要

### (1) デンマーク（OECD 白書より）

- ① 総面積 約45万 km<sup>2</sup>
- ② 人口 約540万人 出生率：1.76%
- ③ 首都 コペンハーゲン（人口約58万人）
- ④ GDP 1人当たり2万9,200ドル
- ⑤ 女性の労働力参加率 76.1%、パートタイム雇用は24.3%（2004年）
- ⑥ 子どもを持つ女性の労働力参加率  
3歳未満の子どもがいる母親の参加率は約70%、3～7歳の子どもがいる女性では80%。6歳未満

の子どもがいる母親の平均就労率は74%で、そのうちパートタイム就労率は5%。

⑦ 主要なサービスの種類と機関

6か月から6歳までのデイケア施設は、家庭的保育と施設型デイケア（保育所、幼稚園、異年齢統合施設）に分けられる。

⑧ 認可サービスの利用率

0～1歳は12%、1～2歳は83%、3～5歳は94%。（2004年）

⑨ 主要職員の専門職資格

保育サービスの施設には、すべて有資格教育者の管理運営者および運営者代理がいる。有資格職員はペダゴギーと呼ばれ、高等専門職養成カレッジで3年半のコースを修了している。チャイルドケア補助員は中等職業教育を受けている。

⑩ ECEC サービス施設職員の60%は有資格職員である。

⑪ 所轄官庁

デンマークの保育制度は、1998年の社会サービス法に沿って作られている。

この法律によると、0～6歳の子どもへのサービスは総合的な社会福祉システムの一部とみなされている。就学前機関には保育園、幼稚園が有り、それを拡大した0～6歳の統合サービスも有る。0～3歳の選択肢には公立の家庭的保育が有る。

就学前機関は教育的目的、社会的目的、および養護的目的を有している。教育的目的には養護と保護、子どもへの遊びと学習の機会の保障、子どもの想像力・創造性・言語発達の促進であり、要するに子どもに安全で良好な子ども時代を保障することである、とされている。

チャイルドケア施設の国レベルの監督官庁は、家庭消費者省 (Ministry of Family and Consumer Affairs) である。この領域の施策の責任を担い、認可基準や財政支出等の原則的事項を監督している。

しかし、直接的な管理責任は地方自治体（コミューン）で、資金供与を行って、親の要求に応えたサービスを作りあげること、地域のサービスの質と教育内容を監督すること、職員の適切な配置と十分なサポートを行うことなどについての責任を持っている。

⑫ 社会背景

このデンマークの保育・教育サービスの目的は、親が安心して子育てと就労または就学を両立できるようにすることと、児童の発達と学習を支援・促進し、本人にとって最適の環境で児童が成長できるようにすることである。そして、日本の保育所保育と同じように1日を通して保育・教育がなされている。

基礎学校では、児童に生きる意欲と知識・技能を与えるとともに、好奇心と自尊心と創造力を育むことを目的としている。

⑬ 児童保育・教育施設の種類

児童保育・教育施設の種類には5種類ある。

i ダオブライエン（保育ママシステム＝家庭的デイケア）

自治体が雇用する保育者が自分の家を家庭的保育場所として乳幼児に保育サービスを提供する。

ライストゥエン ミニボのように、いくつかの保育ママが週に何回か共同で公設のデイケア施設を利用できる。

ii 保育園

対象児は6か月から5歳児の幼児。(全ての親が有給の育児休暇を取るため、6か月未満児の保育は実施していない。)

平日の日中のみ開所(午前6時から午後5時の開所が多い)。

iii 幼稚園

日中、保護者が家にいる就学前児童を対象とする教育施設。

iv 異年齢統合施設

保育園・幼稚園を統合した施設。

v 余暇時間施設・自由時間施設

学校の放課後、6～10歳の子どもが利用。

(2) ドイツ 正式名称 ドイツ連邦共和国 (Bundesrepublik Deutschland)

16州による連邦共和制。(旧西独10州、旧東独5州およびベルリン州。)

- |            |                           |
|------------|---------------------------|
| ① 総面積      | 357,021km <sup>2</sup>    |
| ② 人口       | 約8,110万人(2014年) 出生率:1.38% |
| ③ 人口密度     | 225人/Km <sup>2</sup>      |
| ④ 首都       | ベルリン                      |
| ⑤ GDP      | 1人当たり39,058ドル (2012 IMF)  |
| ⑥ 保育園・幼稚園数 | 53,415園(ニュースダイジェスト・今井民子)  |
| ⑦ 新生児出生数   | 71万5千人(2014年・ニュースダイジェスト)  |

ドイツ連邦共和国の保育制度は、児童青少年援助法のもとに、主として青少年・家族・女性・福祉関係省が所管している。女性の就業率が高く、就学前の保育制度が整っていた旧東ドイツ地域と、女性の就業率が低く、3歳未満の保育制度がわずかしかなかった旧西ドイツ地域と、保育環境はたいへん異なっていた。1990年に統一後、保育制度も他の制度同様に旧西ドイツに合わせる方向へと進められたが、EU内でも出生率が最も低いグループに属してきたドイツでは、現在は幼児教育・保育制度も少子化対策として位置づけられ、さらに、女性の就労を支援する意味でも、保育制度の拡充政策が強力に進められている。

保育制度としては、主として、3歳までの保育園(Kinderkrippe)に、3歳からの幼稚園(Kindergarten)就学段階の学童保育(Hort)があったが、近年、KITA(Kindertagesstätte)と呼ばれる、保育園、幼稚園、学童保育の一体化された保育施設が、大都会中心に広まっている。

旧西ドイツの保育施設には伝統的に公立よりも私立の方が多く、私立約70%、公立約30%であったが、旧東ドイツではほとんどが公立であった。

今回視察したのは、旧東ドイツの行政区エアフルト(Erfurt)市にある保育園で、エアフルト市はテューリンゲン自由州の州都であり最大都市(人口204,994人=2010年12月31日現在)、ドイツ

の首都ベルリンから南西へ237kmの場所に位置している。旧西ドイツに比べ、旧東ドイツでは保育政策を進めてきたことから、保育政策が進んでいるのではないかと期待して視察に入った。

## 7 視察研修状況

研修中の13日間は天候にも恵まれ、各国の行政関係、保育施設、文化施設の視察・研修も順調になされた。

特に、デンマークのロスキルデにおいては、日本人が視察に来たということで市をあげて歓迎され、市の広報部が視察先の保育園に写真を撮りに来た。庁舎内での保育行政の説明を聞き、職員食堂で一緒に食事をさせていただき、各人に市名の入ったトートバック、事務用品等をお土産に頂いた。

当市の保育関連の制度はシェラン・レギオン（州）で規定されている制度に従い進めているが、保育関連の職員の給与・待遇は民間保育施設も公立保育施設と同等である。保育施設・設備においても公費は多く支出されていた。

どの保育園も園庭は広く、各保育園の保護者も参加する運営組織で定める保育・教育目標に従い、コーナーが作られ、遊具や設備が配置されているなど、環境構成が良くなされている保育施設が多く見られた。

遊びの中から自立心が育つという考えから、屋外の遊びを大切にしている。だから園庭が広いのか、降水量が少なく雨天でも子どもは長靴・レインコートを着用して屋外で遊ぶ。冬季も綿入れの防寒服を着て、外遊びをする。子どものロッカールームには長靴・レインコート・防寒着がセットされていた。

9月5日（金）から9月7日（日）の文化施設視察はワイマール・ドレスデン、クヴェトリンブルク、ライプツィヒ、デンマークのコペンハーゲンであった。

9月8日（月）からはドイツ・エアフルトの行政説明を受け、保育施設について視察・研修を行った。

視察の視点は無意識のうちにわが国の制度との比較において見ようとしがちである。わが国において保育園は幼稚園と比較されながら制度的にも現場でも度重なる保育所保育指針の改訂等により就学前教育の内容を充実させてきており、保育所保育指針の改訂を機に小学校との連携も進められ、教育面が重視されてきているが、ドイツでもデンマークでも同様な施策が進められていた。

2000年にOECD 31か国でPISA（学習到達度調査）を実施したが、その結果はドイツおよびデンマークに共通した「ショック」を与えた。PISAは①読解リテラシー、②数学的リテラシー、③科学的リテラシーを調査したものだが、ドイツは①21位、②20位、③13位、デンマークは①16位、②12位、③22位と平均を下回る結果であった。ドイツでは学習能力が就学前教育との関連において論ぜられ、2001年12月に教育改革に向けて、7つの行動プログラムが示されたが、いずれも就学前教育と関連

がある内容であった。

エアフルトは就学前教育に力を入れている感じであった。

毎月2回発行されている現地の日本人向け情報誌「ドイツニュースダイジェスト」1009号を見る機会を得たが、「新生児出生が前年に比べ3万3千人（4.8%）増の71万5千人と10年ぶりに70万人を超え、保育園を拡充。」（今井民子氏）1008号ではミュンヘン経済研究所の情報として「保育園の増設は家族政策にとどまらず、国民経済に多大な影響を及ぼしていることを指摘。子どもを保育園に預ける割合が高い地域では、出生率が上昇することが明らかになっている。」と報じている。

わが国の特殊合計出生率は1.26(2005年)～1.41(2012年)まで上昇したが、先進国の中でも低い水準である。このまま上昇傾向が続くかどうか不明である。出生数の減少は続いている。(25年少子化対策会議)

わが国においても、少子化対策の中心に待機児童解消加速化プラン等保育園の拡充が挙げられている。

両市の視察で一番感じたのは、子ども主体で制度が動いているという点である。職員が子どもと過ごす時間を大切に、書類が少なく記録整理に費やす時間は少ない。まして書類の持ち帰りなど皆無であるという。視察したすべての保育園で異口同音に聞かれたことである。

開園時間は基本的には早朝6時から夕方5時まで、遅くても6時と言う。

「父親の3人に1人が「子どもと過ごす時間をもっと」と望んでおり、仕事をしている父親の2人に1人が「子どものために仕事の時間を減らしたい」と願っていることが、連邦家庭省の調査で明らかになった。(2012～13年に5,000世帯以上を対象に調査)。という記事も有る。

双方とも子どもの幼児教育・保育に力を入れ、保育施設の内外（施設、園庭）の環境構成が大変すばらしく、日本の保育所においても学ぶべき点が多く見られた。このことは団員も同じ思いを持ったと思われる。

## おわりに

最後に、この研修で得られた知識、体験等を日々の保育に役立て、職場だけでなく、各市町村の保育関係者に広げていただくとともに子どもの幸せを追い求める団員に心から敬意を表したい。また、団長・副団長としてこの機会に携われたことに深く感謝を申し上げたい。

本文作成にあたり、前述の事前資料を活用させていただいた。



8月31日（月）

Roskilde Kommune  
(ロスキルデ・コミュニケーション児童福祉課／行政機関)

所在地：Rådhusben 1, 4000 Roskilde

説明者：Ms. Helle Mitzi Christiansen／ヘレ・ミツイ・クリスチャンセン(デイケア保育開発コンサルタント)

報 告 者：野田 泉子、椛島 たまこ

作成担当グループ：岩本 久美子、野田 泉子、椛島 たまこ

### I デンマーク概要（訪問先 ロスキルデ市）

国の人口約530万人、面積約4.3万 km<sup>2</sup>で、日本の九州とほぼ同じ面積である。北歐4か国の中で一番小さな国ではあるが、国民の自国の経済、福祉の満足度は高い。

ロスキルデ市の人口83,554人、6歳未満人口5,529人である。

### II デイケア法

国の児童青少年統合省で、保育の法律となるデイケア法が定められている。これは保育のみにとどまらず、学校の法律と関係して学童や学童以上のクラブと呼ばれる学校活動と関係している。

#### 【デイケア法4つの目標】

- 1 児童の幸福発展をデイケア活動で実現する。
- 2 その実現は公共施設および自宅でも行われること。
- 3 負の社会的遺産を防ぐこと。(発達への阻害となるものを除き、補われること。)
- 4 デイケアサービスは施設から施設・学校への移行がスムーズに行われること。

その実践は、父兄と協力して児童の幸福と発展を推進され、児童自らの活動とペダゴギーの教育的活動でなされている。

### III デイケア概要

ロスキルデ市では現在、6歳未満人口5,529人の84パーセントがデイケアを利用している。行政は市民が社会で働ける環境を構築するために福祉施設を充実させている。

- ・乳幼児保育所 ・保育ママ制度 (対象年齢6か月から3歳)
- ・幼稚園 (対象年齢3～6歳)
- ・統合保育所 (対象年齢0～6歳)

いずれの施設も、子どもの知的能力と社会性を高めることを目指している。

保育費用は自治体によって多少異なるが、保育園と幼稚園にかかる費用はそれぞれ約3,370、2,370クローネ（2015年9月現在 1DKK=17円）である。兄弟が保育施設を利用すると割引を受けることができる。また低所得者を対象とした割引制度も設けられている。

市内の全施設数50～60のうち、私立施設は5軒ある。

保育はペダゴギーと呼ばれる専門教育者が主となって計画し、補助者とともに保育にあたる。保育者の配置基準は0～3歳6人に対し保育者1人、3～6歳15人に対し2人となっているが、活動によってその人数は変化する。時間帯によって保育者が手薄な時があるので改善してほしいという意見があるが、財政圧迫になるという問題が出てきているとのことだった。

#### IV デイケアの運営と目標と実践

保護者と協力し、児童の幸福・発展を実践している。事実、市では父兄とペダゴギーとの理事会において運営を決めている。

保育の目標は、学習ではなく遊びを通して好奇心を高めながら児童の社会的な発達へとつなげることである。

実践では子どもに自己決定させることを毎日の活動を通して知らせ、ペダゴギーは一人ひとりの意見を聞き入れながら活動に入る。なお、一般的な幼稚園では頻繁に森へ出かけて行き、自然の中で過ごすようにしている。そうすることで、脳の発達を促す。自由に遊ぶということは、子どもたちが自己決定の後、挑戦により失敗と成功の経験を重ね、目標に対する今の自分の限界を知る上でとても良いとされている。そこにはペダゴギーの指示はなく、ペダゴギーは子どもの発達を見極めて、その子が目標を達成するために必要なものを準備したり、提案をしたり、支援をする役割を持つ。こうした実践は子どもたちにとって、自分の意見を受け入れられること、自分の意思を表現できることとなり、他人を認めることにもつながっていく。

#### V 国の教育プラン

全ての幼稚園のレベルを上げ、質の均一化を図ることをねらいとして策定された。その中には日本にはない教育内容がある。それは、移民の子どもたちと一緒に教育することで子どもたちにとって世界にはさまざまな人がいるのだということを、自己形成の段階から学ぶことができる教育を意識していることである。

##### 【教育目的6つのテーマ（2004年設定）】

- 1 全般的な幼児一人ひとりの発達
- 2 社会性
- 3 言葉
- 4 身体と運動
- 5 自然と環境
- 6 文化的表現と価値

ただし、その実践内容は各自治体に決定権があり、ロスキルデ市では学校のような学習ではなく遊びを通じて学ぶことを大切にしたいと意識しているが、その実践方法については社会全体でどのようにするべきか社会的話題になっている。



ロスキルデ市役所



中央 ヘレ氏

## VI 保育カリキュラム

保育現場では、国の教育プランの6つのテーマについて計画レポートを市に提出する義務があり、0～2歳、3～6歳を一くくりとして作成する。ポイントは児童の年齢に合ったものがはっきりと記載されていなくてはならない。また、そのカリキュラムについての達成がなされているかの振り返りも必要となる。達成は1回のみ確認がなされ、その結果をチェックポイントに記載し、2年に1度計画の評価を市とともにするが、日本のように毎年の書類の提出はない。（※職員が変わった場合や、計画と子どもの成長のずれが明らかであった場合は書き換えることもある。）中には障がいや家庭の事情による特別なニーズのある児童の計画もある。いずれにしても子どもの視点から、児童のために優れた環境を設定するかを市と保護者とペダゴギーの三者で話し合うことが当然となっている。

特にロスキルデ市では、独自でロスキルモデルという保育モデルを策定している。それは、社会的弱者（特別なニーズのある児童）にできることを児童心理学者・ソーシャルワーカー・ペダゴギーと共に対応していくものである。

また、一般的に市議会との連携の下、デイケア施設と市の担当者が共同して子どもに関わる各種専門家の手を借りて共に話し合い、計画書に目を通す。さらに訪問調査などを行い、教育目標の6つのテーマに沿っているか1年に1度チェックされる。

このように、一つ一つの施設ごとにそこに通う児童の様子から、児童と職員が向上するために何が必要かということに重点を置き福祉が進められている。

## VII 2年間の教育プロジェクト

ロスキルデ市全体のデイケア施設で市と共同して「発達と安心感」をテーマに、2年間の教育プロジェクトに取り組んでいる。

1年目・・・①発達と学習・身体（発達と安心感）を学ぶ1週間の教育コースを受講する。

※職員同士で出勤を補いながら、全職員が学べるようにする。

②他施設の職員間で何を学んだのか意見交換をする。

2年目・・・ペタゴリーダーも話し合いに参加し、これからどのように進め継続していくかという（現在）最終目標を決める3日間のコースを受講する。

このプロジェクト以外にも職後教育のコースは随時あるが、全員が受講できるわけではない。

## 所 感

ロスキルデ市では、行政とデイケア施設が一体となって子どもの保育に携わっていることがひしひしと感じられた。また、施設の運営には保護者も関わり、子どものよりよい成長のために意見し共同していると聞いた。福祉の満足度が高い理由はそこにあるのだろうと思われ、日本はもっと子どもを中心に考える福祉に転換されていかなければならないと強く意識させられた。

日本も福祉先進国の欧米から視察されるような、行政、施設、保護者と協力した誇れる保育を行えればと切に思う。



市の職員の方々と使節団員全員で撮影

8月31日（月）

Børnehuset Hanen  
(ボーネフセット・ヘーネン/レッジョ・エミリア方式総合乳幼児園)

所在地：Ravnsholt 236, 4000 Roskilde

説明者：Charlotte Sonderhave/シャルロッテ・ソナヘーヴェ（園長）

報 告 者：高木 麻里

作成担当グループ：内山 奈々、青柳 治美、高木 麻里

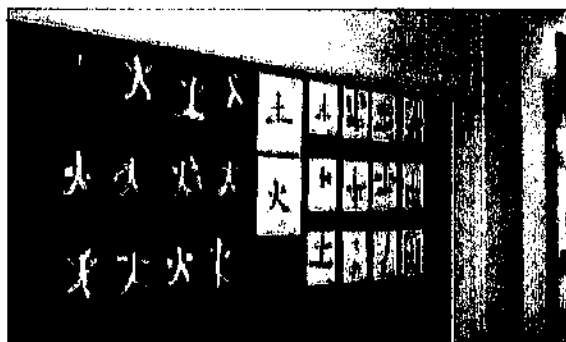
## I 施設概要

1 沿革 1987年開園

2 運営主体 デンマーク ロスキルデ市

### 3 基本理念

「共に過ごす」ということを重要と考え、園児、ペダゴギー、ヘルパー、皆が、園生活を「共有」すること。好奇心旺盛な子どもたちの育ちと、自分の創造力を表現する力を育む。



それぞれの年齢で歓迎の作品が飾られていた壁面

### 4 保育年齢

0歳～3歳まで24名 3歳～6歳まで64名 計88名

### 5 職員

園長 1名 Charlotte Sonderhave  
ペダゴギー 7名 ペダゴギーヘルパー 6名  
厨房 1名 厨房ヘルパー 1名

6 保育日と保育時間 月～金 6時30分～17時05分（金曜のみ：16時40分）

### 7 特色

レッジョ・エミリア方式を5～6年前から導入している。デンマークの保育に溶け込む要素が多く、レッジョ・エミリア教育そのままというより、デンマークの保育スタイルとして、この地域に合わせてよりよい実践を作っている。

特徴としては、多様な子どもがいるという考えから、多様な遊び場（活動）を設けている。

## 8 教育・保育計画

「遊び」の活動から子どもたちに自分を表現する力が身に付くように教えることより、「プロセス（過程）」が重要である。ヘーネンでの遊びは、ペダゴギーにより計画された目的のある「遊び」と、子どもたちが自由に遊びを選んで遊ぶ「遊び」と2通りの遊びがある。遊びを通じて、好奇心旺盛であることと、ひとつのことを共有することを、職員が高い専門性を持って、子どもたちの育ちを支え高めている。

考える力、創造力を花開かせる活動とは、計画的に教える「教育」ではなく、子どもが自由に自分自身を活性化することであり、こういった活動の計画が幼児期に重要な経験である。

## 9 6領域に沿った活動内容

- (1) 個々の発達      (2) 国際性・社会性の発達      (3) 言語の発達  
(4) 身体の発達      (5) 自然・自然事象      (6) 文化的表現と価値

※ 2004年からの教育カリキュラムから発展し、デンマーク全体での統一テーマとして推進されている。

## 10 日 案

午前中は計画された活動

朝、グループ（クラス）ごとに自分たちの集合場所に集まり、お互いを認識してから活動内容に移る。集合場所には写真と名前があり、子どもたちも互いを意識できるように配慮されている。

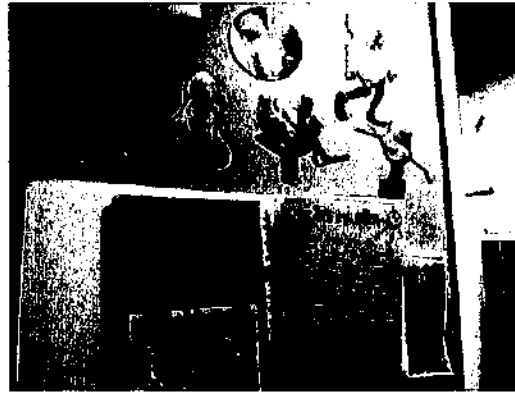
## II 年齢別の活動内容とペダゴギーの主な役割

クラス分け	活動内容	ペダゴギーの役割	特 徴
0歳～2歳 (あひるクラス)	身体活動が中心。言語の発達のための遊び歌によることば遊び、感覚遊び、子どもたち同士が助け合う心の育ちと基本的な生活習慣の自律に向けた活動	子どもたちと共に楽しむために、床に座って一緒に活動を共有する	
2歳～3歳	屋外活動が中心である。朝の集合も屋外で行われたり、散歩に出かけたり、という内容になっている。ことばの活動も重要であり、絵本を使用することが多い	子どもたちがどのようにどうやって参加するということや、お友だちとどのように関わり、一緒に活動を共有するかを導く	午前中の計画活動においては、少人数による活動から、よりよい学びとなるように3グループに分けて活動している
3歳～4歳	プロジェクトでの活動を重要視している。自然やことば、劇、などさまざまであり、子どもたちは、これらの計画された活動により好奇心を高め、探求する心を育てる	《もっと遊びに賢くなる》こと、お友だちと一緒に遊ぶことができるようになることが育まれるための物理的環境を与える。遊びに関われない子どもは、参加できるように導く	2グループに分かれて活動している
5歳～6歳 (就学前クラス)	学校へのスムーズな移行を中心とした活動。他児と一緒に遊ぶことからより学びが高まり広がり、遊びということが集中力や協調性を高めるということを実感しながら活動している	今までの活動をより高い水準、より高められるように計画し、学校にスムーズな移行ができるように支援する	工房を活用し、リサイクル資材を使ったアート作りや算数、文字の習得を目的とした遊び

### Ⅲ 園の様子



一日の予定が絵で示され、着替えや遊びの時間、食事など子どもたち自身が見通しを持って安心して過ごすことができるようになっている



子どもたちの一日の様子のファイルがあり、保護者は送迎の際に見ることができる。(ヘーネンではドキュメンテーションはなく、乳児・幼児クラスでの全体記録のみであった)



リビングの見えるところにオープンな厨房があり、中の様子をよく見ることができる



園庭の一角にあるたき火コーナー

#### 【2歳～3歳の保育室】



片づけも自分でできるような工夫として、片づけた後の写真が掲示されている

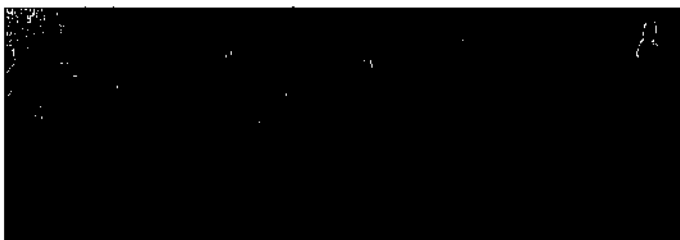


絵本から創造した絵画活動

#### 【3歳～4歳の保育室】



コーナー遊びが充実している

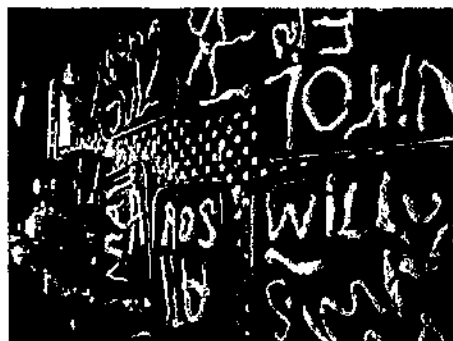


音楽遊びでの言葉の習得の壁面

#### 【就学前クラスのグループ活動】



算数遊び  
(百玉そろばんや iPad を使用)



小麦粉と塩を混ぜた粘土での文字遊び

#### 工房の一角



リサイクル素材が棚に整頓されて、ペダゴと一緒に自由に使用できるようになっている

#### IV レッジョ・エミリア教育について

レッジョ・エミリアの教育はローリス・マラグッツィ（イタリア人教育者）氏により、デューイ、ピアジェ、ヴィゴツキー、などの理論を創造的に統合し、アートを中核として子どもの学び発達する権利を実現する画期的な教育の実践である。イタリア、レッジョ・エミリア市（イタリア北東部に位置するエミリア・ロマーニャ州に在し、人口約16万人）で誕生し、北欧を中心としたヨーロッパ諸国、アメリカ、アジア諸国の幼児教育に影響を与えた。アートの創造的経験によって子どもの潜在的可能性を最大限に引き出すという特徴を持っている。「学びのワンダーランド」として、子ども自身、子育てと教育に携わるものすべてが「参加」し「共有」することが活動の礎となっている。保育実践の特徴としてはアトリエスタ（芸術専門家）、ペタゴジスタ（教育専門家）の配置、創造性の教育、記録文書（ドキュメンテーション）、プロジェクト学習、保護者の役割、共同性の役割（コミュニケーション）、というさまざまな独自のアプローチがある。

#### V ペダゴについて

日本語名では、社会生活支援士、社会教育（生活）指導員、生活指導教諭（教員）と訳されている。子どもから青年および成人までのさまざまなニーズがある人に、円滑な社会生活を送ることができるような適切な支援を提供する専門職であり、保育者の感覚を養うための芸術的、活動的科目や遊びを通しての健康・身体と運動、想像力・創造性、集中力と焦点化の発達促進、自然物などを使った表現や自己表現・自己開発の向上など特徴ある科目の履修と、3年間の養成課程の中、1,972時間という長期にわたる実習期間があることが特徴である。

#### 所 感

レッジョ・エミリア方式の教育観を取り入れた総合乳幼児園と伺って、芸術活動や専門職の配置、地域、保護者との関わり方など、興味深く見学させていただいた。園長先生のシャルロッテさんが

何度も繰り返していた「この地域に合うような取り入れ方」という言葉がとても印象的であった。元来、デンマークの子どもたちは自然と触れ合い遊ぶことから学ぶ、と言われ、時間の使い方を自分で選び、自分自身で試し、計画し、実行するという自主性を何よりも重んじる教育方法は、レッジョ・エミリア方式とマッチングする部分も多く、取り入れることも容易であったと考えられた。ヘーネンで生活している子どもたちは、自由に活動して伸び伸びとした表情であったが、規律を守ることや、手伝い、協力、役割分担など「社会化、社会性」の能力はしっかりと向上している、という面や、「学習させるのではなく、そのプロセスを重要と考えている」と教育の話題になるたびに声を強くして話してくださった園長先生の考えは、幼児期に「知的な要素」を十分に積み上げていくために、ペダゴギーが意識しながら計画していることがよく伝わってきた。どういったプロセスを環境として準備するかが重要であり、保育士の資質向上として今後、教育的課題となってくると強く感じた。

日本の国旗や書道、「こんにちは」と園児の皆さんがご挨拶してくれたおもてなしには、「心」で接することの意味を改めて感激の想いとともにも再認識し、子どもたちも私たちも笑顔になれる歓迎と準備に感謝の気持ちでいっぱいになった。

日本の歌のプレゼントでは、園児たちが手拍子をして聴いてくれたこともうれしかったが、園児たちからの3曲のかわいい歌のお返しは、見学という枠から「交流」という経験となった貴重な時間であった。

#### 参考文献

THE WONDER OF LEARNING 驚くべき学びの世界 レッジョ・エミリアの幼児教育 佐藤 学監  
修 ワタリウム美術館編 東京カレンダー株式会社  
関西学院大学 小谷正登教授 Webs サイト [www.g-kotani.com](http://www.g-kotani.com)

8月31日（月）

Børnehuset Troldhøje  
(ボーネフセット・トロルドホイ／スポーツ総合乳幼児園)

所在地：Lyngbakken 3+7, 4000 Roskilde

説明者：Ronni Mathiassen／ロニ・マチアセン

報 告 者：長谷川 里織

作成担当グループ：川原田 知章、長谷川 里織

## I 施設概要

### 1 沿革

2005年 ロスキルデ市の認可を受け、スポーツ総合乳幼児園として設立。

(認可以前よりスポーツ乳幼児園としての運営をしていたが、詳細は不明)

### 2 施設の種類

スポーツ総合乳幼児園

### 3 職員数

園 長 1人	教育部リーダー 1人
乳児部保育士 2人	ヘルパー 4人
幼児部保育士 3人	ヘルパー 4人
補助員 4人 (うちスポーツ教育者 2人)	
調理員 2人	

### 4 子どもの人数

0～2歳 32人、3～6歳 66人

### 5 開所時間

6:00～18:00

### 6 コンセプト

個人を尊重し、個性を大切に教育する。

### 7 特 徴

身体運動、遊び、スポーツが人間の日常の自然な活動であるとし、毎日の活動学習計画に積極的に組み込まれている。

### 8 園での取り組み

室内でも自由な空間が作れるように、家具が折り畳み式であったり、園児が室内でも走れるようにさまざまな遊びと運動の器具が備わっている。野外の遊び場でも、くぐったり、登ったり、ぶら下がったり、バランスを取ったり等、さまざまな身体活動ができるように工夫されている。



## II 施設見学

### 1 乳児部クラス (0歳～2歳)

乳児クラスでは入口のボードが連絡帳代わりとなり、何時に誰が迎えに来るかや、午睡の時間等も記入され、一目でその日の様子が分かるようにしており、保護者と保育士の連絡が密に取れるようにしている。

教室に入ると、机やいすがコンパクトに収納でき子どもたちの運動スペースが広く使えるよう工夫してある。天井には、いろいろな物をつけるよう鉄骨のはりを入れ、ハンモック、はしご、ブランコ等をつるし、ソファや机等を並べ自由に登ったり降りたりできるようにしている。机に登ることや、ソファで跳ねることで身体活動を促している。

常に、子どもたちの運動と発達を意識し子どもに接することで、子どもの可能性を引き出している。

午睡は時間を決められておらず、子どもが寝たい時に寝、決して起こしたりはせず自然に目覚める。

子どもの主体性に任せた保育により、子どもの自発的な自立につなげている。



天井に備え付けてあるはり



保育室での活動風景

### 2 幼児部クラス (3歳～6歳)

起伏のある場所に園舎が建てられ、その周りにスポーツを意識した遊具を設置し、日常の子どもの遊びの中であらゆる運動機能が発達するように考えている。幼児部は、年齢別にクラスが分



教室内のボルダリング



リズム遊びの様子

かれ、3歳児は赤、4歳児は緑、5歳児は青と色分けされており、部屋の壁や食器類も統一され子どもたちが分かりやすいようにしてある。午前8時にはほとんどの園児が登園し、昔ながらの運動やカードゲームやボルダリングなどの運動を取り入れながら活動し、遊びながら自分の運動能力とリズム感、柔軟性の発達を図るとともに、友だちと一緒に活動することで思いやりと力加減の調整を学ぶことができるようにしていた。また、①水、②土、③火、④空気の4つの要素を基に保育を計画している。年長児になると毎週自転車で園外に行き、半日かけて長い距離を走っている。

午後3時には子どもが帰り始め園児が少なくなるため、午後4時以降は乳児部に移り合同保育となる。

### III 施設見学

#### 1 室内

机やいすは、室内の場所を確保するため折り畳み式や重ねて収納していた。乳児部はいすに子どもの顔写真を貼ってあり、誰のいすかすぐに分かるようになっている。ロッカールームは別室で入り口付近にあり、自分たちで着替えや、支度をする。室内には玩具が少なく、広く使えるようにしていた。

#### 2 屋外

広い園庭は、アスレチックなど運動ができる遊具や地形を利用して遊べる遊具が設置されている。また、穴を掘ったり、水遊びや泥遊びも自由にできるようになっており、さらに保育士と一緒にたき火を楽しむなどさまざまな活動を行っている。中庭にはタープ、いすやテーブルを設置し、雨天時などにも野外で遊べるようにしている。庭は専門の庭師が手入れをしている。



中庭にはタープやテーブルが



地形を利用した園庭

### 所 感

スポーツ乳幼児園ということで、本格的なスポーツを教えているのかと思いながら施設見学に行く。特にスポーツに特化しているのではなく、全ての活動を通して体を使った活動を表現していた。また活動は個人の考えに基づいた遊びが主体となるが、テーマに沿った学習も同時に行われている。

テーマは週や月ごとに変え、テーマに応じた運動を通して体のさまざまな部分が使えるように工夫されていた。遊びの中から喧嘩のしかたや友達との関わり方を学び、問題を体を使って解決できるようにしていた。子どもたちも日々の活動の中から5つの価値観（健康、発展・発達、認める、自信、責任）を身に付け学んでいる。

子どもたちは小さいころから体をどう使うか訓練しており、体の動きについて理解し、自分たちで危険を回避する能力を身に付けておりけがは少ないという。保育者がけがを怖がり、子どもの活動にブレーキをかけることが子どもたちの可能性を奪うこととなってしまうので、少しずつチャレンジさせていくことも大切だと感じた。また、保護者の理解があるからこそその活動ができるのだとも感じた。さらに、職員の目標として成長・協力・能力の向上を掲げており、子どもが成長するとともに職員が成長することに重点を置いていた。体で多くのことを会得することは、小さい頃からの積み重ねが大事だということを改めて感じる事ができた。

9月1日（火）

Legestuen Minibo  
(ライストゥエン・ミニボ／デイサービス・保育ママの共同保育施設)

所在地：Snoldelev Bygade 21B, 4621 Gadstrup

説明者：Ms. Camilla Wessman／カミーラ・ヴェスマン

報 告 者：永野 浩子

作成担当グループ：尾田 志保子、平泉 由美子、永野 浩子

## I 施設概要

### 1 沿革（運営主体）

ロスキルデ市

### 2 施設種類

保育ママ

### 3 定員（入居者数等）

一人の保育ママが4人までの子どものデイケアを行う。

### 4 利用対象者および負担方法

利用対象は乳幼児。保育費は父兄負担だが、収入額によっては補助がある。

### 5 職員数・職員配置等

現在ロスキルデ市の保育ママは71名。病気などの時の非常勤9名。6名のデイケア。ペタゴー（専門教育者）1名と事務職のチームで成り立っている。

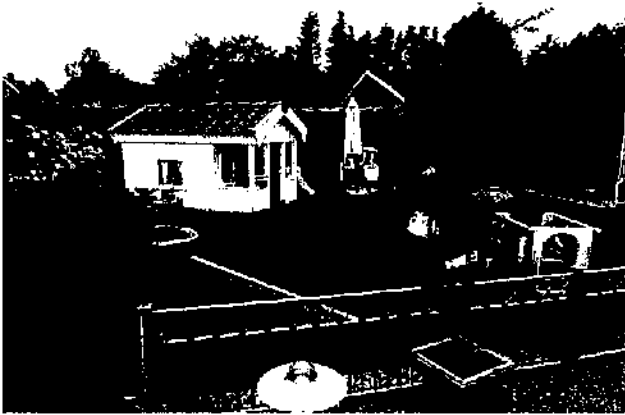
## II ダオプライエン（デイケアの意）

個人の保育ママが市と契約してデイケアを行うシステム。6～7名の保育ママがひとつのグループとして「遊び場」に集い、そのような遊び場施設が、ロスキルデ市に7か所ある。

## III 保育ママのシステム

### 1 資格

- ・ 教育バラエティに富んでいて決まりはない。ペタゴー（専門教育者）が定期的に（週1回）巡回し、困ったこと等相談に乗ったり、「遊び場」で保護者と直接コミュニケーションを取ったりする。
- ・ 保育ママになった後は、リトミック、ヨガ、ヒーリング等、各分野の研修カリキュラムがあり、好きな分野を受講することができる。
- ・ 子どもたちの面倒を自宅で見ることができ、「自分の子どもは自分で育てたい」という人にも、在宅ワークとしてできる仕事である。



保育ママ、クリスティーナさん宅

## 2 認可・補償

- ・ 物理的環境（家庭環境）がチェックされる。  
※子どもの遊び場があるか、おもちゃがあるか。  
※プライベート空間には柵をして、そこから先は入れないようにして使い分けている家庭もある。
- ・ 地方自治体が雇用しているため、遊具等必要物品のための費用は毎年支給されるが、食事代は保育ママが負担し、決められた栄養学に従って食事を提供する。  
※デンマークでは「小さいお腹には小さい食べ物が必要」という考えのもと、おやつは何回にも分けて与える。
- ・ 仕事中に腰を痛めた場合等、医療費の補償がある。また、研修カリキュラムの中には、体のメンテナンス面を考えたものもあり、市の全面的なバックアップのもとで機能している。



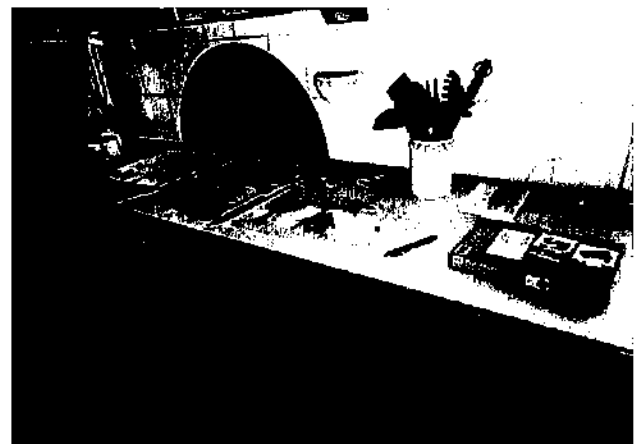
絵本棚

## 3 労働時間

- ・ 1週間48時間労働、1日10時間拘束。
- ・ 1週間5日（土、日は預からない）。

## 4 賃金

- ・ 給料：6年目の保育ママと1年目のペダゴギー（専門教育者）が同じくらい。
- ・ 他の職業と比べると「中の下」。
- ・ 5人目の子どもを預かる場合、1日400クローネの支給がある。



子どもが描いた絵

## 5 非常勤ママ

- ・ 自治体が雇用。
- ・ 保育ママが病気等で、子どもたちの面倒を見ることができない場合、代わりにそこへ行ったり、子どもが来たりすることもある。

※何かあっても、代わりのママがいるため保護者も安心感がある。



「遊び場」

## 所 感

ロスキルデ市役所からバスで20分ほど行くと緑豊かな風景が広がり始めた。その一角に保育ママのグループが集う「遊び場」があり、近くで保育ママをされているクリスティーナさんのお宅を訪ねた。室内はもちろんのこと、庭にも遊具が置かれ、子どもたちを預かる環境が整っていた。

そこでは、毎日一つの具体的なテーマを決め、子どもたちはそれに関連した遊びや会話を行うようだ。教育と学習の両面から子どもの発達を見据え、それらがうまく遊びの中に取り入れられている。また、一日の活動が子どもたちにも理解できるように、それを一つずつ絵にまとめ見えるところに貼るといった工夫がなされていた。

クリスティーナさんは、18年間この仕事を続けていらっしゃるそうで、自身の子を育てながら預かった時期もあったそうだ。自宅に居ながら仕事と子育てを両立できるこのシステムは、子育てを経験した身として私もうらやましく感じた。子どもたちもまるで自分の家に居るかのようによつたりと落ち着いて過ごしており、その姿がとても印象深かった。

「遊び場」では保育ママたちが集まり、アットホームな雰囲気の中で情報交換をしながら楽しく子どもたちと触れ合っていた。壁には保護者が描いたかわいらしい絵があり、コーナー遊びのスペースがいくつも設けられ、子どもたちが好きな遊びを楽しんでいた。

ベテランの保育ママが多く、保護者からの信頼が厚いことがうかがえた。実際、特定の保育ママ目当てに遠方からはるばる預けに来ている保護者もいるそうだ。近年は、総合乳児園等の大きな施設に預ける傾向があり、また少子化の影響も受けて、この「遊び場」では、2007年には18人いた保育ママも現在は7人にまで減少している。それでも細やかな保育を望む利用者の強い要望を市が優先し、このシステムが成り立っている。少数であっても利用者の声に耳を傾け尊重する姿勢は、見習いたいと思う。

日本とデンマークでは保育制度や環境に違いはあるものの、良いところは積極的に取り入れ、子どもたち一人ひとりのためにこれからも尽力していきたい。



「遊び場」前にて

9月2日（水）

Børnehus Melita  
(ボーフネス・メリタ／森の保育園)

所在地：Mariendalsvej 4, 2000 Frederiksbergおよび Lejrvej 47, 3500 Værløse

説明者：Ms. Karina Kumi Ishikawa／カリーナ（副校長）

報告者：尾田 志保子

作成担当グループ：平泉 由美子、永野 浩子、尾田 志保子

## I 施設概要

- 沿革： 2012年設立  
財源： 自治体だが、独立した理事会を持っている。  
運営主体： ロスキルデ市
- 施設種類： ロスキルデ市立の乳幼児園
- 施設の特徴： この乳幼児園は、町なかに立地しているが、夏場は毎日森に出かける。ここの森の幼稚園の施設は、近くの3園が一緒に使用。毎日の中で園児が遊び、チャレンジし、自分で出来るということ、対話安心感、思いやりのある場所を作ることを重視。遊びを通じて園児の自立性と、友達と仲良くすることをサポートし、園児の人格と社会性を強化する。
- 定員： 3歳までの園児 24名  
3歳～6歳児 50名
- 保育費の負担方法： 保育費は保護者負担だが、収入額によっては補助がある。
- 職員数 職員配置等： 園長 1名  
ペタゴ（デンマークにおける保育士） 8名  
保育ヘルパー 5名  
厨房 2名

## II 1日の流れ

朝7時から子どもたちが登園してくる。7時から8時の間には朝食を提供。ふだん5人程度の利用があり、朝食の内容は2年ごとに見直されている。パンズ、押し麦で作るおじやなどを厨房のスタッフが用意。朝食は保育料に含まれている。9時までには来てもらい、バスで郊外にある森の幼稚園に向かう。

9時半から15時までほぼ森で過ごす。雨天の日には、長靴や雨がっぱなど、それなりの格好で遊ぶ。お弁当とおやつは家から持参したもので、おやつは生のにんじんやりんご、バナナなどをもってきている子が多かった。17時には終了。

### Ⅲ 活動および文化交流

この日は子どもたちのグループ分けはせずに自由に遊んでいた。キャンプファイヤーを行い、棒にパンをつけて焼くアクティビティーを行う。テラスには今年のプロジェクダというミニトマトが育てられていた。

広い野原には砂場、丸太の平均台、トロールが住むという小屋もあり、トロールが住むという小屋では、子どもたちがおもちゃを持ち込んで遊んだり、時には片づけて保育士による絵本の読み聞かせも行われる。木が生い茂った場所はジャングルと呼ばれていた。無造作に成長した木々の枝が交錯していて、木登りの際に隣の木に乗り移ることができそうな感じにみえた。子どもたちが2~3人で隠れることのできる穴のような場所が何か所もあり、さらに家作りができる板材が数本置いてあって、子どもたちが組み立てて遊べるようになっていた。

アルバイトの青年が音楽を流すと、とたんにあちこちに散らばって遊んでいた子どもたちが集まって踊り始めた。ロボットダンスや、担当のカーリーナ先生が用意してくれた日本語の『上を向いて歩こう』などだった。ダンスのあとは職員がお茶を用意し休憩を取る時間もあった。

その後、鐘の合図を聞いた子どもたちは昼食の準備のため、布のシートを友達と協力して草原の上に敷き昼食をとったが、食後は室内で絵本を読んだりおもちゃで遊んだり、日本からきた視察団が持参した折り紙遊びを楽しんでいた。特に手裏剣が人気であった。ひと段落したあと日本の遊びを聞かれ、みんなでできる遊びとして花いちもんめを提案。日本語とデンマーク語で子どもたちや職員で楽しく遊ぶことができた。



トロールや魔女が住むという小屋



小屋の内部



子どもたち、職員、団員の集合写真



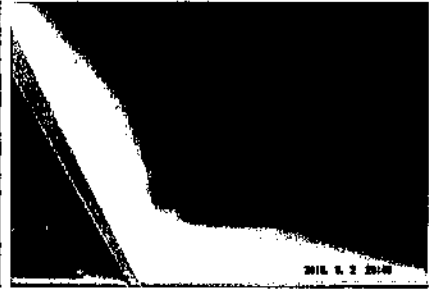
町なかの施設外観



友達と遊ぶ様子



見つけた虫を図鑑で確認



室内で使うおもちゃ

#### IV 質疑応答

(Q1) 遊びにルールはあるか？

(A1) ルールという言い方はしていない。どういうふうにも人と一緒に過ごすのか、共同体としてやっていくのかということ伝えていく。たたかないようにしようねとは言う。

(Q2) 枝を折ってしまう子などはないのか？

(A2) やってはだめよとは言いが、ルールではない。常識的な話をしていく。人間としてどうあるべきか、お互いがお互いをいたわりあうという話をする。

(Q3) 病気やけがの時はどうするのか？

(A3) 両親に電話をして迎えにきてもらう。ひどいけがなどなら救急車を呼ぶ。

(Q4) 今までにどういった重いけががあったか？

(A4) 木から落ちて腕を骨折。枝が頭に刺さって頭から出血など。命に関わるようなことはなかった。

(Q5) けがをした際に、保護者からのクレームはないのか？

(A5) 森の中で自然に起こったことなので、ない。

(Q6) 森の中の遊具はどうやって片づけるのか？

(A6) 室内は片づけるが、森はあの状態から次の日も遊び始める。

(Q7) 市内で借りている園舎の家賃はどれくらいなのか？

(A7) フレデリクスベア市が借りているので、家賃は生じない。

(Q8) 保護者からバス代としていくらもらっているのか？

(A8) 保育料に含まれている。バス会社には、1日2,500クローネ（約5万円）を支払っていて、3年ごとに市がバスの入札を行っている。

(Q9) 保育料は？

(A9) 兄弟割引もあるが、最高で3,200クローネ（約6万4千円）、最低で2,000クローネ（約4万円）くらい。

なお、1年間の園の予算は正確ではないかもしれないが700万クローネ（約1億4,000万円）である。

また、森の幼稚園の中には、この園のように街の中の施設が借りれず、外で送迎バスを待っているというところもある。

## 所 感

広々とした森の中で自由に活動する子どもたちの様子や、ペタゴーの子どもたちとの関わりの様子を見学させてもらった。ペタゴーから離れて木登りに一人挑戦している子もいるなど、日本では保育士間で声をかけ合って側で声かけなどをして見守るケースが一般的であろうが、そうではなかった。しかし、子どもたちの自分らしさ、自分の限界を知ること、仲間意識、社会性を伸ばしていきたいという所からくる見守りの方法には納得がいった。これ以上やると危ないということは、人に言われるよりも経験してこそわかることで、自分も子どもの頃にそこから学んだことが多い。日本で同じような環境でけがをした場合、森の中で自然に起こったことだからしかたないという話になるかはかなり難しいと思うので、子どもたちの挑戦の場を増やしてみたり、遊具の素材や配置方法の工夫など、できる点を考えて提案していきたいと思う。

人間としてどうあるべきかを子どもの頃から大人が子どもに考えさせていくことは、自然に相手に対する思いやりの気持ちや関わり方を学ばせ、自分の本当にやりたいことや表現したいことを明確にし、生きていく中での楽しみ方も上達するのかもしれないと考えさせられた。今後も子どもたち一人ひとりの命を輝かせていくために、森の幼稚園が気付かせてくれたことを大切にしていきたい。



9月7日 (月)

## Kinder-und Jugendförderung (ロイバーランド保育園／エアフルト市青少年局担当者より行政説明)

所在地：Steinplatz 1, 99085 Erfurt

説明者：Mr. Alexander Leonhardt／アレクサンダー・レオンハルト (青少年局保育施設担当者)

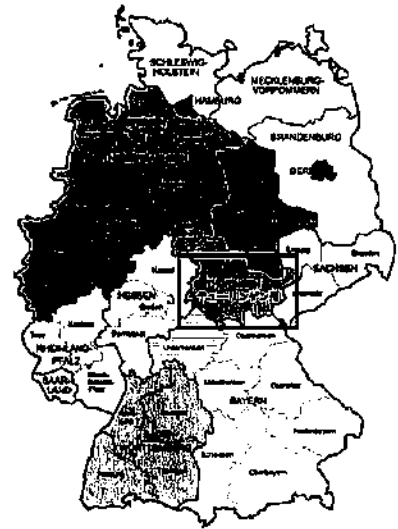
Ms. Astrid Kühlmann／アストリッド・キュールマン(エアフルト市立保育施設ロイバーランド所長)

報告者：青柳 治美、内山 奈々

作成担当グループ：高木 麻里、内山 奈々、青柳 治美

### I ドイツ連邦共和国

ドイツ連邦共和国は16の州から成り、社会福祉についての具体的な事項は各州の立法に委ねられているので、保育の在り方は州によって大きく異なる。少子高齢化社会が進んでいる。



テューリンゲン州の位置

### II テューリンゲン州

人口は215万人。子ども施設は全部で1,314施設。そのうち公的施設が510施設、民間施設が804施設。民間施設の主な内訳としてカトリック・プロテスタント、労働者福祉団体、ドイツ赤十字等の福祉系団体がある。幼稚園と保育園共に、文科省が管轄している。

### III エアフルト市

エアフルト市は、ドイツ中央部、テューリンゲン州の州都である。人口は約20万人。

エアフルトに至っては近隣から大学への就学や産業等で若者が流入していて、子どもも増加している。子どもの施設、特に幼稚園の受け皿が足りなくなっている。

#### 1 青少年局の仕事について

ドイツの法律、連邦法の社会保障法典に基づいている。具体的には子どもや青少年の若年層に対する支援が主となる。テューリンゲンの州法の「ターゲスアイヌヒトル」(幼稚園と保育園を合わせたような子どもの施設に関する法律)に基づいて活動している。

#### 2 子ども施設の状況

市内の子ども施設は全部で105施設ある。そのうち幼稚園(3歳以上)が96施設、保育所(0歳～2歳)が9施設。幼稚園の84施設が民間施設、11施設が公的施設、1施設が企業の付属幼稚園である。(幼稚園、保育所と2つの施設を統合した複合施設を含む。)

子どもの増加により、子どもの施設が不足している。対策として92名の保育の有資格者がターゲスマッタ（保育ママ）として323名の子どもたちを保育している。

(1) 子どもの入所状況（3か月～就学前）

3歳以上 92%が幼稚園に通っている。  
2～3歳児 90%が保育施設に通っている。  
1～2歳児 55%が保育施設に通っている。  
1歳未満 3%が保育施設に通っている。

(2) 保育士の配置基準（人）

0歳 4：1  
1～2歳 6：1  
2～3歳 8：1  
3歳以上 16：1（ドイツは平均8：1、推奨地では7.5：1）

保育士の高齢化が進み、若い保育士の育成が課題となっている。

(3) 保育士の勤務時間

1週間40時間が基本となっているが、園によって異なる。

(4) 保育料について

両親の所得により異なる。  
幼稚園 上限280ユーロ/月 食費は含まない  
保育所 上限400ユーロ/月 食費は含まない

(5) 入所申し込みについて

入所条件に就労の義務はない。  
出生すると2枚カードが発行され、そのカードを保護者は入所したい園へ持参する。  
入園は先着順となり、予約ができる。カードを希望園が受け付けると予約完了となる。

(6) 育児休暇について

両親のどちらかが14か月取得可能。そのうち2か月は両親そろっての取得が可能。  
育児休暇中は給料の3分の2が支給される。ただし、1,800ユーロが上限となる。  
取得するタイミングは産後すぐではなく、ずらして取得することも可能である。

(7) 保育理念について

教育計画を各州で作成する。それに基づいた内容で各園が理念を立て書類として作成する。  
職員は各園の理念に従って保育を行っていく。

(8) 書類について

子どもの成長を書類として残してはいるが、市に提出する義務はない。  
子どもやその保護者に成長の記録として見せている。

(9) 評価について

評価する審査機関はない。子どもたちや保護者が口コミで評価する。  
衛生面・食事面等においては文科省や保健所の監査がある。

### 3 最近の保育の傾向

さまざまな教育方針がある中、良いところを取って保育をしている園が多い。子ども主体の保育が行われていることが多く、できるだけオープンな保育を心掛けている。ある程度の規定はあるが、その中で子どもたちが自分たちで自由に考え、時間の配分やどの友達と遊ぶ等を決めることができる。

### 4 就学前の準備について

学習面というよりは、学校という環境の中でどのように順応していくか、どのように自立していくかを体得してもらうことが就学準備だと考えている。言語面では書くことを指導している。

プレスクールをしている園もある。最近の傾向としては、学校に行く準備をするということは人生の準備をするということと捉え、1年や半年ではなくもっと幼いころから学習する姿勢を学ぶことが教育的見地となっている。

### 5 公立園と民間園との比較

民間施設も市からの許可が必要となる。内容の責任については、公立施設は市が責任を負うが、民間施設については各施設が責任を負う。市は各施設の施設長に対しアドバイスを行っている。州から補助金が交付され、施設長や保育士に対し必要に応じて各専門家からアドバイスが受けられる環境になっている。

### 6 ターゲスマッタ（保育ママ）について

エアフルト市青少年局が管轄しており、「ターゲスマッタ」（保育ママ）は1～5人の子どもを保育することができる。保育室は自宅でも、部屋を借りてもよい。保育ママは旧西ドイツの制度であり、統合後東ドイツにも取り入れられた。

保育ママは保育士の資格がなくても、保育ママの試験に合格すればなることができる。保育士のように専門の大学に通学していなくても受験できるが、実際は保育士の資格を有している者が行っていることが多い。

保護者が保育ママを利用する理由として、希望施設に入れなかった、年齢が低い時は小規模集団を希望する等がある。

保育ママを利用する保護者は保育料を市に支払う。保育ママには市から保育に見合った給料が支給される。

## IV 質疑応答

(Q1) 公立の保育施設を民営化する制度について。

(A1) いくつかの自治体が集まったの活動があるが、民営化はない。

(Q2) マンションの1室を使用した保育園への認可について。

(A2) 基本的に保育施設は独立した施設が前提となる。文科省の認可基準を満たさない。

(Q3) 保育士の社会的地位について。

(A3) 保育士は仕事内容に見合った給料をもらっていると思う。パン屋さんより高く、ソーシャルワーカーより低い。保育施設長の給料は、地域や施設の大きさによって異なる。

## 所 感

役所への訪問予定だったが、思いがけず規模の大きな市立の保育施設を見学する運びとなった。子どもたちの遊びの様子を見たり、一緒にダンスを踊ったりと楽しく貴重な時間を過ごすことができた。

現在ドイツでも日本同様少子高齢化が進んでいるが、エアフルト市では若者や子どもの数が増加しており、特に幼稚園は定員がいっぱいになってきているという話があった。しかし、見学先の施設では他の公立の保育施設が一か所閉鎖されてしまったため、そこに通っていた子どもたち9名と保育士1名がその施設の一室を借り、一緒に生活しているという実態があった。「なぜ幼稚園の受け皿が少なくなっている中、閉鎖しなければならなかったのか」と問うと、「園舎の老朽化に対しそれを修繕していく財源が無かった」との返答があり、エアフルト市の資金面の実状がかいま見られた。

また、「男性保育士は日本ではどのくらいいるのか」と問われ、「日本では男性保育士は少なく、収入面がその一因ではないか」と話すと、エアフルト市でも男性保育士の数は全体の1割にも満たないとのことだった。男性も収入面を気にすることなく働くことができる環境が整うと、保育士の社会的地位はより高くなるのではと感じた。日本の保育制度の現状を念頭におきながらたくさんの質問をしたが、一つ一つ丁寧に答えて下さり双方の良いところ、そして課題も見えとても有意義な時間となった。最後に子どもたちが一人ひとりに手作りの小箱をプレゼントしてくれ、心のこもったかわいらしい贈り物は非常にうれしかった。



講義の様子



集合写真

9月7日（月）

Kindertagesstätte “Friedrich Fröbel”  
(キンダーシュタッテ・フリードリッヒ・フレーベル/フレーベル教育の保育所)

所在地：Karlsplatz 15a, 99095 Erfurt

説明者：Ms. Melitta Meyer/メリッタ・マイヤー（園長）

報 告 者：平泉 由美子

作成担当グループ：尾田 志保子、永野 浩子、平泉 由美子

## I 施設概要

テューリンゲン州コルピング育英事業（Kolping-Bildungswerk Thüringen e.V.）を運営主体とする施設で、フレーベル理論に基づいた教育を行う保育所である。現在の建物は2001年に建てられ、2歳児から就学前までの子どもを100名受け入れている。

開園時間は朝6時00分から夕方17時00分まで。職員数12名で保育に当たる。障害児の受け入れも行っているため、12名のうち2名は障害児専門の職員となっている。現在は障害児3名を受け入れている。

またこの園の職員の半数は、週に1度2年間フレーベル教育について学んだ有資格者であり、有資格者が半数を超える園が、フレーベル園と名乗ることができる。

## II クラス編成と施設内設備

### 1 クラス編成

年齢ごとに定員は設けていないが、2歳から6歳までの子どもたちが各年齢おおむね20名程度在籍し、その子どもたちを5つのグループ（クラス）に分けている。

グループの構成は、2～3歳児混合のグループが2つ、4～5歳のグループが2つ、そして6歳児のグループが1つとなっている。1グループに2名の保育士が配置され、障害児のいるクラスにスペシャルケアの担当者が加配される。障害児専門の職員は、保護者と連絡を密にしながら支援プログラムを作成し実行する。

### 2 施設設備・・・教室とおもちゃ

各保育室は小ぶりの2部屋に分かれており、一日の流れが臨機応変にスムーズに行えるようになっている。

どの教室にもたくさんのおもちゃが置かれたコーナーがある。また、教室内やホールにはフレーベルを象徴するおもちゃが置かれている。おもちゃを選択する際に考慮することは、

①できる限り自然の素材を選ぶ

②子どもたちの創造性、想像性を発達させるもの（使い方が制限されないもの）。

年齢別に考慮することとしては、2歳児から6歳児に向けて、シンプルなものから複雑な物へ、さらに、より複雑なものへと変化させていく、とのこと。

遊びを通じて「世界を見極める力をつける、発見する力をつける」ということが目標だという。

### 3 施設内整備・・・その他の遊びをする部屋

施設内には、美術的な活動を自由にできる部屋と、調理を経験するための広めのキッチン、運動ができる部屋と、それぞれの活動別の部屋がある。

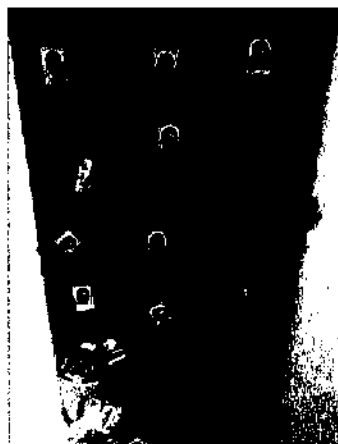
### 4 施設設備・・・園庭

園舎を囲むように緑豊かな環境が広がる。その中に設置された大きな小屋は、園外用のおもちゃ用具置き場となっており、その量に驚く。また、フレーベル教育を象徴する畑がある。育てているのは、じゃがいも、かぶ、トマト、ぶどう、にんじん、花などで、花は園内に飾り、野菜はキッチンで調理を経験する。

地下にためた雨水は砂場にあるポンプから出てくる仕組みになっていて、遊びに使用するほか、畑や植物の水やりにも使用するという。子どもたちと一緒に世話をを行うとのことだった。フレー



運動のための部屋



各教室前にある自分の存在を示す手形



各部屋のおもちゃコーナー



園庭内の畑

ベル教育においては自然と子どもが一体となることを目指しているのである。

### Ⅲ 一日の流れと、入園・卒園、行事

#### 1 一日の流れ

8:00、希望者に軽い朝ごはんを提供し、その後自由あそび。全員そろったところで保育士は担当グループの子どもに今日やることを提案する。興味が持てる子だけ参加し、ほかのグループに参加することもできる。ほかの場所に行きたい子は、自分の教室の入り口に貼ってある自分の写真がついた手形を剥がし、移動先のグループの場所に貼り直す。手形が貼ってある場所が、自分の居る場所を示す印になっている。基本的にはどこへ行ってもよいが、①食事の時間には戻る、②手形を移動する、③先生の見えるところに居る、④クライミングは先生が居るときにだけ行える、⑤物でぶってはいけない、というルールが決められており、それを破ると自由に行動できなくなる。

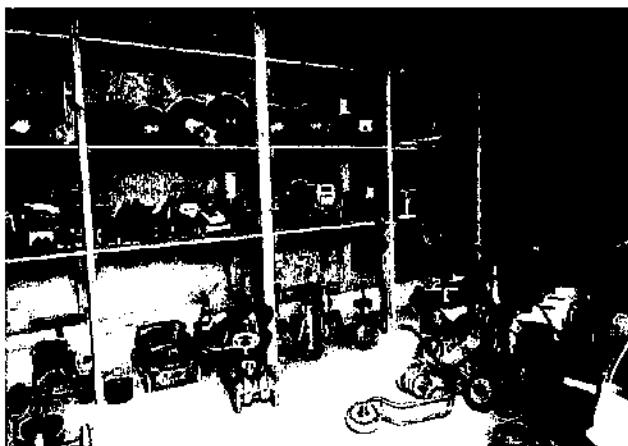
それが終わると外で遊び、ランチタイムとなる。小さいグループ→大きいグループの順に食事をする。小さいグループはお昼寝をし、大きいグループは休憩する程度。午後のおやつを食べたら、外で元気に遊んでお迎えを待つ。

#### 2 入園・卒園

入園は2歳児の9月に行われ、1か月は朝の登園から1時間ほど保護者が園内で一緒に過ごし、慣らし保育とする。卒園は8月31日で、入園から付けてきた子どもの記録と自分の存在場所を示す手形、先生からの手紙、日常写真を渡して卒園となる。卒園する人数を2歳児の新入園児として受け入れを行う。

#### 3 行事

クリスマスは教会に行つて劇を行つたり、クリスマスマーケットを開催して子どもたちが作ったものを販売する。日本でいうところの折り紙制作にあたるフレーベルの星や、リンゴのお菓子、プレッツェル、クリスマスカード、ろうそく立て、ホットワインなどを販売。宗派としてはプロ



園庭内の遊具置き場小屋内



フレーベル遊具の展示

テスト系に属しているという。また、イースターでは卵を隠して探すゲームをしたり、卵に絵を描いたりする。毎年4月21日に行われるフレーベルの誕生を祝うフレーベル祭は、在園児、卒園児、その家族や地域の人など誰でもが参加できる行事となっている。300人～400人ほど参加して賑やかになるという。子どもたちはさまざまなプログラムを用意し、歌や劇でもてなしたり、親子制作ができるコーナーやケーキや焼ソーセージも自由に食べられるようになっている。この行事の中で、保育士は保護者とゆっくりと親しみを持ってコミュニケーションを計ることができ、大切な機会となっているという。



広くて明るい子どものためのキッチン



園長メリッタ・マイヤー先生

## 所 感

園児100名に対して園庭が大変広く、植栽と遊具の多さなど環境の豊かさが印象的だった。また、キッチンもぜいたくな作りで、この広い調理場で自分たちの育てた野菜を調理する体験ができれば楽しいだろうと感じた。この園の園長先生は、写真からも伝わると思うが非常に温かみのある方で、案内も質問にも親切丁寧に対応して下さった。案内中に困った顔をした子どもが園長先生に走って相談に来る姿もあり、慕われている様子をかいま見ることができた。きっとフレーベル祭などの大きな行事もにぎやかで温かなものなのだろうと想像する。入園者も募集をかければ、すぐに埋まってしまうとのことだった。

また驚くのは、職員の方の中にタトゥーが入っている人が珍しくないことで、服装が自由なだけでなく、自分の本当に好きなスタイルで子どもたちと触れ合うことができるようになっている。ドイツでは第二次世界大戦の反省から制服を完全に廃止している、とのことだが、その徹底ぶりを知ることができた。

OECDの発表により、現在では就学前教育が課題であると思うが、この園では市のガイドラインにのっとっていると言いつつも、まだまだ緩やかな取り組み方であると感じた。

9月8日 (火)

## Integrative Kindertagesstätte "Schmetterling" (シュメッターリング／障害児統合保育所)

所在地：Ottostraße 10, 99092 Erfurt

説明者：Ms. Yvonne Thienel-Müller／イボン・ティナー・メラ

報 告 者：川原田 知章

作成担当グループ：長谷川 里織、川原田 知章

### I 施設概要

#### 1 設 立

シュメッターリングは、25年前に障がい児と健常児を一緒に保育する施設として、運営団体 Lebenshilfe により設立。街の中にも関わらず自然環境に恵まれた約15,500㎡の広大な敷地の中には、障がい者の自立住宅棟やデイケア施設、子どもの早期教育施設も運営している。

Lebenshilfe では、シュメッターリングを含む3つの保育園、障がい者用住宅、教育施設、スポーツ施設、早期教育施設、障がい者用旅行ツアーなどの事業を行っている。

#### 2 定 員

200人 (1歳～5歳児 うち44人が何らかの障害がある子どもである)

- ・1歳児 19人
- ・2歳児 54人
- ・3歳以上児 127人

#### 3 クラス数 (グループ数)

13グループ

- ・1歳児クラス 1グループ
- ・2～4歳混合クラス 9グループ
- ・5歳児クラス (プレスクール) 3グループ

#### 4 開所時間

6:00～17:30

このほか、必要に応じてスペシャルアワー (延長保育) として、希望により17:30から20:00まで開所し、子どもを預かっている。この時間の預かりは、30分ごとに4ユーロである。

#### 5 給 食

朝食、昼食、軽食 (おやつ) を、保育所内の給食室で作っている。

#### 6 コンセプト

25年前に、障がい児とその家庭を支援したいと設立。障害の有無や、障害の程度にかかわらず統合的保育を実施している。必要に応じカウンセリング、セラピーも実施できる体制にある。

また、職員にも多くの障がい者が従事し、まさに統合的な保育所と言える。

- ・みんなと一緒にいながら、自分らしい人格の成長を支援
- ・子どもたちの個々のニーズに焦点を当てた支援
- ・子どもたちの個々の成長に合わせたお世話や訓練を支援
- ・子どもたちが社会生活の中に積極的に参加できるよう成長させる

統合保育を通し、健常児が幼い頃から障がい児と接することにより自然に障害に対する理解を深め、思いやりの気持ちを育むとともに、障がい児が健常児と一緒に生活や活動することにより刺激を受け成長し、積極的に社会参加できるような基礎を育てる。

また、このインテグレーションの理念を、子どもから家庭、家庭から地域、地域から社会へと広げることを目的とし取り組んでいる。

## 7 職員体制

この施設全体で、280人の職員が勤務しており、その中の約40人が何らかの障害がある。

保育士、治療療法士(指導介護士)、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士 調理員、農業専門員、清掃員、事務員等の職種で構成されている。清掃や給食については、関連組織に委託している。

統合保育は、45人が従事し、保育士、治療療法士(指導介護士)、社会教育学者がチームを組んで保育にあっている。

プレスクールには、1グループに2、3人の職員、その他のグループは、3、4人の職員を配置し、各グループには、必ず男性職員を1人配置している。男性職員を配置する理由は、近年シングルマザーの家庭が増えていることもあり、日常的に男性と接することで、女性とは違う男性の反応や対応を自然に理解させるとともに、男性はどう教育してくれるのか、どう接してくれるのかを自然に体験できるよう配慮している。

## 8 運営資金

保育料(行政負担+保護者負担)、障がい児の給付金、企業団体等からの寄付金

## II 施設内の様子

### 1 クラス(2~4歳児)



登園して子どもたちが最初に向かう場所



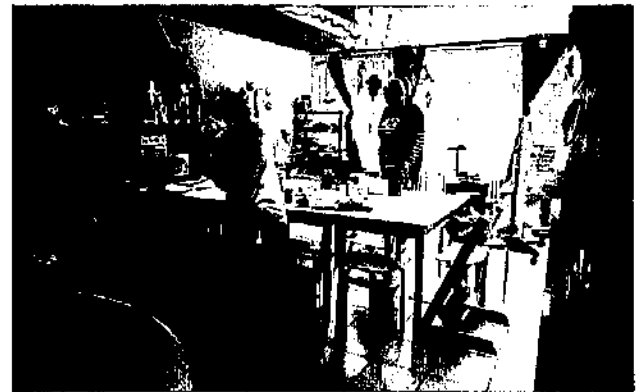
トイレと洗面所



クラスルームの様子

## 2 プレスクールクラス（5歳児）

就学前クラスは、比較的自由度が高く3クラスを自由に行き来することができ、より自立心を養う。



## 3 ワイルドベリークラス（自然とエコロジーをテーマにしたプロジェクトグループ）

25周年記念のネイチャーカーを拠点に、各グループが1週間交代でプロジェクトを実施し、プロジェクトを通して自然から受けた恵みに感謝し、またその恵みを自然に返すことを体験し、小さな頃から自然と生き物を大切にする心と感謝の気持ちを育てる。



2台のネイチャーカー



ハーブティー作り



植物を使った絵の具作り

#### 4 いろいろな教室



多目的室（感覚刺激空間としても利用）



セラピー室

#### 5 公園のような屋外



### Ⅲ その他

#### 1 保護者との連携

保護者の方々に、統合保育（教育）を意識してもらうことは非常に重要と考えている。私たちの統合教育の目的や計画を理解し保護者が能動的に参加するよう呼びかけ、金銭面も含めできる限りの支援を努力していただく。

#### 2 早期教育

早期教育が必要な子どもに対し、統合保育とは別に早期教育を行っている。現在0歳から6歳の約170人の障がい児が、週に1、2回程度、教育的支援やセラピー的支援（言語・理学・作業）を行う。

早期教育は、家庭との共同的支援が大切なため、時には各家庭での教育的支援を実施している。

### 所 感

シュメッターリング統合保育所を訪問し、まず羨ましく思ったのは市街地にもかかわらず自然豊かな広大な敷地で子どもたちが伸び伸びと遊ぶ姿である。まるで公園の中に保育所があるようであっ

た。この自然豊かな環境の中、統合保育を実施することにより通常の保育所より少ない人数のグループでの保育を可能にし、予算面でも保育料（行政負担＋保護者負担）と障がい児の給付金を合わせて確保することで、保育士以外の専門職種を確保している。また、多種多様な職種の中に障がい者を雇用している点でも見習うべき点が非常に多く考えさせられた。このような環境の統合教育で育つ子どもたちには、しっかりとした統合教育の理念と目的の基礎がしっかりと育まれると思う。また、各グループの中に男性保育士を必ず1人配置することで、ひとり親家庭の子どもたちへの配慮と取り組みに感心した。保育士等の個々の技術よりも、私や組織そして社会としての意識の部分での違いと遅れを感じるとともに、学ばなければならない部分を多く感じた。

日本との制度に違いはあるものの、理念や目的では進む道は等しく、今後ますますいろいろなことに積極的に取り組み勉強していきたい。

9月8日 (火)

Augusta-Viktoria-Stift  
(アウグスタ・ヴィクトリアアペン／高齢者共存保育所)

所在地：15a-und-Krämpferufer-10, 99084 Erfurt

説明者：Ms. Anette Schuchardt／アネッテ・シューハルト (副施設長)

報告者：岩本 久美子

作成担当グループ：野田 泉子、柊島 たまこ、岩本 久美子



～歴史ある建物の中  
本物の家族のような  
保育園児と高齢者の日常～  
(パンフレット写真より)

## I 施設概要

### 1 沿革

1864年 非営利財団を設立 今年で設立150年

1891年 財団はドイツ皇后の名 アウグスタ・ヴィクトリアより命名

### 2 運営主体

福音派教会

ディアコニー福祉団体 (プロテスタント系)・・・ドイツ6大福祉団体のひとつ

<ドイツ6大公益福祉団体>

①パリテート福祉団体、②労働者福祉団体、③ユダヤ中央福祉会、④ドイツ赤十字、

⑤ディアコニー福祉団体 (プロテスタント系)、⑥カリタス・フェアバンド (カトリック系)



～大木とつたが  
歴史の深さを感じ  
させる趣のある  
建物～

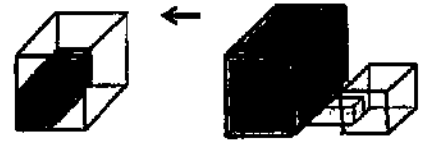


～車いす対応  
配慮のある  
玄関～

### 3 建物の構造

#### 幼老複合施設

高齢者施設と保育園は、庭と通路を配して分棟型ではあるが、高齢者施設の一部に保育室が数部屋含まれる混在型でもある。



<左：老人施設 右：保育園>

### 4 方針

「生命の継承」に焦点を当て、子どもや高齢者が「1つの屋根」の下で、一緒に過ごすことにより人を感知し、保護し、介護の必要な高齢者や虚弱な人に対する思いやりの気持ちを育てる。

世代間の対話を大切にし、老若男女の関わり合いの中、子どもたちは日常の生活の中から社会的スキルを多く学び、高齢者は子どもたちとの関わり合いの中から喜びを感じ、共に活気に満ちた生活を送る。



～清潔感があり、広々とした施設。廊下の壁には、保育園児の絵がおしゃれに飾ってある～



※テューリンゲン州の教育計画7項目について

①言葉、②健康、③自然、科学、④数学、⑤音楽、⑥芸術、⑦社会教育 道徳 宗教

## II 保育園について

### 1 保育方針 目標

- ・ 1歳～6歳までの異年齢児混合保育でグループ（クラス）を構成する中で、お互いに社会性を身に付け、勉強しあう。
- ・ お互いの関係性の中から上下関係やいたわりの気持ち、優しさを育む。
- ・ 子どもたち同士の関係性のみならず、その家族、高齢者とのコミュニケーションやイベント等を通じて、広く社会全体との世代を超えた関係作りを大切にしている。
- ・ テューリンゲン州の教育計画7項目に沿って、一人ひとりの子どもが持っている才能や力を見極め、関心を見つけ、遊びや教育に展開できる保育士の配慮を大切にしている。
- ・ 子どもたち一人ひとりの自由や意見を尊重できる環境の整備、子どもたち同士で話し合い、問題を解決していける力を養う。

## 2 特徴的な活動

キリスト教の精神に基づいてのお祈りや収穫祭、クリスマスの行事等は盛大に祝う。施設の高齢者と一緒に歌やお楽しみ会、工作や料理などを通して、皆で楽しむ。参加のしかたについては、個人の気持ちを優先し、無理強いはしない。

近所や街の人たち全体の交流を通し、大勢の人との関わりの中で社会性を身に付け学習していく。



## 3 保育時間

6:30~17:30 3食付（個々の家庭状態に合わせて）

## 4 園児数（定員）とクラス構成

◎受け入れ・・・1歳～6歳

1・2歳・・・約22名

3・4・5歳・・・各30名～40名

合計…約180名

◎1歳児と6歳児はそれぞれクラス活動

◎2歳から5歳は異年齢混合クラス活動

（誕生日を迎え6歳になった時点で、混合クラスから抜けてプレスクールクラスとなり、就学準備を始める。）



～クラスの集合写真が、それぞれの部屋のドアに貼ってある～

## Ⅲ 高齢者共存保育園の効果

### ～高齢者にとって～

- ・ 子どもたちと触れ合うことで、高齢者の行動力増加につながる。
- ・ 子どもたちが高齢者の話を興味深く聴いてくれることが喜びとなり、生きがいにつながる。
- ・ 一緒に活動することで、身体も適度に動き、健康面にも良い影響を及ぼす。
- ・ 積極的に無邪気な子どもたちと接することで、引きこもりがちだった高齢者に自然と笑顔が戻り、前向きな気持ちになる。

### ～子どもたちにとって～

- ・ 核家族が増える現代社会において、高齢者とのふれあいはとても貴重な経験である。
- ・ 高齢者からゆっくりと話をきいたり、優しくしてもらい、いたわりの心や年上の人を敬う気持ちなどが育まれる。
- ・ 交流の中から、マナーやさまざまな知識などが自然に身に付いてくる。
- ・ 一般の社会生活の中でも、高齢者や年下、ハンディキャップがある人たちに対するいたわりや思いやりの行動ができる。





～高齢者と子どもたちが自由に遊べる庭～



～ゆったりとした保育室～

## 所 感

少子高齢化で、地域社会の人間関係が希薄になっている現代、共存型福祉施設の在り方は、将来的に地域コミュニティの中心的役割を担える場として、これからの日本も今以上に脚光を浴びてくると期待する。年金問題、物価上昇、子どもたちの養育費増大、家族経済の悪化、既婚女性の就労の一般化、保育所不足・・・など、若い世代の諸問題を考えれば合理的解決の一方向性として、三世代家族の見直しがされてくると考えられる。実際、我が保育園地域でも、兄弟の数が3人～4人という家庭もみられ、同居の良さや祖父母の手助けなどが、子育てに良好な結果をもたらしている事例が多く見られるようになってきていると実感する。

高齢者や障害者と共にごく自然に生活することの大切さ。思いやり、いたわり、愛情、などが育まれ自己肯定感の確立、情緒の安定、過去の出来事から現在の出来事まで、歴史的視野で物事を考えられる力が育つ。また、たくさんの人との関わり合いの中から、複雑な人間関係を理解できる。

樋口恵子著「育児は育自・教育は共育」では、「子どもと老人は絶対に切り離してはならない、というのが前提である。人生を十分に生き、やがてその生命を次の世代にバトンタッチしていく老人と、人生の入り口に立った幼な子とが触れ合い、人間の年輪というものを子どもたちに教えていくこと、それは人間の教育で落としてはならないことだと私は思う。人間の出生から老いと死に至る一生のライフサイクルに子どもが直に触れながら育つということは、人生と人間を理解する上での必須課目である。」と書かれている。

まさに、育児は自分育て。教育は共に育つこと。

## あとがき

どこからともなく鐘の音が響く歴史深いドイツ。

多くの世界遺産や偉人たちの歩いた街道。高鳴る鼓動が止まらない。神々しさと厳肅性にあふれたラファエロの聖母像がまぶたに焼き付いている。足元にいる無邪気な天使たちと合わさると、まるで保育士のように。私たち保育士の使命は大変な重責を担っている。それだけに、なんて素晴らしい仕事なんだろう！

自信と誇りを持って頑張っていこうと思った。

～たくさんの感謝の気持ちを込めて～



## — 総合所感 —

- 海外に行くことが初めてだったので、出発の日が近づくにつれその緊張は今までにないものとなっていった。帰国して1週間以上がたち、ようやく落ち着きを取り戻してきた気がする。出発前には2週間も留守にするのでほかの職員に申し訳ないという気持ちを強く持っていたのだが、こんな機会はないから思い切り楽しんで来てねと同僚から声をかけられ、気持ちを奮い立たせて2か国についての下調べをしていった。言い訳になるが忙しくて思ったような準備はできなかったが、そんな中でデンマークの赤ちゃんがベビーカーで昼寝をしている映像を目にして驚いた。実際に視察中にその様子を見ることができたが、子どもたちのかわいい寝顔を見るたびにその国々のやりかたがあるんだなと改めて感じた。日本のこともまだまだ知っていると言えるほど探求しておらず、自分の視野の狭さに改めて気付かされた。今回の研修の中で、いろいろなことをもっと知りたいという前向きな気持ちを持てたことも収穫だった。デンマーク、ドイツは日本とは違う点が多々あったが、どちらの良い所も取り入れつつ、子どもに最善を尽くすという点では他の国と同様に追及していかなければならないと強く感じた。

今回の研修では、高橋団長、関屋副団長をはじめ、各地から集まった団員の方々や添乗員の新堀さんにたくさん助けられたことに深く感謝をしている。いろいろなお話を聞いたことは一生の財産である。本当にありがとうございました。そして、この機会を与えてくださった園長先生と職場の仲間たちに感謝します。  
(北海道：尾田 志保子)

- 移民の問題が毎日のようにニュースで取り上げられるドイツだが、私の担当した保育園がある旧東ドイツでは、移民はおろか、ドイツ人以外をあまり目にすることは無かった。アジア人は珍しいらしく、出会い頭にてっぺんからつま先まで何往復も珍しそうに見られることも度々あった。また差別的態度を露骨にする人もいた。そういった強い反応を示す人の中には驚いたことに若い人も多く、そんな若い人たちを含めて、英語を話す人が、ゼロに等しいくらいにいなかった。これは都市部の大きなデパートでも同様だったので、同じヨーロッパの中での違いに驚くばかりだった。この後、旧西ドイツに移動するが、そこでは移民であふれて、行き交う住人もさまざまな人種で構成され、誰もが皆、英語を話した。まさにインターナショナルだ。我々を物珍しそうに観る人は完全にいなくなり、そこに居るのが当たり前として扱われた。にぎやかな繁華街では、さまざまな場所からドイツにやってきた移民が、繰り返し自分たちの権利を叫びながらデモを行い、その周囲で街の人々は、反感をあらわにするでもなく静観している様子であった。通訳の方にお話を伺うと、旧東ドイツでも英語教育が始まってしばらくたっており、今の子どもたちが大きくなった時には状況が変わるだろう、とのことだった。善しあしの判断は全くつかないが、旧西ドイツと旧東ドイツに大きな違いがあることは事実で、旧西ドイツが移民の問題を抱えているのも事実であることが分かった。ドイツの歴史の一部と、抱える問題の深さを感じることができた。

この海外研修で予測していた不安やストレスがまるで無く、ホームシックさえ無かった。団長さんと副団長さん、参加された先生方のお力だと感じている。特に団長さんと副団長さんは優しく穏

やかなお人柄で、決して人を責めずに見守りながら必要なサポートをし、チームを徐々にまとめ導いていく方法を学ぶことができた。一生の宝になるであろう学びと出会いの機会を与えてくださったことに心から感謝申し上げたい。

(群馬県：平泉 由美子)

◎ この度は、デンマーク・ドイツの保育海外視察に参加させていただいた。

視察初日から日本との制度の違いに圧倒され、同じレベルで見たり聞いたりすることが間違っている、その国ならではの保育のしかたがあるのだと自分の気持ちを切り替え視察に臨んだ。緊張していたものの、子どもと触れ合う中でコミュニケーションは取れなくても遊びを通して分かり合えた気がする。子どもたちのために、どのような保育を行うのか、どのような取り組みが必要なのか、一人ひとりの持つ環境に対してどのように援助していくかということをお大切に、行政が入り保育園と一体になっているということが基本にあり、しっかりと組み立てられている。今回の視察の中で、特に関心をもって訪問したのが健常児と障がい児が共に生活する施設だった。ふと、足の悪い子どもに手を差し伸べると、女兒が数人寄ってきてその子どもの両脇で手をつなぎ、ゆっくりと歩行の手助けをした。障害がある子どもに対して優しく接することはもちろんだが、その子どもにあったカリキュラムを保護者・保育関係者・行政が話し合い、本当に子どもの育ちに合った保育が進んでいる感じだった。ふとした瞬間の子どもの姿から、ふだん保育の中で先生たちが大切にしている子どもへの配慮や、子ども同士の関わりが見られた気がした。

日本に戻り自施設でも報告をし、保育の違いを少しでも感じてもらえたらと思う。日本人が訪問するということで日本の国旗や習字をまねて大きく装飾し歓迎してくれたり、詳しく丁寧に保育の取り組みについて説明してくれた各関係の皆様感謝いたします。児童班12名の皆様、この研修でお世話になった添乗員の新堀さん、通訳の方々と共に歌った歌は今後も忘れることはないと思う。このような貴重な体験をさせていただき、本当にありがとうございました。

(東京都：野田 泉子)

◎ 今回は海外研修という貴重な経験をさせていただき機会を与えていただきありがとうございました。2週間もの研修期間は不安な部分もあったが、理事長先生、園長先生をはじめ、諸先生方の温かい励ましと支えにより行かせていただくことになった。

今回の視察先、デンマーク・ドイツは福祉先進国であり、子どもを取り巻く環境や保育の在り方を少しでも学べるいい機会だと思った。各施設の環境設定からは学ぶことも多く、コーナーの使い方、部屋の装飾、配置のしかたなど、彩りもきれいで、見ていて楽しい気分になり、自分の保育園でも取り入れたいと思った。また、どの施設も園庭がとても広いことに驚いた。安全面で少し疑問に思うこともあったが、子どもたちは好きな遊びを見つけて伸び伸びと遊んでいた。遊びを通してルールや友達との関わり方、協調性、社会性など多くのことを学ぶ機会にもなっていた。また、どちらの国も共通していることは「子ども主体の保育」であることだった。子どもが自分の意見をしっかり持ち、発言できる保育を行っていた。プロジェクト保育もやり方しだいで子どもの能力を育てられると思うので、これから取り入れていきたいと思う。

デンマークでは午睡が戸外であることに驚いた。日本では考えられないが子どもの成長を考えてのことに、国によっていろいろな考えや対処法があることに驚きを感じた。

今回の視察を通し、新しい発見や驚きの連続だったが、とてもいい経験ができたと思う。この経験を私一人の物にせず職場の皆にしっかり伝え、より良い保育ができるよう皆で目指していきたいと感じた。

最後に、高橋団長をはじめ関屋副団長、添乗員の新堀さん、通訳の皆様、そして団員の皆様、本当にありがとうございました。  
(神奈川県：長谷川 里織)

- 今年度民間社会福祉施設職員等海外研修・調査（児童班）として派遣していただき、心より感謝申し上げます。ありがとうございます。

国内における他園の視察では、さまざまな環境や保育内容などの違いを感じていた。制度も環境も文化も違う欧州への視察は、情報収集と他国を学ぶことで気持ちがいっぱいになった。

デンマークで視察したレッジョ・エミリア方式の乳幼児園が最も印象に残った。事前学習で子どもたちも保育者も習得のプロセスを参加・共有する、というレッジョ・エミリア方式の特徴でもある教育方法は、人的環境(保育者の資質)が重要となってくると理解していた。デンマークの園では、ペダゴギーが「遊びを共有する」という方法で、子ども任せではない、「知識を育む」ことが実践できているように感じた。科学的要素を含め、子どもたちの発見の豊かさには驚かされ、その発見の仕掛けを自然の中で準備することのできるデンマークの自然環境はすばらしいと感じる。今回の視察において、最も関心の高かった「教育」へのアプローチにおいては、子どもが安心する環境づくりや基本的な生活習慣の自律の要素と、コーナー遊びなどによる子ども主体のあそびの姿が見られた。デンマーク、ドイツ、いずれの国も、就学前では文字や数といった学習的要素にも力を入れている様子であった。一方、フレーベル教育の園での取り組みは2歳から図形や折り紙など集中力を養う活動が中心に感じられ、視察した園の良いところばかりを取り入れた教育の実践にわくわくとした気持ちになった。

今回、視察するにあたり、レッジョ・エミリアの展覧会についての本を読んだ。展覧会とはその園で実践された知識の形成における子どもたちの参加の成果を確実に伝えるものであり、子どもたちにとっては、成果を認め、目に見えるものにするすることで、参加の存在意義を得る。そしてそれは、保育者、保護者の意義にもなり得る。と記されていた。わが園でも行っている作品展の意義を改めて確信し喜びを感じた。

より良い子どもの育ちを支えるための人的環境である保育士やペダゴギーの社会的地位が教育者より低い現状は日本、デンマーク、ドイツ、皆同じであった。このためロスキルデ市においては地位向上、処遇改善に向けて研究所が開設されたそうである。日本でも、東京大学 Cedep（発達保育実践政策学センター）が設立されたことは、今後日本が「知識の発達」という面で世界の先を歩いていけることを願い、調査報告を今後の保育研究に役立てていくことの使命も感じた。

貴重な13日間をありがとうございました。  
(神奈川県：高木 麻里)

- ◎ 正午を告げる鐘の音とともに、ゲーテはマイン河畔のフランクフルトで生誕した。世界遺産の宝庫ドイツ！バロック様式の町並みからは、どこからともなく鐘の音が歴史の深さを知らせてくれる。ゲーテ、バッハ、ヴァーグナーをはじめとする偉人の軌跡をたどるゲーテ街道。美しく歴史ある街、華麗な城・宮殿、ユネスコ世界遺産、芸術、文化、深い歴史に出会える国ドイツ。ラファエロの聖母画が鮮明にまぶたに浮かび、保育士の象徴のような微笑だった。

デンマークは大小400以上の島々、そしてドイツと陸続きのエトランド半島からなる小さな国でも、見どころは多彩。コペンハーゲンはもちろん、近郊の森林地帯に点在する歴代王室の古城、アムデルセン生誕の地オーデンセのかわいらしい町並みなど、おとぎの国そのもの。

そんな歴史とロマンあふれるデンマークとドイツで、夢のような研修に胸を躍らせた。

福祉大国であり、消費税は高額だが、国連の幸福度調査では常に上位であるデンマーク。メルケル首相を代表として女性の社会進出が高く、合理的に仕事をこなす余暇を楽しむ。海外旅行が大好きな国民で、10人中9人は1年に1回は出国しているというドイツ。移民の増加や経済のグローバル化と格差の拡大など、社会的な構造の転換が幼児教育に対して影響を及ぼし始めていることも見過ごすことはできない。OECD 保育白書が指摘するように、世界の幼児教育は大きく2つの類型に分けられることを切実に感じた。①就学準備や教育面を重視するような幼児教育と、②幼児期を想定するペダゴジーの伝統に則り、生涯学習の基盤として幼児期を位置づけ、ケア、養育、教育に対するの包括的な幼児教育である。ドイツとデンマークは後者の②を推進してきたと言われている。しかしながら、日本でも同様であるが、ドイツ、デンマークでも保護者の養育力の低下が見られ、親支援の質の向上と同時に、子どもの生きる力を育みながら、学力支援の必要性も重視されてきていると感じた。日本においても、これまで積み上げてきた勤勉性を土台にさらなる幼児教育の質の向上のため、政策的、制度的、実践的な取り組みが進んでいくだろうし、私たち保育士自身も強い使命感をもって子どもたちの未来に向けてより頑張っていきたいと感じた。今回、自分自身の人生においてこんなにも刺激的な研修に参加することができ、本当に幸せに思う。研修参加に際して、快く応援し仕事のサポートをしてくださった理事長先生、園長先生はじめ職場の皆様。主催者である試験センター様、一緒に参加してくださった高橋団長、関屋副団長はじめ10名の皆様、参加者の心のよりどころであった添乗員の新堀さん、本当にお世話になりました。貴重な体験や感動をしっかりと心に刻み、得たものを皆さんへの感謝の気持ちとともに、精一杯仕事に生かしていく所存である。ありがとうございました。 (新潟県：岩本 久美子)

- ◎ 今まで日々の仕事に追われ、目の前のことに精いっぱいだった私が、今回思いがけずこの話を頂き、行政のことやいろいろな保育思想があること等詳しく知らないのに、大丈夫なのだろうかと不安を抱くとともに、新しい環境で自分の知らないことをもっと学んでみたい、と期待に胸を膨らませたことを思い出す。

緊張で出発の日を迎えたが、皆、保育に携わる仕事をしていることもあって、すぐ和やかな雰囲気になり楽しく過ごさせてもらうことができた。

デンマーク・ドイツの事前学習を行う中で自分の園の保育と通じる部分が多く、異年齢保育やコー

ナーの環境設定、人的環境はとても興味があった。視察してみると、どの園も広大な敷地の中に、子どもたちの楽しそう、やってみたいと思えるような教材や遊具があり、そこで伸び伸びと遊んでいる子どもたちの姿、子どもの意思を尊重しながらできるまで待ち、保育士間で連携を取り合っている子どもたちを見守る保育士の姿があり、私は危機管理が優先してしまい、子どもに静止の声を掛け過ぎているなど反省した。そして子どもの話をよく聴き、何に興味を持っているのかに気付き環境作りをする大切さを改めて感じ、自分の保育にも生かしていきたいと思った。文化や価値観の違いもあったが、子どもの育ちを願って保育をしていく姿勢はどこも共通であり、一番大切な時期にさまざまなねらいをもって保育をしていく保育士の処遇も、日本同様もっと向上してほしいという思いは同じだった。また、行政から保育制度や監査の説明を受け、日本よりもっとシンプルで、保育士が机に向かう時間より子どもと関わる時間を大切にしていることや、子どもを中心に保護者と施設と行政が連携を取っていることがわかり、日本の保育制度ももっと子どもが主体となるような制度であればと羨ましくもあった。

2週間の研修で視察はもとより、他の先生方と行動を共にする中で情報交換をし、自分の考えや視野を広めることができ、異国の文化を肌で感じることができ、私の大きな財産となった。ありがとうございました。(長野県：内山 奈々)

- ◎ ロスキルデ市ではコミュニケーションで保育制度の講義を受け、施設を見学した。子どもたち一人ひとりを大切に、遊びの中で人・自然と関わり社会性を身に付け、人としてどうあるべきかを学べる保育が行われていた。子どもたちが主体となり、自分で何をどこまでするかを決める、自分の意見はしっかりと主張する、その手助けとして保育士が子どもと同じ立場で関わっていたのが印象的だった。ゆったりとした時間が流れ、子どもたちが伸び伸びと遊ぶ姿に癒やされると同時に、羨ましくもあり、慌ただしく保育している自分を反省した。また保育士や保育ママの意識の高さに感銘を受けた。特に保育ママは保育の専門性が高く、自信を持って保育に取り組んでいる姿が印象的であった。チューリンゲン州ではさまざまなタイプの施設を見学した。どれも大きな施設で室内環境が整っていた。ロフトのある保育室や明るい色調の玩具、教材が子どもたちの使用しやすいよう配置してあった。自然物を使用した子どもの作品も飾っており、掲示方法の参考となった。ペットボトルやせっけんなど身近にあるものを利用する科学遊びが興味深く、取り組んでみたい内容であった。

保育現場を見学し、行政の話も聞き羨ましいと思うが、実際日本では環境、安全面や衛生面等、導入が難しい点の方が多かった。しかし、子どもたち一人ひとりを大切にすることの重要性、気持ちに余裕ある保育をすることの大切さを改めて考え、そのためにはどのような工夫が必要かを考える機会となった。また、日本の給食の栄養がとれバラエティ豊かなメニューのありがたさを痛感した。研修出発前は不安で憂鬱だったが、13日間でたくさんの方と出会い、文化に触れる貴重な経験をすることができて爽快な気分で帰国した。

多忙の中、歓迎してくださった現地の方々、軽快なハーモニカで団員を率いてくださった高橋団長をはじめ、関屋副団長、相談に乗ってくださった団員の皆さま、トラブルにも即座に対応してくださった新堀さん。そして快く送り出してくださった園長先生はじめ園の職員に心から感謝申し上げます。

げたい。この研修で学んだことを今後の保育の向上に役立てていきたい。

(福岡県：青柳 治美)

◎ 大変すばらしい研修だった。

事前に視察先の文化や保育概要などをできるだけ理解しておこうと文献をいくつか読んで研修に臨んだが、実際に保育施設を見て、感じて、職員の方々に話を伺うことで、より深い実情を知ることができた。そのため、福祉が先進的だという理由と保育観の違いが多少なりとも理解できた。

福祉が先進的と感じた理由は、デンマーク、ドイツどちらも行政と施設と保護者が一体となり「子どものより良い成長」を中心にして互いに協力を惜しまない。そのためだろう、施設一つ一つには十分な人員配置と余裕のある園庭が備わっているなど、人的、物的環境が豊かで職員の教育制度も整えられていた。それでもなお、施設と保護者は子どもの成長のためには人員を増やして今よりも良い環境を与えるべきだという。

保育観においては、欧米では「個人」を重視し尊重することで自己決定したことに責任を持たせている。自分が選択した行動の結果から自分を理解することができ、自分とは違う「他人」も認めることができるということだった。それが自立に結び付くという流れになっていた。日本も自立に向けて「個人」を尊重するが、周囲のことも気遣って自分の考えや行動を寄り添わせる「和」も尊ぶ点があり、集団の力を発揮させる保育内容が多々ある。こうした保育観の違いも大変興味深く、そうした育て方が国民性につながっていくのだと深く感じた。

これら環境整備、保育観の違いはあれども、子どもに関わる保育者の意識を今必要だと感じる方向に転換させていけば、各施設内で取り組むことのできることはどんどん見えてくる。まずはそのために、この研修で学んだ保育観で取り入れるべき点を職員間で共有していこうと思う。そして保護者、地域と広げていきたい。

最後にこの研修期間がとても有意義であったことについて、訪問先の行政と施設の方々、共に受講した皆さんに感謝いたします。ありがとうございました。(福岡県：桃島 たまこ)

◎ 海外研修参加に際し、初めは長期にわたって職場や家庭を留守にすることへの心配と不安があったが、国を超え、広い視野で物事を観る機会を頂き、心から参加できて良かったと思う。

デンマークとドイツの保育施設を視察して強く感じたことは、「文化や習慣、言語が違って子どもたちは全然変わらない」ということだ。キラキラした目の輝き、我先にと興味深そうにのぞいてくる愛くるしいまなざしは、日本の子どもたちと何一つ変わりなく、言葉は通じなくても心を通わせることができるのだと安心した。まるで公園のように広大で自然豊かな園庭で、力いっぱい駆け回る子どもたちの姿は、今でも忘れることができない。

通訳をしてくださった三浦さんが、「デンマークでは、子どもたちに小さい時から、自分で考える力、自分の意見を述べる力を身に付けさせることを重視している」、「子どもは子どもらしくという考えが基礎にあり、公共の乗り物や施設において『～してはダメ』『～さんに迷惑がかかる』等は言わない」とおっしゃっていた。今回の訪問で、基本は全てここにあるのだと実感した。集団保

育ではなく個を尊重し、好きな場所で好きな遊びを見つけて伸び伸びと遊ぶ。そのための環境作りは大人がしっかりと行い、子どもの発達へとつなげていく。しかし自由の中にも決まりはあり、子どもたちそれぞれが自分の行動に責任を持つ。参考にすべき点が多々あった。

また、デンマーク、ドイツ両国に共通する「子どもたちの目にはできるだけ自然の光で」という考えから電気を最小限に抑え自然の光で生活するスタイルは、ぜひ取り入れていこうと思う。町なかで大中小さまざまなローソクが所狭しと売られており、公共の場所でもローソクの光が使われ、国全体で環境に優しい取り組みが行われていたことには、日本人として考えさせられた。

最後に、一生の思い出に残るすばらしい研修の機会を与えてくださった皆様に心から感謝します。また、団長の高橋先生をはじめ、副団長の関屋さん、児童班の皆様方、関係者の方々、本当にお世話になりました。ありがとうございました。(福岡県：永野 浩子)

- ◎ まず初めに、約2週間の長期にわたり憧れの北欧デンマーク、そしてドイツに行き行政訪問での制度・施策の説明。保育所等の現場での視察研修ができたことは私にとって最大の喜びと、今後の保育・福祉に携わる上での大きな経験になったことを、社会福祉振興・試験センターに深く感謝したい。

デンマーク、ドイツの保育所は、私たちの知る日本の保育所とはかなり違い、園庭に起伏を作り緑に囲まれた環境の中、子どもたちが伸び伸びと思い思いに遊び過ごしている。設定保育等はあるものの、基本は遊びを通し子どもたちの成長を育てている。特にデンマークでは、乳児の頃から、外気に触れることで子どもの気管支機能を鍛えとされ、真冬でも外気の中でお昼寝をする習慣がある。幼児になっても子どもたちは、雪はもちろん、小雨程度まではカップを着て園庭で元気いっぱい遊んでいる。また、園庭には、ファイヤープレイスもあり、日頃から子どもたちが簡単な調理をしたり、冬には火を囲んで遊んだりできるようになっている。常に自然と一体となった保育環境の中、子どもたちがたくましく元気に成長する姿、そこに寄り添う保育士の姿を羨ましく感じる。

日本では、このような保育をしていると、まず最初に子どものケガのことを考えるが、トルホルホイの園長の「私たちのケガへの恐れが、子どもたちの成長・発達にブレーキをかけることが問題だと思っている。」の言葉に驚きと共感を覚えた。

確かに私たちも、子どもたちの成長にも失敗は付きもので、特に子どもたちの遊びの中にはケガや失敗が付きものである。大きな事故につながらない程度、子どもの成長に最初の段階でブレーキをかけないよう気を付け、気に掛けながら保育士が連携し保育に取り組みたいと思う。またイベント重視の保育スタイルなどにも気を付け、本末転倒にならないようにしたいとも思う。特に改善したい取り組みの一つは、今回の視察研修で感じた、保育士の記録等のペーパーワークの量の違いである。日本の保育所の日常の中に多く存在する煩雑な記録書類・提出書類等の簡素化を図り、保育士がゆとりをもって子どもと関わることでより成長に寄り添える保育環境を作りたい。

(佐賀県：川原田 知章)